

第 2 次南丹市総合振興計画

# 基本構想

たたき案

2017.7.21 現在

# 南 丹 市

◎基本構想構成案

参考：第1次南丹市総合振興計画	第2次南丹市総合振興計画（基本構想）	
第1部 基本構想	序章 計画策定にあたって	
<p>1 「南丹市総合振興計画」とは 計画の目的／構成と期間</p> <p>2 まちのすがた、これまでの歩み 合併による南丹市の誕生 現在の南丹市の姿</p> <p>3 まちづくりへの市民の思い アンケート結果</p> <p>4 まちを取り巻く動向 地方自治の変遷／社会情勢の動向</p> <p>5 活かしたい特性と取り組みたい課題</p> <p>6 私たちがめざすのは、こんなまち まちづくりのテーマとめざす将来の南丹市のイメージ まちづくりの基本目標</p> <p>7 人口フレーム 定住人口／交流人口</p> <p>8 将来のまちのすがた ゾーン形成／拠点形成／交流軸形成</p> <p>9 基本構想の実現に向けて</p>	<p>1 計画策定の趣旨</p> <p>2 計画の特徴</p> <p>3 計画の構成と期間</p> <p>4 関連する個別計画等</p> <p>5 計画策定の体制</p>	
	第1章 現在の南丹市のすがた	
	<p>1 南丹市の地域特性 位置・沿革／人口・世帯の状況 産業の状況／財政の状況 まちの魅力 まちづくりへの市民の思い</p> <p>2 南丹市を取り巻く社会潮流</p> <p>3 南丹市の基本課題</p>	
	第2章 未来の南丹市のすがた	
	<p>1 まちづくりの基本理念</p> <p>2 めざすべきまちの将来像</p> <p>3 人口フレーム</p> <p>4 土地利用基本構想</p> <p>5 まちづくりの進め方</p> <p>6 まちづくりの大綱</p>	
第2部 基本計画	第3章 未来を実現するための取り組み	
<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る</p> <p>第3章 人・物・情報を高度につなげる</p> <p>第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く</p>		
	第4章 施策連携プロジェクト	
資料	資料	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果</li> <li>・ 審議会委員名簿</li> <li>・ 諮問書／答申書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審議会条例</li> <li>・ 策定体制／経緯</li> <li>・ 用語解説</li> <li>等</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート結果</li> <li>・ 審議会委員名簿</li> <li>・ 諮問書／答申書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 審議会条例</li> <li>・ 策定体制／経緯</li> <li>・ 用語解説</li> <li>等</li> </ul>

# 序章 計画策定にあたって

---

## 1. 計画策定の趣旨

南丹市は、2006（平成 18）年 1 月 1 日に園部町、八木町、日吉町、美山町の 4 町が合併し誕生しました。2008（平成 20）年に策定した「南丹市総合振興計画」（以下、「第 1 次計画」）では、『森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市』を将来像として設定し、将来像の実現をめざして総合的かつ計画的にまちづくりを進めてきました。

地方分権の流れの中、2011（平成 23）年の地方自治法の改正により、総合振興計画（基本構想）については法律上の策定義務がなくなり、策定については各自治体の判断に委ねられています。しかし、南丹市を取り巻く社会情勢の急激な変化等により、これまで以上に、自立した自治体経営と地域特性を生かした総合的なまちづくりが求められています。

また、2015（平成 27）年度に策定した「南丹市人口ビジョン」では、2060（平成 72）年には人口が 18,000 人程度にまで減少することが予測されています。少子高齢化による人口構造の変化や人口減少は、南丹市における経済活動やコミュニティ活動等の活力を衰退させ、ひいては南丹市における安定した生活・暮らしそのものの存立を脅かす事態になることが危惧されます。

このような状況認識のもと、南丹市では「定住促進」を市の最重要課題のひとつとして定め、2014（平成 26）年度に「南丹市定住促進アクションプラン」（計画期間：2014～2017 年度）を策定しました。さらに 2015（平成 27）年度には「南丹市地域創生戦略」（計画期間：2015～2019 年度）を策定し、定住促進の取り組みを総合的かつ効果的に進めています。

本計画においても、「定住促進」を重点テーマとして掲げるとともに、南丹市の魅力や特徴を十分に発揮しつつ、社会情勢の変化等によるさまざまな課題に対応し、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めるため、2018（平成 30）年度以降の『まちづくりの方針』となる「第 2 次南丹市総合振興計画」を策定します。

## 2. 計画の特徴

### (1) 市民の声を生かした市民にわかりやすい計画

計画の策定過程にあたっては、市民意識調査や市民ワークショップ(なんたんキャラバン)、市民意見募集手続(パブリックコメント)などの機会を通じて、広く市民の意見を集約しています。また、南丹市のまちづくりを進めるための考え方や基本方針を、市民の視点に立ち、簡潔でわかりやすく示した計画としています。

### (2) 社会経済情勢の変化に的確に対応する計画

人口減少や少子高齢化、地方創生の取り組みなど、社会潮流が南丹市にもたらす影響を的確に把握し、これらに柔軟かつ適切に対応する計画としています。

### (3) 個別計画と連携を強化し、実効性を高めた計画

第1次計画に基づき、分野ごとの施策を定めた個別計画との連携を強化するとともに、施策ごとに成果指標を掲げることで進捗管理を明確にし、実効性を高めた計画としています。

## 3. 計画の構成と期間

第2次南丹市総合振興計画は「基本構想」「実施計画」の2層により構成します。それぞれの期間と役割は、次のようになっています。

### (1) 基本構想

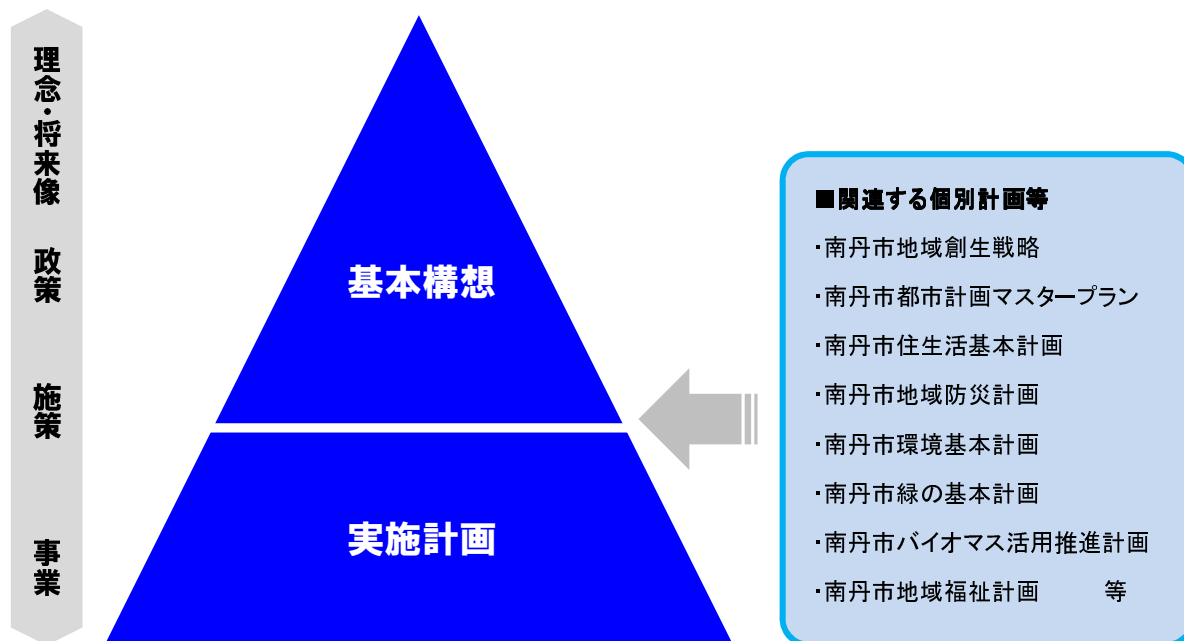
南丹市がめざすまちづくりの基本理念やめざすべき将来の方向性を明確に示し、市民、事業者の皆さんと共有するとともに、それらを具現化するための成果指標を掲げ、その達成のための政策や施策の方針を体系的に定めます。

計画期間は、2018(平成30)年度から2027(平成39)年度の10年間ですが、社会経済情勢や市民ニーズの急激な変化にも対応できるよう、5年をめぐりに見直しできるものとします。

### (2) 実施計画

基本構想に定めた施策の方針を財政的な裏づけをもって実施していくために、具体的な事業として示すものです。3か年の計画をローリング方式により毎年度策定し、実効性の高いものとします。

## ■計画の構成（イメージ図）



第1次計画では、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成されていましたが、第2次計画では基本構想と実施計画の2層構成とします。

## ■計画の期間

年 度	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)	2025 (H37)	2026 (H38)	2027 (H39)
基本構想	<p>計画期間10年間</p> <p>-----&gt;</p> <p>社会情勢や市民ニーズ等の急激な変化に対応するため、5年をめぐりに計画の見直しが可能</p>									
実施計画	<p>-----&gt;</p> <p>3年間の計画を毎年度見直し</p>									

## 4. 関連する個別計画等

### (1) 南丹市地域創生戦略との整合

定住促進の取り組みを総合的かつ効果的に進めていくため、2015（平成 27）年に「南丹市地域創生戦略」（計画期間：2015～2019 年度）が策定されましたが、第 2 次南丹市総合振興計画においても「定住促進」が重点テーマであるため、戦略の計画期間である 2019（平成 31）年度までは、南丹市地域創生戦略の各施策を本計画の重点施策と位置づけます。

### (2) その他の個別計画等との整合

都市計画マスタープランや地域福祉計画など、関連する個別計画等との整合を図ります

#### ■関連する個別計画等一覧

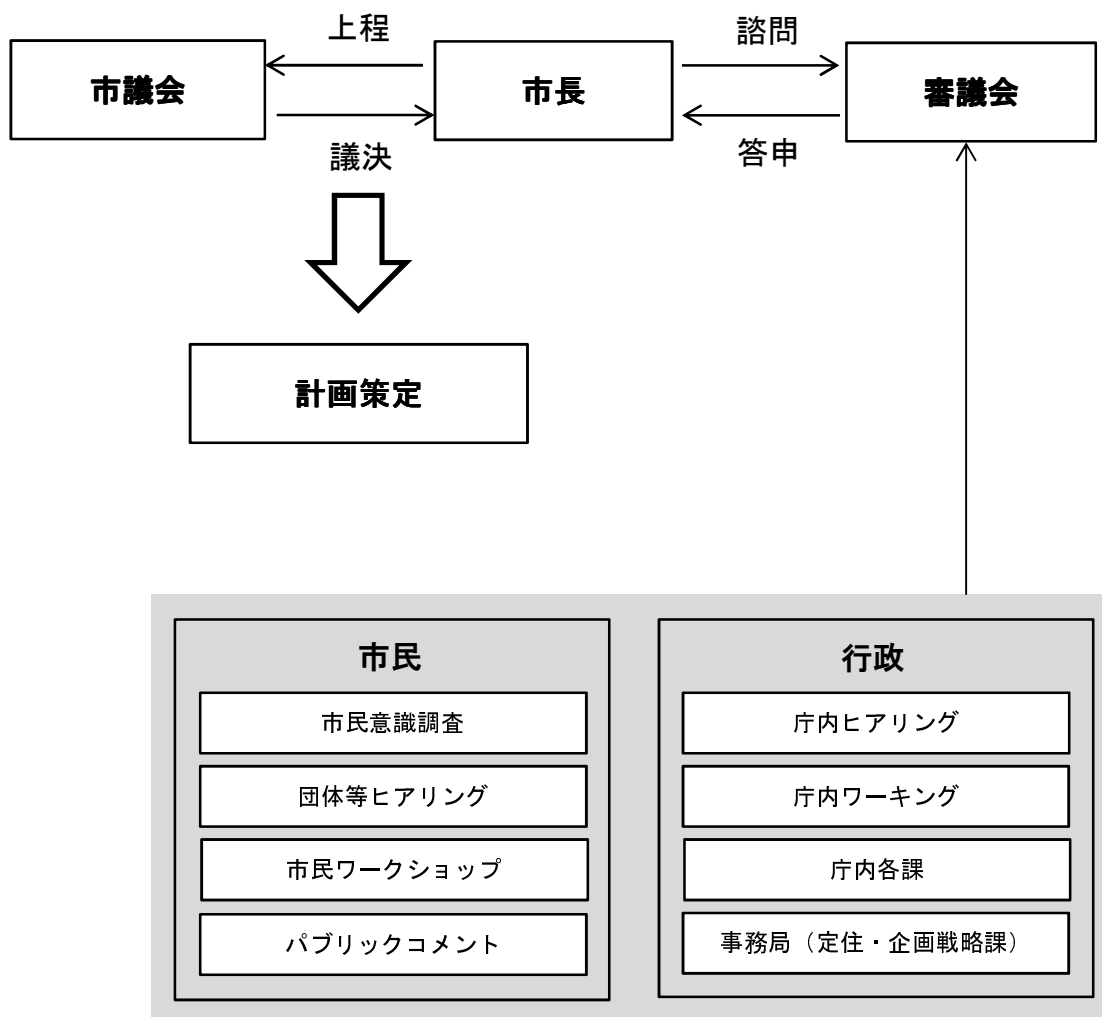
分野	計画名	計画期間
まちづくり 定住促進	南丹市新市建設計画	2005（H17）～2020（H32）年度
	南丹市人口ビジョン	2015（H27）年度～
	南丹市地域創生戦略	2015（H27）～2019（H31）年度
	南丹市定住促進アクションプラン	2018（H30）～2022（H34）年度
	南丹市過疎地域自立促進市町村計画	2016（H28）～2020（H32）年度
土地利用 基盤整備	南丹市都市計画マスタープラン	2008（H20）～2027（H39）年度
	南丹市住生活基本計画	2011（H23）～2020（H32）年度
	南丹市公営住宅等長寿命化計画	2012（H24）～2021（H33）年度
	南丹市立地適正化計画	2017（H29）年度～
	南丹市水道ビジョン	2010（H22）～2019（H31）年度
	南丹市生活排水基本計画	2016（H28）～2020（H32）年度
環境 景観	南丹市環境基本計画	2011（H23）～2020（H32）年度
	南丹市バイオマス活用推進計画	2015（H27）～2024（H36）年度
	南丹市バイオマス産業都市構想	2015（H27）～2024（H36）年度
	南丹市緑の基本計画	2008（H20）～2027（H39）年度
	南丹市美山エコツーリズム推進全体構想	2014（H26）年度～
	南丹市景観計画	2014（H26）年度～
健康 福祉	第 2 次南丹市健康増進・食育推進計画	2017（H29）～2026（H38）年度
	第 2 期南丹市地域福祉計画	2013（H25）～2017（H29）年度
	南丹市子ども・子育て支援事業計画	2015（H27）～2019（H31）年度
	南丹市高齢者福祉計画・第 6 期介護保険事業計画	2015（H27）～2017（H29）年度
	南丹市障害者計画	2012（H24）～2017（H29）年度
	第 4 期南丹市障害福祉計画	2015（H27）～2017（H29）年度

分野	計画名	計画期間
教育 スポーツ	南丹市教育大綱—南丹市教育振興基本計画—	2014 (H26) ～2017 (H29) 年度
	南丹市いじめ防止基本方針	2014 (H26) 年度～
	南丹市スポーツ推進計画	2018 (H30) ～2022 (H34) 年度
人権	南丹市人権教育・啓発推進計画	2008 (H20) ～2017 (H29) 年度
	南丹市男女共同参画行動計画	2009 (H21) ～2018 (H30) 年度
行財政	南丹市中期財政計画	2014 (H26) ～2017 (H29) 年度
	第3次南丹市行政改革大綱	2017 (H29) ～2021 (H33) 年度
	南丹市公共施設等総合管理計画	2017 (H29) ～2026 (H38) 年度

## 5. 計画策定の体制

第2次南丹市総合振興計画を策定するにあたっては、市民と行政がともに南丹市の未来を考える計画づくりを策定方針としました。そのため、市民意識調査や団体ヒアリング、市民ワークショップ、パブリックコメント（市民意見募集手続）などを通じて、市民が計画策定に関わる機会を数多く設けました。市民一人ひとりのニーズや意見を積み上げた上で、庁内において各課ヒアリングや庁内ワーキング等を実施し、計画の原案を作成しました。南丹市総合振興計画審議会への諮問・答申を経た後、市議会の議決を得て、「第2次南丹市総合振興計画」の策定となりました。

以下に、第2次南丹市総合振興計画の策定体制を示します。





# 第 1 章 現在の南丹市のすがた

---

## 1. 南丹市の地域特性

### (1) 位置・沿革

#### ① 位置と地勢

南丹市は、京都府のほぼ真ん中に位置しており、北は福井県や滋賀県、南は兵庫県や大阪府、西は綾部市や京丹波町、東は京都市や亀岡市に接しています。面積は 616.40 平方キロメートルで、京都府の 13.4 パーセントを占める大きなまちです。

地勢については、緑豊かな自然に恵まれた地域となっています。大半を丹波山地が占め、北部を由良川が、中・南部を淀川水系の桂川（大堰川）が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成されて、南部は亀岡盆地につながっています。年の平均気温は 13 度前後で、山陰内陸性気候となっています。

道路については、市の北部に国道 162 号、南部に国道 9 号や国道 477 号、国道 372 号、京都縦貫自動車道が走っています。また、市内を走る各府道が国道へのアクセス道路となっています。

鉄道については、南東の京都市から北西にかけて J R 山陰本線が走っており、京都市などの通勤圏にあり、京都・園部間は複線化されています。

#### ■位置図

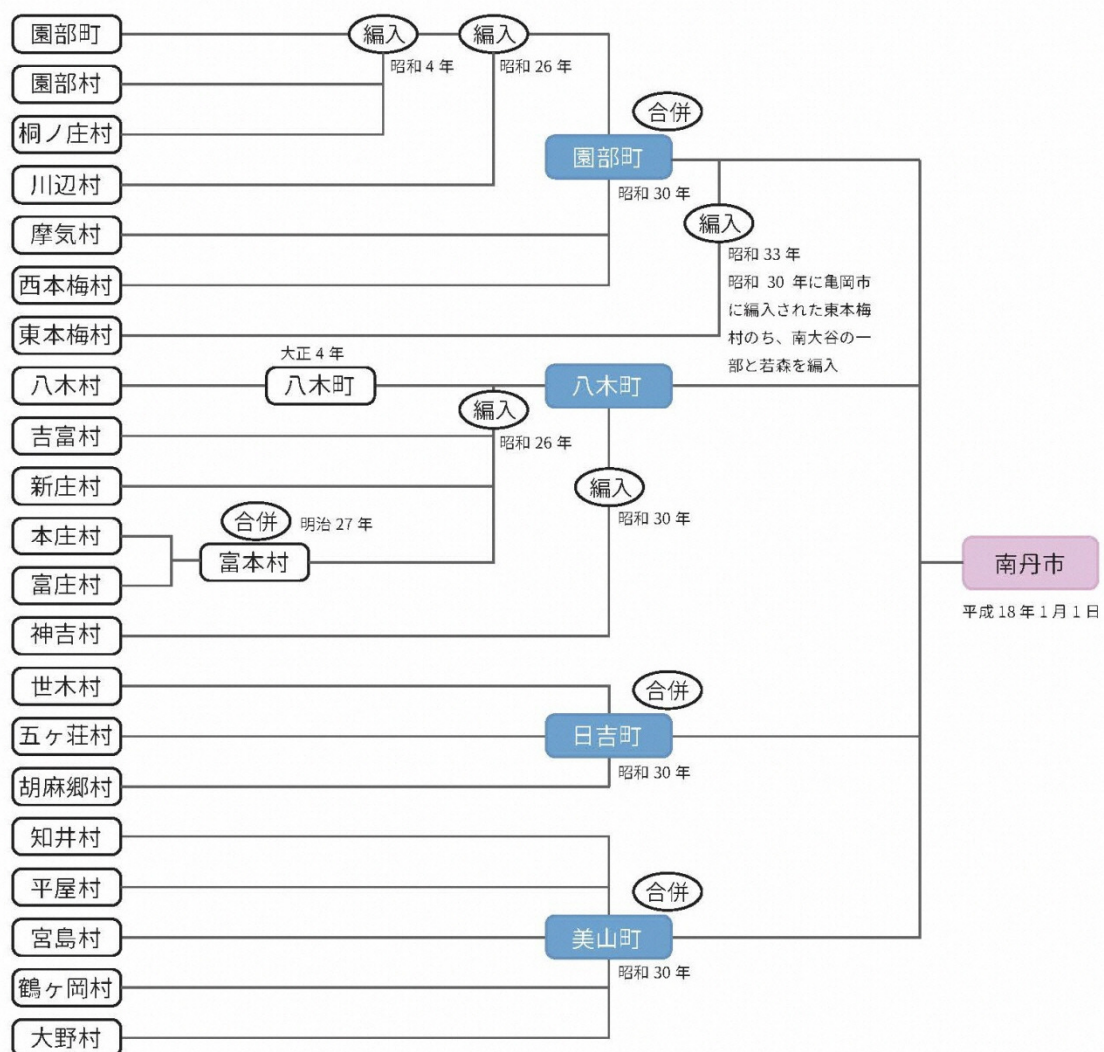
※広域図及び市域図挿入予定

## ② 沿革

南丹地域は、京都府と兵庫県にまたがる「丹波」の南部のことで、現在の南丹市、亀岡市、京丹波町を含む地域です。古くは丹波国の国府や国分寺がおかれ、丹波国の政治・文化の中心地として丹波国を支え、各時代の権力者からも重視されるなど、わが国の歴史において重要な役割を果たしてきました。

南丹地域の多くは森林で、丹波高原と丹波山地の中に、いくつもの盆地や谷がつくられています。これらの中に城下町や村落がつくられ、山に囲まれたそれぞれの地域が独自の生活・文化・経済圏を形成してきました。また、丹波高原を平地分水界として、太平洋に注ぐ桂川と日本海に注ぐ由良川の二つの異なる水系があり、それぞれに異なる生活文化圏として歩んできました。また、山陰街道、山陰古道、篠山街道など各方面を結ぶ街道が行き交う地域でもあり、交通の要衝として発展し、街道には多くの人や物資が行き交いました。このように南丹地域は、さまざまな人的・物的資源によって、都や日本の歴史を支え、時に歴史を動かしてきた地域です。

そして、平成18年1月1日、京都府船井郡の園部町、八木町、日吉町、および北桑田郡美山町の合併により「南丹市」が誕生しました。



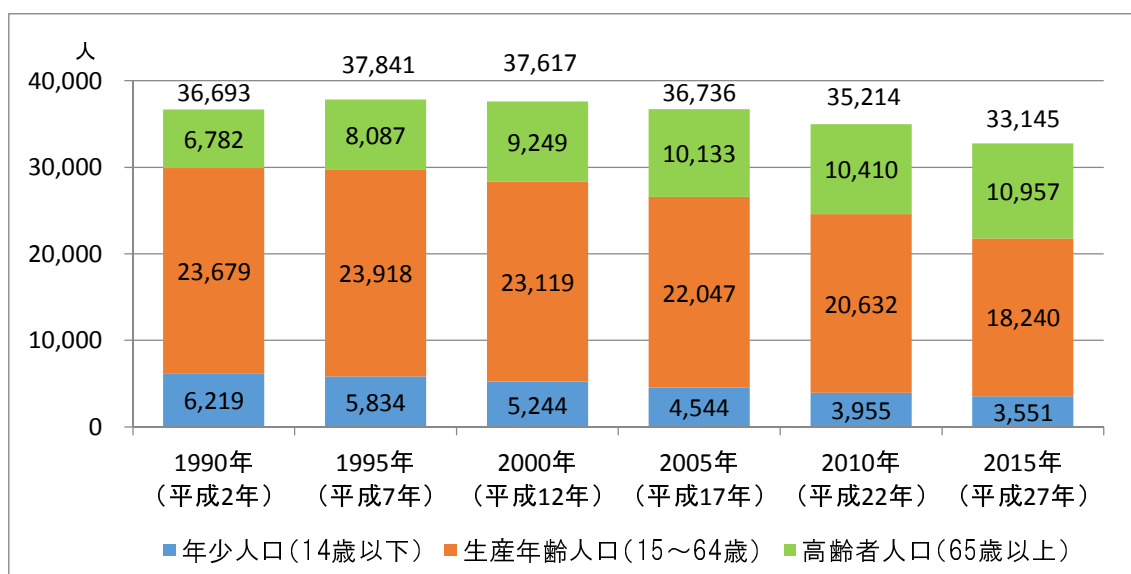
## (2) 人口・世帯の状況

### ① 人口

近年の南丹市の総人口は、1990（平成2）年から1995（平成7）年にかけてやや増加しましたが、それ以降は減少が続き、2015（平成27）年現在で33,145人となっています。

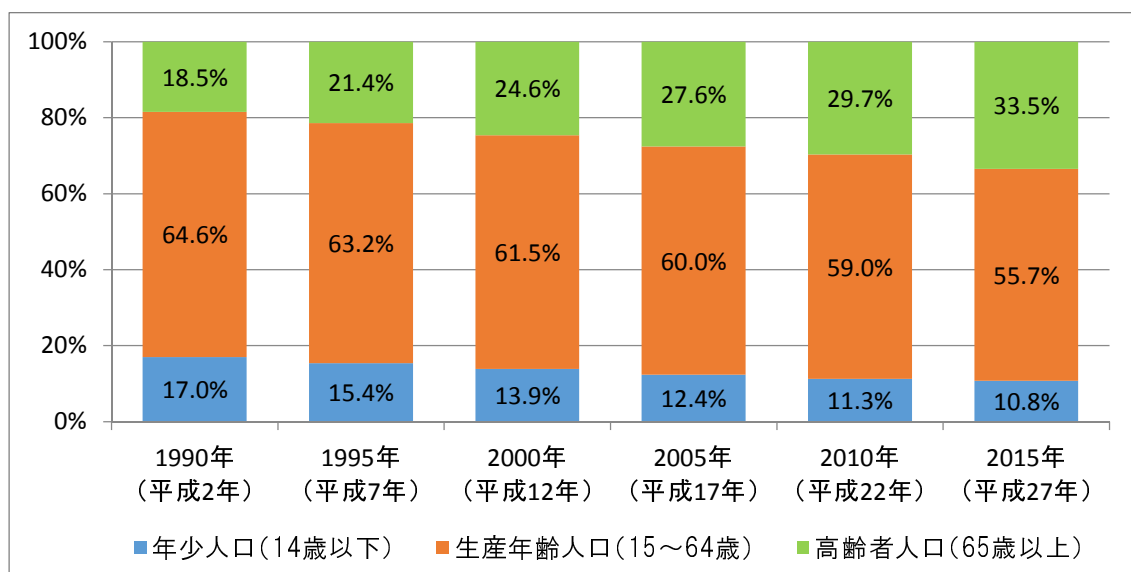
また、年齢構成の推移を見ると、1990（平成2）年は年少人口（0～14歳）が17.0%、高齢者人口（65歳以上）が18.5%だったものが、2015（平成27）年には年少人口が10.8%、高齢者人口が33.5%と少子高齢化が進行しています。

#### ■総人口の推移



資料：国勢調査

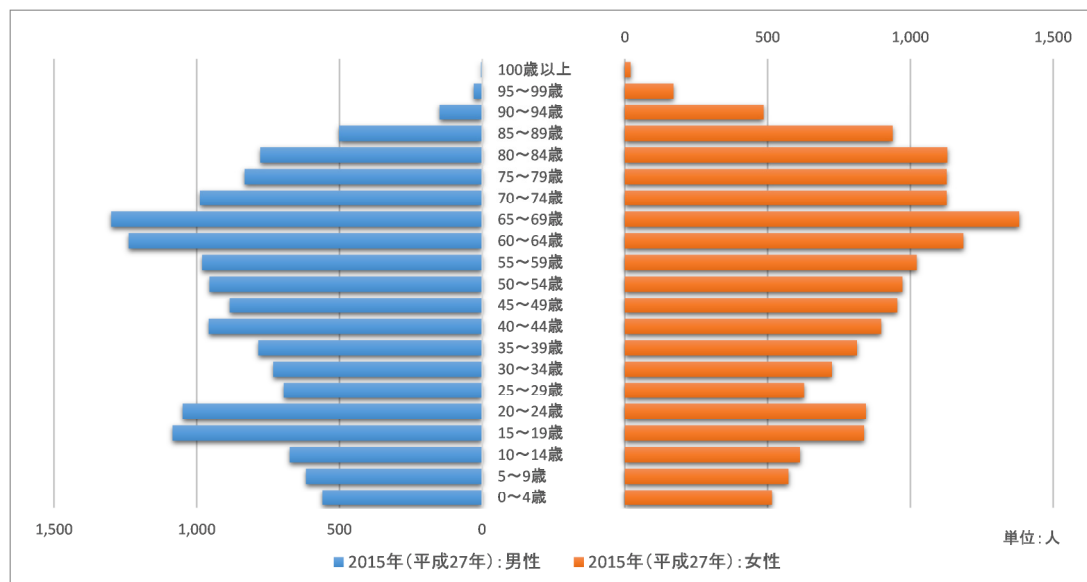
#### ■年齢3区分比率の推移



資料：国勢調査

年齢別人口構成をみると、60～69歳の年齢層に加え、10代後半から20代前半の年齢層で多くなっています。南丹市内に大学や専門学校、高校等の教育機関が多く立地していることが要因として考えられます。

### ■年齢別人口構成

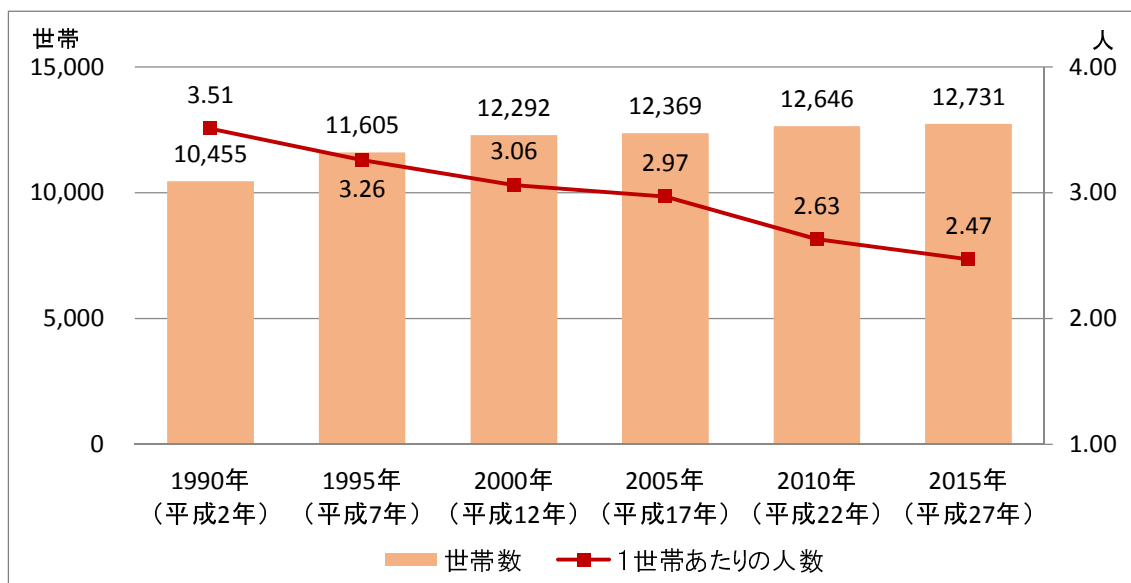


資料：2015（平成27）年国勢調査

### ② 世帯

世帯数の推移を見ると、増加の一途をたどっており、平成27年では12,731世帯となっています。一方、1世帯あたりの人数は、平成2年の3.51人から平成27年では2.47人となっており、世帯構成人数が減少していることがうかがえます。

### ■世帯数の推移



資料：国勢調査（世帯数は総世帯から施設及び不詳を除いた一般世帯数を表す）

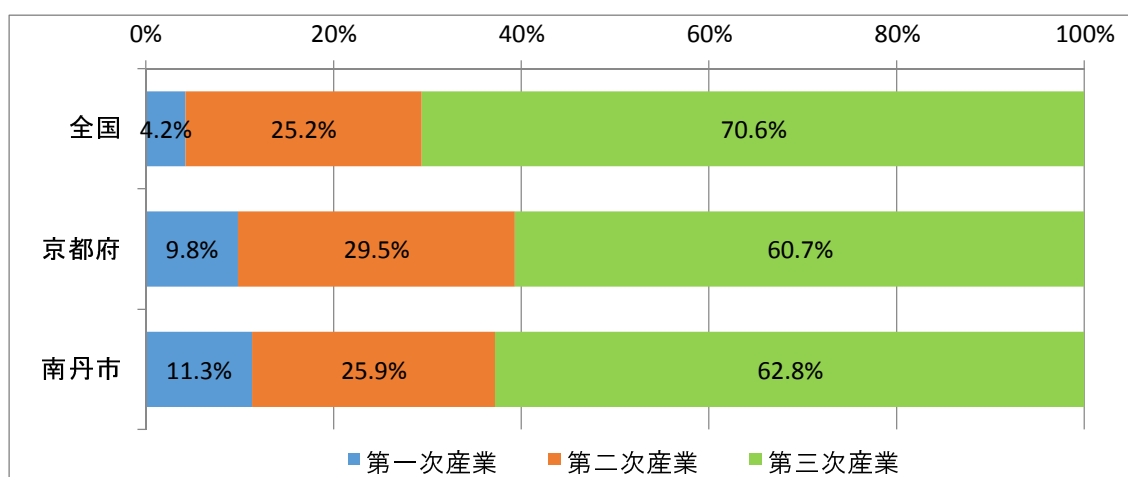
### (3) 産業の状況

#### ① 産業構造の状況

産業別就業者比率を京都府及び全国と比較すると、第一次産業の割合が京都府及び全国を上回っています。

また、産業別就業者数では、製造業、建設業や医療・福祉の分野で従業者数が多くなっています。特化係数においては、林業が9.6と非常に高くなっています。

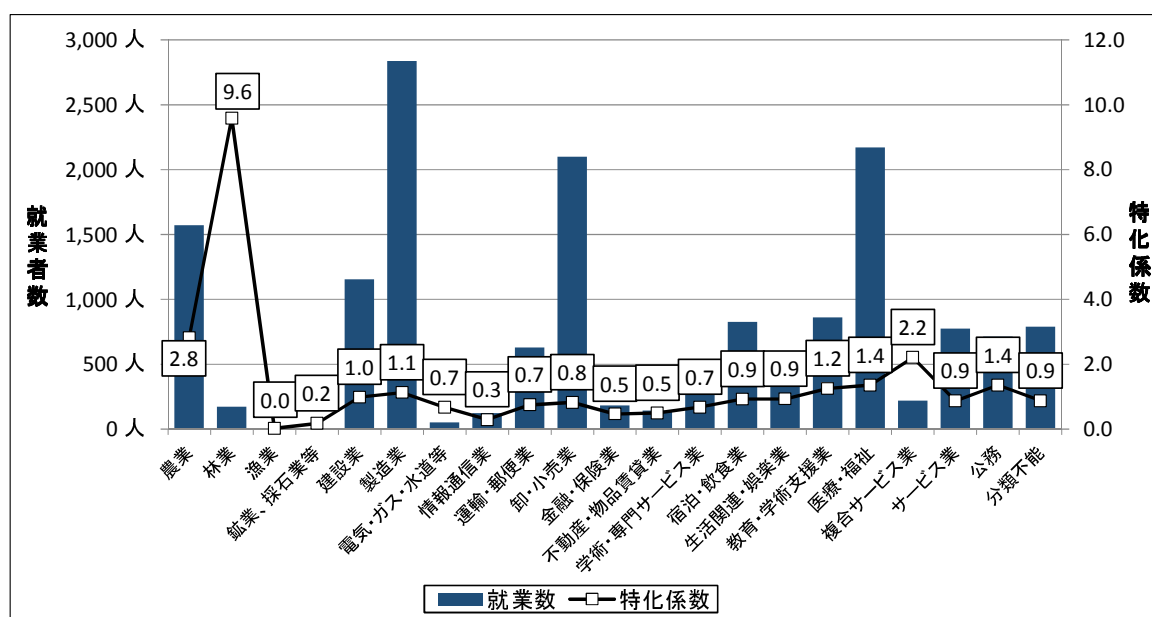
■産業別就業者比率の状況



資料：2010（平成22）年国勢調査

※「分類不能の産業」を除いた総数における構成比

■産業分類別就業者数と特化係数

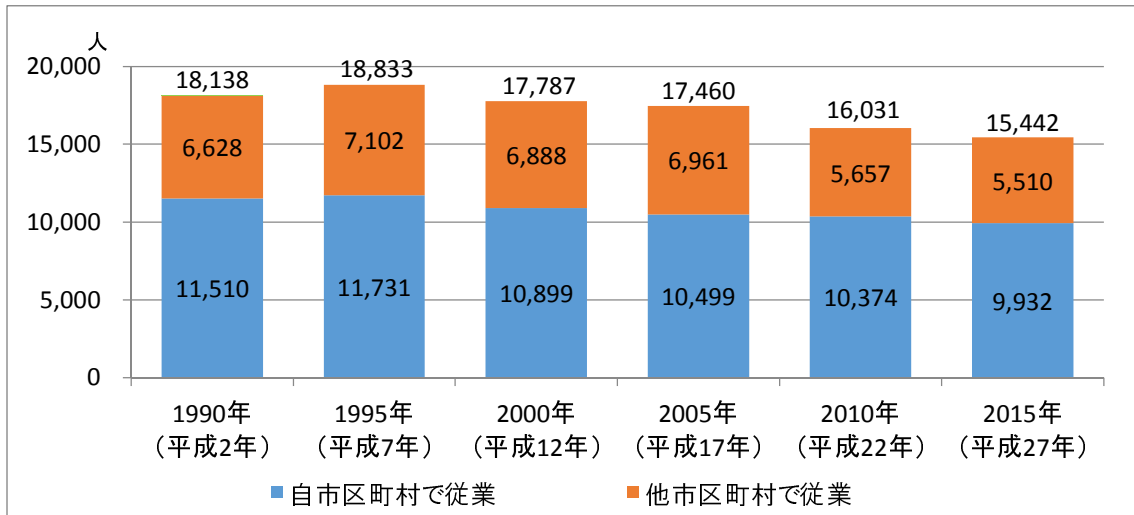


資料：2010（平成22）年国勢調査

## ② 就業場所の状況

就業場所をみると、合併前の1990（平成2）年以降、自市区町村で従業している割合が他市区町村で従業している割合よりも高く推移しています。

### ■就業場所の推移



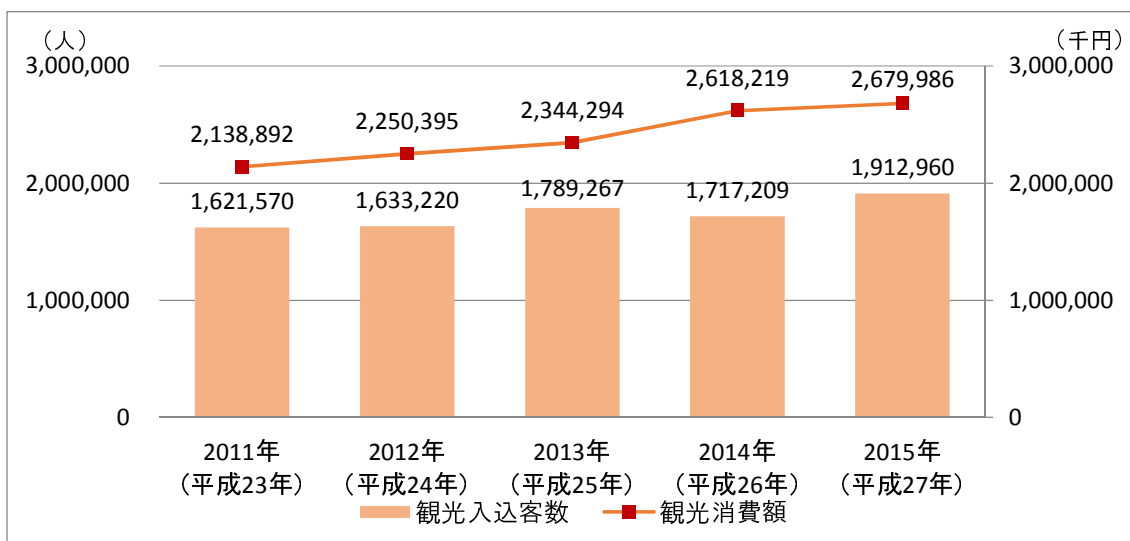
資料：国勢調査

※2005（平成17）年までの数値は、合併前の旧4町の数値を合算したものの。そのため、「他市区町村で従業」の数値には、例えば、美山町居住者が園部町で従業している割合も含まれている。

## ③ 観光の状況

観光入込客数をみると、2011（平成23）年以降ほぼ横ばいで推移していましたが、2014（平成26）年から2015（平成27）年にかけて約20万人増加しています。また、観光消費額については、2011（平成23）年以降、増加傾向で推移しています。

### ■観光入込客数及び観光消費額の推移



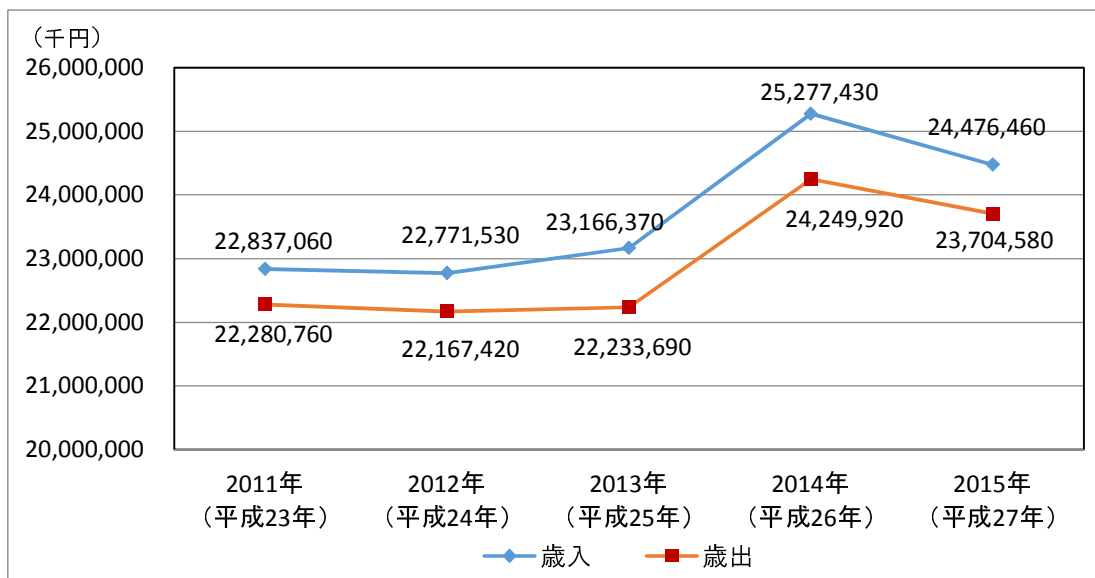
資料：京都府観光入込客調査報告書

## (4) 財政の状況

歳入・歳出決算額については、歳入が歳出を上回り、黒字決算の状況が続いています。

また、財政健全化判断比率の指標である実質公債費比率と将来負担比率の推移をみると、ともに減少傾向にあることがうかがえます。

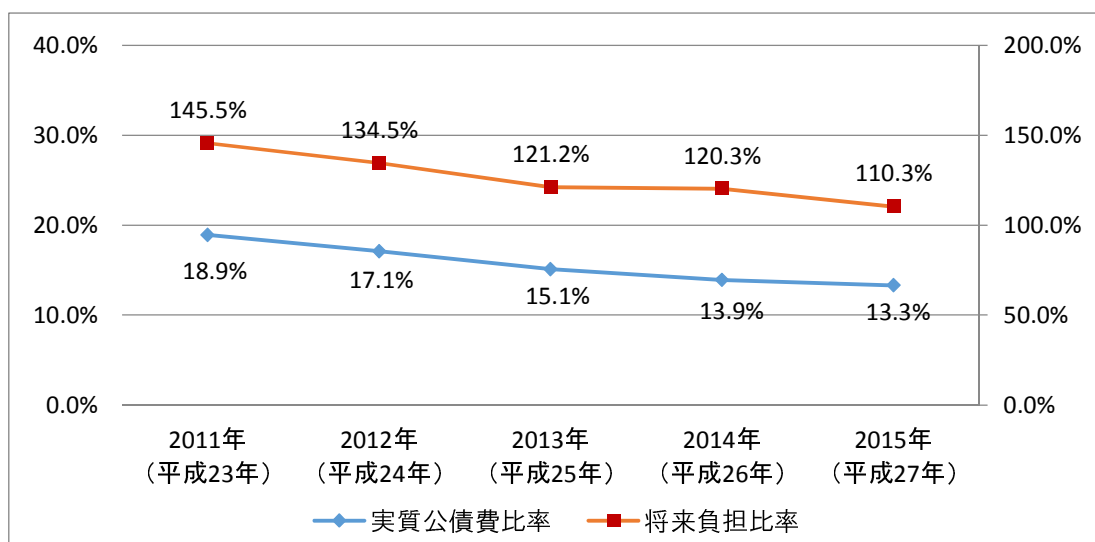
### ■歳入・歳出決算額の推移



資料：南丹市決算書

(注) 端数処理の関係で実際の額と一致しない場合があります

### ■財政健全化判断比率の推移



資料：南丹市決算書、健全化判断比率等の状況

## (5) まちの魅力

### ① 個性あふれ魅力的な各4町

南丹市は、合併前から各4町がそれぞれ個性的で魅力あふれるまちづくりを進めてきました。特に、多くの観光客を惹きつける観光資源は豊富で、スプリングスひよしや府民の森ひよしなどの日吉ダム周辺施設、日本の原風景の残るかやぶき民家群、るり溪高原、清源寺の十六羅漢像などについては、南丹市の交流人口を増加させるための重要な役割を果たしています。

#### ■各4町の特徴

町名	人口	観光資源	特徴
園部	16,766人	るり溪、生身天満宮など	市役所本庁がある市の中心地域。大学や専修学校など教育機関も多数あり、若い世代の人口も多い。自然公園や歴史資源が多数ある。
八木	7,615人	清源寺、京都帝釈天など	寺社仏閣が多く残る地域。JR山陰本線や京都縦貫自動車道が通っており、交通の便が良い。
日吉	4,940人	日吉ダム、スプリングスひよしなど	「京都のへそ」と呼ばれる地域。ゴルフ場や総合運動施設、温泉などの余暇施設が充実している。
美山	3,824人	かやぶきの里、大野ダム公園など	豊かな自然があり、伝統的なかやぶき民家が残る地域。古き良き原風景を生かした観光産業に注力している。

※人口は2015（平成27）年国勢調査結果

スプリングスひよし  
写真

かやぶき民家群  
写真

### ② 豊かな自然資源

環境省の「音風景百選」に選ばれたるり溪、芦生原生林、水源かん養機能などの重要な役割を果たす山林、また、国土交通省の「水の郷百選」にも選ばれている美山川清流や北西から南東に流れる大堰川などの河川、特別天然記念物オオサンショウウオ、ホタル、メダカなどの生物は、住む人に潤いを与えてくれます。

太陽光発電システムの活用や美しいまちづくり条例などの取り組みにより、こうした貴重な自然資源を大切に思い、守り育てる環境をつくってきたといえます。



るり溪  
写真

芦生原生林  
写真

### ③ 付加価値の高い農業

みず菜、壬生菜、九条ねぎ、黒大豆、紫ずきんなどのブランド京野菜の産地であり、その他、美山牛乳や京都肉などもあり、これらの付加価値の高い農産物に対するニーズは、今後ますます増大することが想定されます。

こだわりの採れたて野菜は、南丹市内にある道の駅（「京都新光悦村」「美山ふれあい広場」「スプリングスひよし」）などで販売されています。

京野菜  
写真

道の駅（ふらっと美山）  
写真

### ④ ものづくりのまち

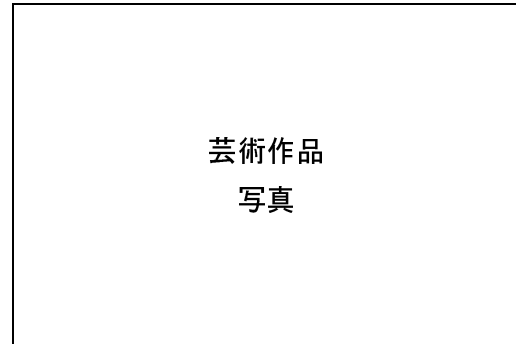
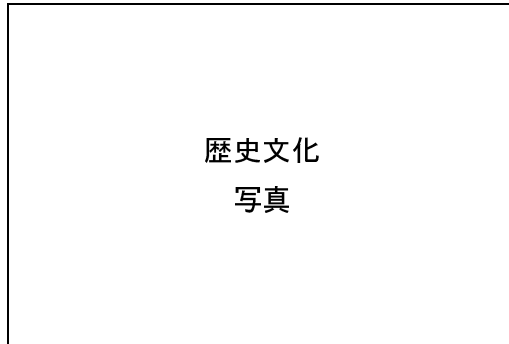
陶芸、木工、染織など、地域特性を生かした工芸品づくりが盛んで、多くの工芸家、職人が地域内外、国内外を舞台に活動しています。また、京都新光悦村では、伝統と先端との融合をコンセプトに、ものづくり企業が操業しています。

工芸品  
写真

京都新光悦村  
写真

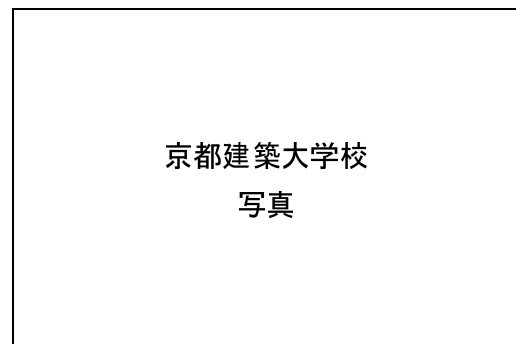
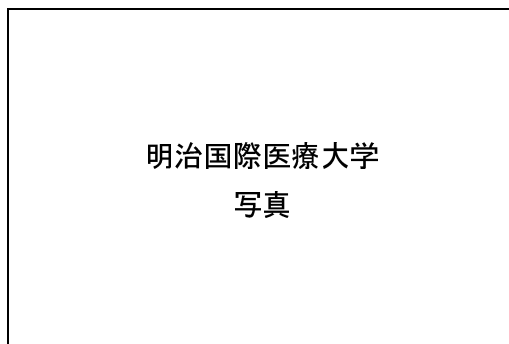
### ⑤ 歴史文化・芸術のまち

日本最古の天満宮である生身天満宮をはじめ、多くの指定文化財を有し、各地域には多くの伝統行事や伝統文化が息づくなど、長い歴史で培われた多様な文化があります。また、国内外を問わず、多くの芸術家が暮らし、創作活動を行っています。



### ⑥ 学生のまち

明治国際医療大学、京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都伝統工芸大学校、京都建築大学校、公立南丹看護専門学校、佛教大学園部キャンパスなどが立地しており、学生が行き交うまちとしての特徴もあります。



## ⑦ 福祉のまち

南丹市は、府下でも高齢者や障がい者向けの福祉施設が充実しており、福祉のまちづくりを進める上で、土壌が整っている状況といえます。また、住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるよう、地域と事業者、行政が連携して多様な福祉サービスが実施されています。

子育て支援については、子育て世代の多様なニーズに合わせ、様々な保育サービスが実施されており、待機児童の解消にも努めています。子育て発達支援センターでは、子どもの発達支援や相談、療育事業を行い、子どもの健やかな成長に向けた支援を行っています。

さらに、社会福祉協議会や福祉活動団体なども、地域福祉の担い手として市内で活発に活動しています。

子育て関係  
写真

福祉施設  
写真

## ⑧ 多彩な行事・イベント

南丹市内では、大小あわせてさまざまな行事・イベントが開催されています。これらの多くは、市内の豊かな自然や歴史・文化などの資源を活用した、南丹市ならではのものです。

### ■市内の主な行事・イベント（平成 29 年度現在）

月	行事・イベント名
1 月	綱引き神事<17 日、大送神社（八木町）> 厄神祭<19 日、八幡神社（園部町）>
2 月	美山かやぶきの里雪灯廊<上旬、美山かやぶきの里（美山町）> 雪まつり<中旬、美山町自然文化村（美山町）>
3 月	アマゴ釣り解禁<下旬>
4 月	大野ダムさくら祭り<上旬、大野ダム公園（美山町）> 大堰川さくら祭り<上旬、大堰川緑地公園（八木町）> 春日神社 春祭り<16 日、春日神社（八木町）>
5 月	生身天満宮春祭り<1 日、生身天満宮（園部町）> 田原の御田<3 日、多治神社（日吉町）> 鮎釣り解禁<5 月下旬（美山町） 7 月上旬（八木町）>
6 月	お田植えまつり<第 1 日曜、摩気神社（園部町）>
7 月	田歌の神楽<14 日、八坂神社（美山町）> 虫送り神事<中旬、鏡神社（園部町）>
8 月	南丹市花火大会<14 日、八木町大堰橋一帯（八木町）> 六斎念仏踊り<20・23 日、西光寺（八木町）> 牧山の松明行事<24 日、普門院（日吉町）> 上げ松（松上げ）<24 日、鶴ヶ岡・盛郷・芦生地区（美山町）>
9 月	玉岩地藏の秋彼岸法会<下旬、玉岩地藏堂（日吉町）>
10 月	からす田楽<中旬、川上神社（美山町）> 摩気神社神幸祭<中旬、摩気神社（園部町）> 夫婦神事<21 日、大送神社・幡日佐神社（八木町）> 田原のカッコスリ<中旬、多治神社（日吉町）> 日吉神社の馬馳け<第 3 日曜、日吉神社（日吉町）> ひよし水の杜フェスタ<下旬、スプリングスパーク（日吉町）>
11 月	美山ふるさと祭<3 日、美山小学校（美山町）> 大野ダムもみじ祭り<中旬、大野ダム公園（美山町）>
12 月	京都帝釈天 除夜の鐘<31 日、京都帝釈天（八木町）>

## ⑨ 多様で活発なまちづくり活動

南丹市内では、多くの活発なまちづくり活動が展開されています。

地域に目を向けると、区（自治会）が、地域におけるさまざまな課題の解決に取り組み、住民の連帯感の向上に努めています。地域特性に応じて、消防団や子ども会、老人会などの組織もさまざまな地域活動を行っています。

美山町では、合併前から旧村単位の 5 地区で地域振興会が設立され、地域ニーズの的確な把握と地域活力の維持向上を図る上で大きな役割を果たしています。近年では、他地区でも複数区にまたがる地域団体等が設立され、コミュニティビジネスを含めたまちづくり活動を行うなど、地域自治の機運が高まりつつあります。

地域での活動のみならず、分野別の活動についても、南丹市内ではさまざまな団体が活躍しています。南丹市を中心に活動している NPO やボランティア団体などを総合的に支援する拠点として、南丹市まちづくりデザインセンターが設置され、2017（平成 29）年 4 月 1 日現在、68 団体が登録されています。NPO 法人については、人口 1 万人当たりの団体数が府内の他の地域よりも多いことが、南丹市のまちづくりの特徴にも繋がっています。

地域をサポートする人材としては、2012（平成 24）年度から集落支援員が活動しています。2017（平成 29）年度現在、6 名の支援員が、地域や集落の実情を把握し、時代に対応した集落の維持・活性化を図るため、知見やノウハウを生かして市内で活躍しています。

2015（平成 27）年度からは、定住促進サポートセンターを拠点に、地域おこし協力隊が活動しています。協力隊は、地域に入ってそれぞれ特色のある地域を盛り上げるとともに、地域情報を全国に発信し、活力のある人材を南丹市へ呼び込む活動を行っています。2017（平成 29）年 4 月 1 日現在、8 名の隊員が活動しています。

その他、過疎地域に居住し、地域の維持・発展をサポートするため、府から里の公共員が任命され活動しています。

地域振興会活動  
写真

南丹市まちづくりデザインセンター  
写真

## **(6) まちづくりへの市民の思い**

### **① 市民意識調査結果**

※平成 29 年度市民意識調査結果を掲載予定

### **② 市民ワークショップ結果**

※市民ワークショップ（なんたんきゃらばん）結果を掲載予定

## 2. 南丹市を取り巻く社会潮流

近年の社会潮流の大きな変化に伴い、地方自治体を取り巻く環境も大きな転換期にあると言えます。南丹市のまちづくりの方向性を考える上で、こうした状況の変化を的確に把握していく必要があります。ここでは、南丹市に関係して特に重要と思われる以下の6点について、現状を整理します。

### (1) 急速に進む人口減少・少子高齢社会への対応

日本の総人口は、2008（平成20）年の約1億2,809万人をピークに減少に転じ、本格的な「人口減少時代」に突入しました。国立社会保障・人口問題研究所の中位推計では、2029（平成41）年には総人口が1億2千万人を下回ると見込まれています。また、人口減少とともに人口構成も大きく変化しています。結婚に対する意識の変化に伴う晩婚化や未婚率の上昇等により、次代を担う子どもたちの出生が低迷している一方で、健康寿命の延伸等により、高齢者の割合は高くなっています。

人口減少や超高齢化は、労働力の減少や地域活力の低下、内需の縮小、社会保障費の増大、地域コミュニティ機能の低下など、さまざまな面での影響が懸念されており、その対策は、我が国における喫緊かつ最重要課題のひとつとなっています。

国は、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、2014（平成26）年に「まち・ひと・しごと創生本部」を内閣に設置し、地方創生に力を入れています。

南丹市では・・・

- ・ 高齢化率が33.5%であり、全国平均（26.6%）よりも高い状況です。（2015年国勢調査）
- ・ 各町の高齢化率は、園部 28.0%、八木 38.3%、日吉 39.2%、美山 45.5%です。（住民基本台帳 2017年4月1日現在）
- ・ 南丹市には限界集落が全集落の15.7%の29集落あります。また、57.3%にあたる106集落が準限界集落にあたります。（2017年2月1日基準）
- ・ 2015年の人口千人当たりの出生数は5.71人であり、全国平均（8.01人）よりも少ない状況です。
- ・ 2016年の転入者・転出者はそれぞれ、1,197人、1,166人でした。
- ・ 2016年の出生数・死亡数はそれぞれ、213人、465人でした。
- ・ 施設入所支援施設が5施設あるほか、多くの障がい福祉サービス施設があります。
- ・ 特別養護老人ホームが各町に1施設ずつあり、多くの介護保険事業所があります。

## (2) 環境・エネルギーへの関心の高まり

化石燃料の大量消費等により、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量は近年増加傾向にあります。地球温暖化への影響は年々顕在化しており、洪水や干ばつ等の異常気象が生じているなど、地球環境への負荷低減が全世界共通の課題として掲げられています。

2015(平成27)年12月には、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)において、地球温暖化対策の新たな国際的な枠組となる「パリ協定」が採択されました。協定では、先進国も途上国も、すべての国で温室効果ガスの削減に向けた行動をとることが合意され、全世界で化石燃料依存からの転換が進みつつあります。

また、PM2.5等による大気汚染が深刻化しつつあり、健康への影響も懸念されています。

加えて、東日本大震災における原発事故を契機に、エネルギーに対する関心が高まっており、省エネルギーの徹底的な推進と再生可能エネルギーの開発・普及が重要視されています。

南丹市では・・・

- ・2015年度に、「バイオマス産業都市構想」の認定を受け、バイオマスの利活用を進めています。
- ・2015年度に、KES・環境マネジメントシステムの登録をうけ、環境負荷低減活動について市役所庁舎を挙げて進めています。
- ・2015年度に、環境省の「低炭素・循環・自然共生に資する取り組みを通じて地域創生を実現するモデル地域」として選定され、「南丹市モデル地域創生プラン」を策定しました。



### (3) 地域経済を取り巻く環境の変化

我が国の経済情勢は、2008（平成 20）年に発生したリーマンショック後の景気後退や東日本大震災等の影響による厳しい状況から、国の経済対策の効果等により、緩やかな回復傾向にあります。しかし、地方への経済波及は遅れており、日本全体で効果が現れるにはまだ時間が必要な状況です。

さらに、経済のグローバル化が進み、経済活動の機会が拡大すると同時に、新興国の台頭による国際競争が激化し、生産拠点の海外移転による国内産業の空洞化など、我が国を取り巻く経済環境は依然として厳しい状況となっています。

一方、訪日外国人旅行者（インバウンド）数は、近年急速に増加しており、2014（平成 26）年には 1,341 万人（対前年比 29.4%増）を数えるまでになっています。国では、東京オリンピックが開かれる 2020（平成 32）年に向け 2,000 万人まで増やすことを目指す考えを示していますが、交流人口の拡大は、地域の活性化に繋がるものと期待されています。

雇用の面については、社会全般の雇用環境の激変や就業形態の多様化により、非正規雇用者が増加し、収入の格差などが生じています。また、団塊世代の退職により労働力人口が減少するなか、65 歳までの雇用の延長や有期労働者の無期雇用への義務づけや働き方改革を進めるとともに誰もが光り輝き活躍できる社会をつくることが求められています。

南丹市では・・・

- ・かやぶきの里、るり溪を中心に、観光客が増えており、2016 年度の観光入込客数は約 266 万人、観光消費額は約 29 億円でした。
- ・台湾を中心とした外国人旅行者が増えており、2016 年度の外国人宿泊者数は約 3,500 人でした。
- ・労働人口の減少により、市内事業者の労働力確保が難しくなっています。
- ・地元商店の高齢化、後継者不足により、商工会員数が減少しています。

#### (4) 安全・安心意識の高まり

2011（平成 23）年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、我が国観測史上最大のマグニチュード 9.0 という巨大地震と、それに伴って発生した津波や原子力発電施設の事故によって、広域にわたって大規模な被害が発生するという未曾有の複合災害となりました。さらに、2016（平成 28）年 4 月 14 日に発生した熊本地震では、震度 7 の揺れが連続して発生し、甚大な被害をもたらしました。また、近年、ゲリラ豪雨等の局地的な集中豪雨の発生により、各地に大きな被害をもたらしています。こうした大規模地震や集中豪雨による土砂災害、河川の氾濫等の発生を契機に、人々の防災に対する意識は急速に高まっています。

一方、高齢者や子どもが被害者となる凶悪犯罪や振り込め詐欺、インターネット犯罪、食品偽装や薬物混入等の「食」の安全をゆるがす事件等も発生しており、身近な地域における犯罪への不安が増大しています。

さらに、新たな感染症等の流行をはじめ、武力攻撃やテロ等の国民保護事案の発生が懸念されるなど、日常生活のさまざまな場面で、安全・安心の確保が強く求められています。

南丹市では・・・

- ・ 2013 年の台風 18 号、2014 年の集中豪雨により、河川が氾濫し、甚大な被害を受けました。
- ・ 2017 年の大雪では、積雪により集落が孤立するなど、園部・日吉地域を中心に大きな被害をもたらしました。
- ・ 高浜発電所、大飯発電所の UPZ（緊急時防護措置準備区域）に美山地域の約 80～90%が含まれています。
- ・ 消防団員の確保が困難となってきており、合併当初の 1,640 名と比較して、2017 年度は 1,440 名と減少しています。
- ・ 災害により開催を見送った年がありましたが、2007 年から 2 年ごとに「南丹市総合防災訓練」を開催しています。

## (5) 教育環境の変化

社会環境の変化や価値観、ライフスタイルの多様化等に伴い、教育に対するニーズも多様化、複雑化しています。次代を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域社会全体で教育機能を発揮し合うことが重要です。

2015（平成 27）年の中央教育審議会の答申では、学校・家庭・地域が連携・協働し、地域全体で次代を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進すること、そのためには従来のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）とともに「地域学校協働本部」を全国に整備することが提言されています。

また、新学習指導要領においては、学校において単に知識の習得を図るだけではなく、「主体的・対話的で深い学び」を追求するため、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点から授業内容を改善し、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることが目指されています。

大学については、地域再生の核としてのあり方が見直されており、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」が全国で進められています。

南丹市では・・・

- ・ 佛教大学、京都府立大学、明治国際医療大学、二本松学院の 4 つの大学等と連携協力に係る包括協定を締結し、幅広い分野で連携協力していくこととしています。
- ・ 少子化に伴い、小学校の再編を行い、小学校数は 17 校から 7 校となりました。

## （６）地方分権の進展と協働意識の高まり

国から地方へ権限や財源を移譲する地方分権改革が進められ、地方自治体は住民に最も身近な行政主体として、これまで以上に自主性と自立性を高めていくことが求められています。

一方、地方の財政状況は、生産年齢人口の減少に伴う税収入等の減少や高齢化の進行による社会保障費の増大など、厳しさを増すことが予想されます。また、高度経済成長期以降に整備された道路や橋りょうをはじめ、上下水道、その他の公共施設等の多くは老朽化が進んでおり、今後、改修や更新等が増加していく時期を迎えることから、段階的な都市機能や社会基盤の集約化、公共施設等の更新問題への対応が必要となっています。

こうした厳しい財政状況の中で、地方分権改革の時代に即した持続可能なまちを創造していくためには、これまで以上の行財政改革の推進とともに、協働のまちづくりを進めていくことが重要です。まず、個人でできることは自らで行い、個人ではできないことは家庭や隣近所、地域で行い、それでもできないことは行政が行うという「自助・共助・公助」による「補完性の原則」の概念が再認識されています。また近年では、概ね小学校区域を単位として、分野を横断して地域課題を自ら考え解決する、小規模多機能自治組織を設立する動きも見られています。

一方、2015（平成 27）年には公職選挙法が戦後 70 年ぶりに改正され、選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられました。若い世代がさらに、自分が暮らす地域のあり方や未来に関心を持ち、まちづくりへの参画に繋がるものと期待されています。

南丹市では・・・

- ・ 合併による交付税の特例措置が終わり、交付税の縮減が懸念されます。
- ・ 将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るため、2014 年に橋梁の長寿命化修繕計画を策定しました。
- ・ 2010 年に「市民参加と協働の推進に関する条例」を制定し、市民参加と協働の推進を図り、市民が主役の活力あるまちづくりを進めています。
- ・ 2017 年に下水道事業などの経営を将来にわたり安定的に維持し、必要な住民サービスを提供するため、中長期的な視野に立った経営の基本計画である「南丹市下水道事業経営戦略」を策定しました。

### 3. 南丹市の基本課題

地域特性や社会潮流を踏まえ、南丹市の特色を生かしながら新たなまちづくりを進めるために、特に重要なものとして以下のような課題が挙げられます。

#### (1) 移住・定住について

全国的な傾向と同様に、南丹市においても総人口は減少傾向が続いており、まちの活力を維持していくためには、特に生産年齢層の転入を増やしていくことが重要です。

大都市圏近郊に位置し、広域道路網や鉄道の整備・充実による交通アクセスの良さという地理的利点の中で、良好な自然環境において比較的安価で家を構えることができるといった、南丹市で住まうことで得られる価値のイメージを、広く発信することが求められます。

また、2015（平成27）年度に策定した「南丹市地域創生戦略」に基づき、総合的・計画的に移住・定住促進を図っていますが、今後も雇用の創出や起業支援、住宅政策、子育て環境の充実など、多様なライフスタイルに応じて重層的に組み合わせた取り組みを図り、選ばれるまちづくりを進めることが求められます。

#### (2) 子育て・保健・医療・福祉について

南丹市は、子育てに関する助成制度や各種保育サービスも充実するなど、全市を挙げて子育て支援に取り組んでいます。少子高齢化や核家族化、ライフスタイルの多様化など、子どもや子育てを取り巻く環境は大きく変化しており、今後も子育て世代のニーズを十分把握した上で、安心して子どもを産み育てられる環境づくりが求められます。

一方、市民生活に必要な保健・医療・福祉サービスについては、京都中部総合医療センターや明治国際医療大学附属病院などの高度医療機能を備えた病院もあるほか、高齢者・障がい者関連の施設やサービスも比較的充実しています。サービスを充実させる一方で、介護保険料基準額は府内でも最も高いなど、経済的負担がさらに増大することも予想されます。今後は全市を挙げて健康づくりの取り組みと意識の啓発を図ることが重要です。

市域が広大な南丹市で、地域に根ざしたきめ細かなサービスを行き届けていくためには、今後ますます、地域団体等と連携した保健・医療・福祉体制の充実が求められます。

### **(3) 環境・景観について**

南丹市は大半を丹波山地が占め、るり溪や芦生原生林をはじめとする水源かん養機能などの重要な役割を果たす山林があります。また、北部を由良川が、中・南部を桂川が流れ、その間にいくつかの山間盆地が形成されるなど、豊かな自然に恵まれています。

また、合併後も美山町の景観行政団体を引き継ぎ、「南丹市美しいまちづくり条例」を施行して、早くから良好な景観の保全と形成に力を入れてきました。

今後も、豊かで魅力的な南丹市の自然や景観を未来に継承することが求められるとともに、環境保全型農業や森林資源のバイオマスへの利活用、体験交流型ツーリズムへの展開など、資源循環を通じた地域の活性化や観光振興とも絡めながら進めていくことが必要です。

### **(4) 観光・産業振興について**

合併前から各4町は、観光振興やものづくり、農林業など、それぞれ個性的なまちづくりを進めてきました。観光スポットなどの地域資源も豊富で、日吉ダム周辺施設や美山のかやぶき民家群、るり溪高原と温泉施設などについては、南丹市の「交流人口」を増加させる大きな役割を担っています。今後も各4町それぞれの特徴を生かし、魅力を引きあげながらまちづくりを進めることが求められます。

その一方で、各4町の個性が強いがゆえに、「南丹市」という名前が対外的に浸透していない状況が、課題のひとつとして挙げられます。京都ブランドや丹波ブランドも活用しつつ、各4町それぞれの個性を効果的に結びつけ、「南丹市」としてのブランドを確立し、「南丹市」としての認知度の向上を図ることが重要です。

### **(5) 安全・安心について**

南丹市は、大小の河川や多くの山間地を持つ地形から、水不足や洪水・土砂崩れ等が起こりやすく、2013（平成25）年の台風18号、2014年（平成26）の集中豪雨では河川が氾濫し、甚大な被害を受けました。また、福井県嶺南地域にある高浜原子力発電所や大飯原子力発電所の半径30km圏（緊急時防護措置準備区域UPZ）に南丹市の一部が含まれるなど、自然災害だけでなく、原子力災害、有事対応などを含むさまざまな危機に対応できる取り組みが求められます。

災害に強いまちづくりを実現するためには、行政による防災・減災体制の強化はもちろん、市民一人ひとりや地域コミュニティによる「自助」「共助」に基づく総合的な取り組みが必要です。そのため、「自助」や「共助」の考え方を広めるとともに、「共助」の基盤となるコミュニティづくりへの支援に取り組むことが重要です。

## (6) 教育について

「まちづくりは人づくりから」という言葉があるように、南丹市が将来的に継続して発展していくためには、それを担う豊かな創造力と郷土愛を持った人材の育成が不可欠です。

子ども一人ひとりに、生涯にわたって学び続けることができる基礎学力の習得と、たくましく生きる力の育成を図ることが求められます。また、市内に数多く存在する特色ある地域資源を活用し、「ふるさと南丹市」の個性と魅力を学び伝えるとともに、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる教育環境づくりが重要です。

一方、南丹市には、京都府立の高等学校や特別支援学校に加えて、明治国際医療大学、京都医療科学大学、京都美術工芸大学、京都伝統工芸大学校、京都建築大学校、公立南丹看護専門学校、佛教大学園部キャンパスといった多くの高等教育機関が立地しています。

ものづくり・建築・芸術・福祉・医療など、さまざまな専門分野を有するこれらの教育機関と地元企業や地域団体、行政等、産官学公連携・交流による地域振興に繋げていくことが求められます。

## (7) 協働のまちづくりについて

持続可能なまちづくりに向けては、市民や地域との協働のまちづくりが不可欠となっていますが、人口減少や価値観の多様化等により、基盤となる地域コミュニティの機能低下が懸念されています。防災や地域福祉、地域自治などの分野では、今後ますます地域コミュニティの役割が増大していくため、いかに地域コミュニティ機能の維持・充実を図るかが重要となっています。美山町や日吉町の一部で活動する地域振興会制度を南丹市全域に広げていくことや、一部の自治体で導入されている小規模多機能自治制度の採用など、多様な方法で地域コミュニティのあり方を検討していくことが求められます。

## (8) 行財政運営について

南丹市の財政は、財政健全化判断比率の指標である実質公債費比率や将来負担比率は減少傾向にあるものの、依然として非常に厳しい状況にあります。

今後、生産年齢（15～64歳）人口の減少による税収の減少や地方交付税の縮減、高齢者の増加による社会保障費の増加、公共施設等の老朽化に伴う維持更新費等により、さらに厳しい財政状況を迎えることが予想されます。限られた財源の中で、市民が本当に必要とする施策・事業に選択・集中させるなど、持続可能な行財政運営が求められます。

行政改革を継続的に推進するとともに、機能の集約や広域連携を視野に入れた行政体制の構築が今後さらに必要となります。

## 第2章 未来の南丹市のすがた

### 1. めざすべきまちの将来像

<補足> 将来像は、今後の市民ワークショップの結果も踏まえて検討する予定です。

まちの将来像は、市民・事業者・行政がそれぞれまちづくりを進めていくうえで、共通にイメージできるまちのあるべき姿を示したものです。10年後の南丹市のイメージを共有することで、それぞれの強みを生かした協働のまちづくりを図ることが可能になります。

#### 【参考】

第1次計画の将来像

森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市

※将来像は、市ホームページの検索結果名や市勢要覧のタイトルに使用

### 2. 重点テーマ

南丹市では、2015（平成27）年度に「南丹市地域創生戦略」（計画期間：2015～2019年度）を策定し、定住促進の取り組みを総合的かつ効果的に進めています。

今後も、南丹市を持続的に発展させていくためには、人口の転出抑制と転入促進、出生率の向上、健康寿命の延伸などによる、定住人口の維持・充実が求められています。

そのため、本計画においても、まちの将来像『森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市』の実現に向けては、まちの魅力や特徴を最大限に発揮した移住・定住対策が必要不可欠と考え、「定住促進」を重点テーマに掲げます。

重点テーマ

**定住促進**

～ 住んでみたいまち・住み続けたいまち ～



### 3. 人口フレーム

総合振興計画において、都市のインフラ整備や雇用の場の創出、教育・福祉の充実などによる将来の「定住人口」が、10年後のまちの活気を示す基本的な指標となります。

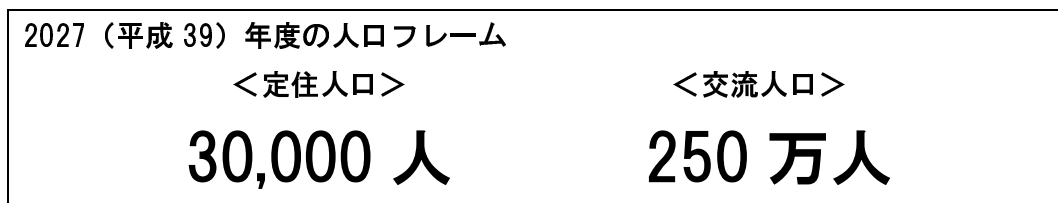
南丹市では、2014（平成26）年に策定した「南丹市地域創生戦略」の基礎資料として、「南丹市人口ビジョン」を作成し、長期ビジョンに基づいた目標人口を掲げています。

本計画においても、「南丹市人口ビジョン」を踏襲し、目標年度である2027（平成39）年の定住人口の目標を30,000人とします。

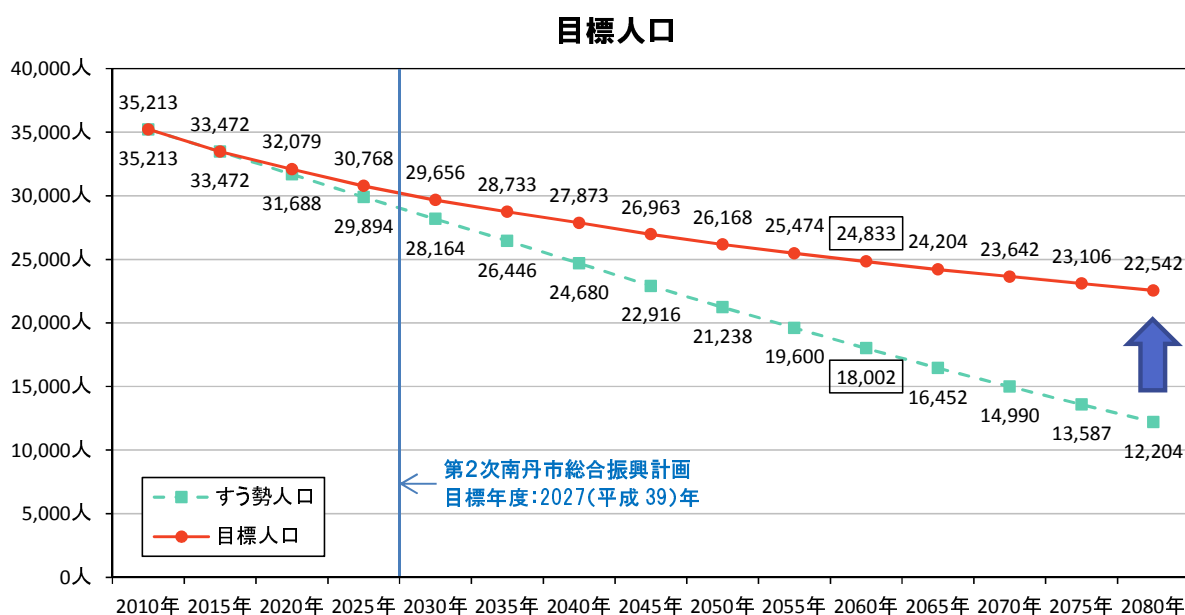
また、第1次計画では、定住人口とともに交流人口も目標数を設定しました。

南丹市には、スプリングスひよしや府民の森ひよしなどの日吉ダム周辺施設、日本の原風景が残るかやぶき民家群、るり溪高原、清源寺の十六羅漢像など、多くの観光客を呼び込む観光資源が数多く存在し、まちの活力の維持・充実に重要な役割を果たしています。

そこで、本計画でも引き続き交流人口の目標数を掲げ、2027（平成39）年度の目標を250万人と設定し、観光入込客数で把握することとします。



#### ■南丹市人口ビジョンでのすう勢人口と目標人口



資料：南丹市人口ビジョン

## 4. 土地利用基本構想

恵まれた交通立地のもとに、各地域の産業、自然、歴史、文化資源やこれまでのまちづくりの蓄積を十分に活かした地域整備、市街地整備を図ります。

そのために自然環境に配慮した適切な土地利用の誘導を図る「ゾーン」、地域活動の基盤となる「拠点」、さらにまちの骨格となる「交流軸」を位置づけます。

### (1) ゾーン形成

#### ① ふれあいの森・国定公園ゾーン

農村景観や芦生原生林等の豊かな自然環境が豊富に存在し、また日本の原風景ともいえる重要伝統的建造物のかやぶき民家群が存在しています。

今後は、これら地域資源を保全し活かしながら都市農村交流を中心とした地域おこしを推進し、グリーン・ツーリズムや都市からの移住促進を図るほか、住民が主体となった農産物加工販売などを進め、自然とのふれあい豊かな地域整備を進めます。

#### ② やすらぎの田園ゾーン

丹波高原の東部の丘陵地帯にあり、なだらかな山々に囲まれた緑豊かな地域で、明治国際医療大学や同附属病院、交流施設としての多くの人が訪れる日吉ダム周辺レクリエーション施設があります。また、平野部に広がる田園地帯には、農村環境公園やバイオエコロジーセンターなどの施設があり、今後はこのような地域特性を活かした農・畜産ブランド化の推進などの産業振興、スポーツ・健康づくりイベントの推進、学習セミナー活動や文化芸術活動の場づくり、余暇施設の充実などの地域整備を進めます。

#### ③ にぎわいの市街地ゾーン

この地域は古くから広域交通の要衝として、また地域の政治・経済・文化の中心地として発展してきました。近年は JR 山陰本線複線電化や京都縦貫自動車道の整備により、都市圏との時間的距離がよりいっそう短縮され、企業・事業所の進出や高等教育機関の進出がみられ、地域医療の拠点施設として京都中部総合医療センターがあります。

今後は、企業誘致の推進、地元商業の活性化とともに JR 駅前開発および再開発事業の推進、住宅地整備、上下水道整備などの市街地整備を進めます。

#### ④ 癒しの里山ゾーン

この地域は、なだらかな里山に囲まれた緑豊かな田園地域と、大阪府、兵庫県方面からの玄関口にあたり古くから多くの人々に親しまれている景勝地るり溪高原があり、近年は温泉施設等の整備によって阪神方面からの来訪者が増加しています。

今後は、四季を通じて楽しめる自然と温泉を生かした、観光とレクリエーションを中心とした地域整備を進めます。

### (2) 拠点形成

広域交流軸沿線にあつて、商業や医療、行政サービス施設が集積する園部の市街地を中心とする地域を都市拠点と位置づけ、南丹市の中心としての市街地整備による、多様なサービスの集積を図ります。

また、八木、日吉、美山地域の暮らしの中心となる地域を、都市拠点と連携しながら行政サービスと住民活動を支援する機能の集積を図る地域拠点として位置づけます。

### (3) 交流軸形成

#### ① 広域交流軸

京都縦貫自動車道、国道9号、162号、372号、477号の広域幹線とJR山陰本線を「広域交流軸」と位置づけ、活発な交流と物流を促すための整備を促進します。

#### ② 地域交流軸

地域間を連絡し、主軸幹線と鉄道・高速道路などを連絡する市内の主要な府道、市道および広域農道を「地域交流軸」と位置づけ、安全で安心できる道づくりを進め、地域住民の交流を促進します。

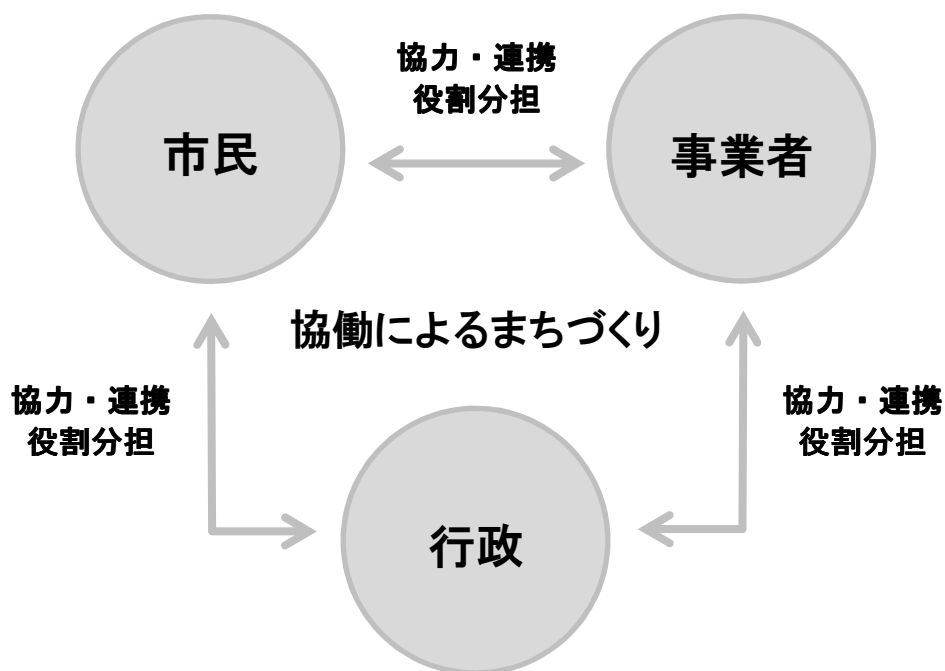
## 5. まちづくりの進め方

めざすべきまちの将来像の実現に向けた取り組みは、行政だけが進めるものではありません。「自助・共助・公助」による「補完性の原則」に基づき、南丹市に関わるすべての人がまちづくりに参画することが求められます。

このことから、市民・事業者・行政はそれぞれ次のような役割分担のもと、十分な協力・連携を図りつつ、一人ひとりができることから行動を起こし、協働によるまちづくりを進めていく必要があります。

### ■まちづくりにおける市民・事業者・行政の役割

市民	地域コミュニティの一員として、まちづくりへの理解を深め、地域課題の解決や地域の魅力づくりに向けて、まちづくりに積極的に参画することが求められます。
事業者	地域社会を構成する主体として、まちづくりへの理解を深め、事業活動を通じてまちづくりの活性化に貢献することが求められます。また、まちづくりの事業主体として、地域に与える影響に配慮しつつ、魅力的なまちづくりに貢献していくことが求められます。
行政	市民や事業者がまちづくりに参画するための支援や機会を充実し、必要な情報の提供・共有化に取り組むことが求められます。また、地域ごとの実情や市民の声を把握し、きめ細やかで的確なサービスを、効率的かつ効果的に提供することが求められます。



## 6. まちづくりの基本方針

### (1) 健やかで幸せに暮らせるまちづくり【保健・医療・福祉】

誰もが健やかで安心して暮らすことができるよう、市民一人ひとりの健康づくりと疾病予防に取り組むとともに、関係機関との協力のもと、病院や診療所との連携をさらに強化し、地域医療の充実を図ります。

福祉分野においては、「自助・共助・公助」の「補完性の原則」に基づいた地域ぐるみの福祉のまちづくりを推進するとともに、子育て支援や高齢社会への対応など、誰もが住みやすい福祉環境の充実を図ります。

### (2) 美しく快適なまちづくり【都市基盤】

道路網や河川、公共施設など、活力のあるまちを支える都市基盤の適切な整備と維持管理を行うとともに、魅力ある都市空間を形成するため、市街地の整備・活性化を図るとともに、秩序ある土地利用を推進します。

また、今後の高齢社会の一層の進行を見据え、交通弱者対策としての公共交通機関の利便性向上を図るなど、いつまでも快適に暮らせる生活環境の充実を図ります。

### (3) 自然と共生したまちづくり【環境】

るり溪や芦生原生林、美山川清流など、南丹市に残る豊かな自然を次世代に引き継ぐとともに、いつでもふれあうことができるよう、市民・事業者・行政がそれぞれの役割分担に応じた環境保全活動に取り組み、人と自然が共生できるまちづくりを進めます。

また、地球にやさしいエネルギー対策や環境学習を進めるとともに、持続可能な循環型社会をめざすため、ごみの減量化、再利用化・再資源化する環境3Rを推進します。

### (4) 安全・安心なまちづくり【危機管理】

東日本大震災や台風18号を教訓として、誰もが地震や台風などの自然災害から守られ、安全で安心して生活することができるよう、建物の耐震化などの減災対策を進めるとともに、地域と一体となった防災体制の強化を図ります。

また、防犯や交通安全、消防などの生活安全については、身近に存在する危険に対する意識啓発や関係機関との連携強化に努めます。

市民一人ひとりの生命や財産を守る安全・安心なまちを目指します。

## **（５）活力とにぎわいのあるまちづくり【産業振興】**

南丹市の豊かな自然資源や歴史・文化資源などの有効活用を図り、従来からのまちの魅力を市内外に積極的に発信するとともに、各４町の観光資源のネットワーク化やイベントなどの充実により、新たな魅力づくりに取り組みます。

また、農業・林業の振興や既存企業の活性化、優良企業の誘致、地場産業の育成など、各分野における産業の充実に向けた取り組みを推進します。

さらに、起業支援等を含め、市内で働ける多様な就労の場の拡大を図ります。

## **（６）学び楽しむまちづくり【教育・文化・スポーツ】**

幼児・児童生徒一人ひとりに、生涯にわたって学び続けることができる基礎学力の習得を図りながら、「ふるさと南丹市」を愛する心を育み、未来に向かってたくましく生きる力を育成します。

また、市民一人ひとりが、生き生きと学び続けることができる生涯学習社会の構築をめざし、互いにつながり合い豊かに生きるために必要な学習機会の充実や文化・スポーツ活動の振興を図ります。

## **（７）つながりのあるまちづくり【人権・コミュニティ・協働】**

人権を大切にすまちづくりを基本に、活力ある地域社会の実現に向けて、地域での様々な交流活動をさらに推進することで、地域コミュニティ活動の活性化を図ります。

また、市民や地域、事業者、行政がそれぞれの役割分担を認識し、南丹市に関わるすべての人々が一丸となった協働のまちづくりを図ります。

## **（８）効率的・効果的なまちづくり【行財政運営】**

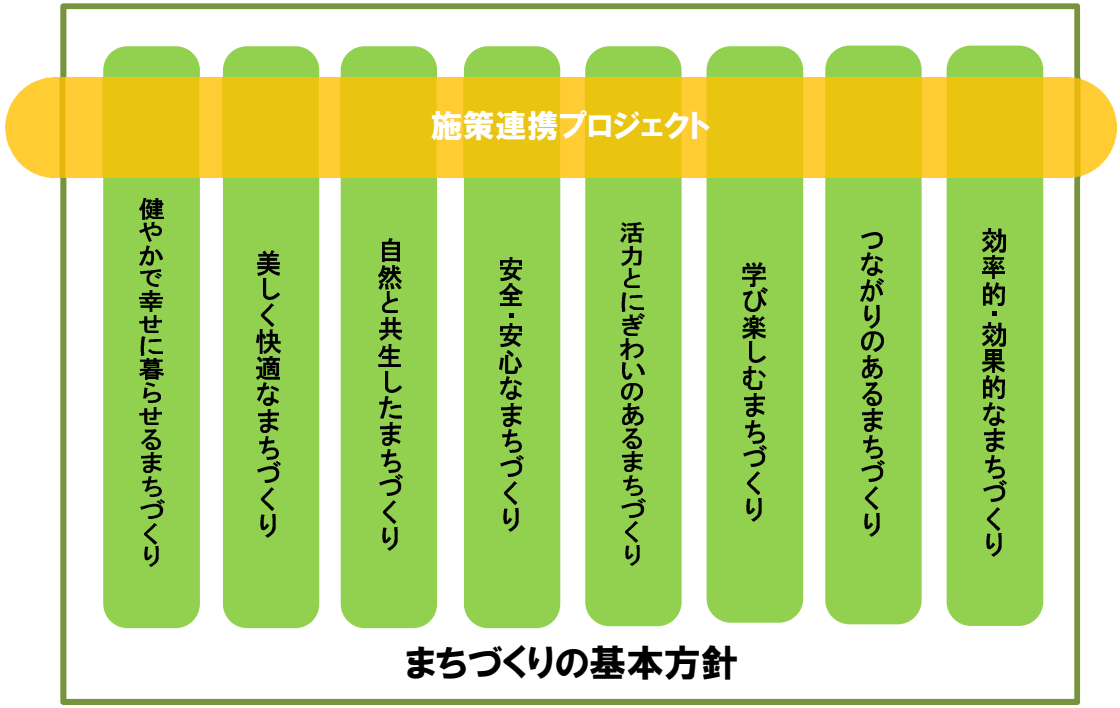
今後さらに厳しさが予想される財政状況の中で、安定した行政サービスを継続して提供するため、事業の成果を重視し、経営感覚を備えた効率的・効果的な行財政運営を推進します。

また、市民に親しみと信頼が持たれる行政サービスの提供のため、職員一人ひとりの意識の向上を図り、多様化する市民ニーズに的確に対応できるよう組織横断的な連携や機動性に富んだ組織体制の構築を進めます。

<将来像>  
**森・里・街がきらめく ふるさと 南丹市**  
の実現

2027(平成 39)年  
定住人口目標  
**30,000 人**  
の達成

**重点テーマ:定住促進**  
～ 住んでみたいまち・住み続けたいまち ～



# 第3章 未来を実現するための取り組み

まちづくりの基本方針	基本施策
1. 健やかで幸せに暮らせるまちづくり 【保健・医療・福祉】	(1) 健康づくりの推進
	(2) 地域福祉の推進
	(3) 子育て支援の充実
	(4) 高齢者福祉の充実
	(5) 障がい者福祉の充実
	(6) 地域医療体制の充実
	(7) 社会保障の充実
2. 美しく快適なまちづくり 【都市基盤】	(1) 都市計画の推進
	(2) 市街地の充実
	(3) 景観の保全・形成
	(4) 公園・緑地の整備
	(5) 住宅・住環境の充実
	(6) 上水道の充実
	(7) 下水道の充実
	(8) 河川環境の整備
	(9) 道路網の確立
	(10) 公共交通の充実
	(11) 情報通信基盤の充実
3. 自然と共生したまちづくり 【環境】	(1) 自然環境の保全
	(2) 生活環境の向上
	(3) 地球環境の保全
	(4) 資源循環型社会の形成
4. 安全・安心なまちづくり 【危機管理】	(1) 災害対策の充実
	(2) 防犯活動の強化
	(3) 交通安全対策の強化
	(4) 消防・救急体制の充実
	(5) 消費生活の安定と向上



分野別方針	基本施策
5. 活力とにぎわいのあるまちづくり 【産業振興】	(1) 観光の振興
	(2) エコツーリズムの推進
	(3) 農業の振興
	(4) 林業の振興
	(5) 工業の振興
	(6) 商業の振興
	(7) 雇用の安定
6. 学び楽しむまちづくり 【教育・文化・スポーツ】	(1) 家庭教育や幼児教育の充実
	(2) 学校教育の充実
	(3) 生涯学習の推進
	(4) 伝統文化の継承
	(5) 生涯スポーツ環境の充実
	(6) 青少年の健全育成
7. つながりのあるまちづくり 【人権・コミュニティ・協働】	(1) 人権の尊重
	(2) 男女共同参画社会の推進
	(3) 地域コミュニティ活動の活性化
	(4) 協働のまちづくりの推進
	(5) 交流活動の推進
8. 効率的・効果的なまちづくり 【行財政運営】	(1) 持続力のある財政運営の推進
	(2) 行政組織の活性化と職員の育成
	(3) 行政サービスの向上

# 1. 健やかで幸せに暮らせるまちづくり【保健・医療・福祉】

## (1) 健康づくりの推進

### 10年後のめざす姿

市民一人ひとりが、生涯を通じて自ら主体的に健康づくりに取り組んでいます。

### 現状と課題

- 生涯健康に暮らし、健康寿命を延ばすために、疾病の予防、早期発見・早期治療は大切なことです。また、心身ともに充実した人生を送るためには、生活の質を高め、積極的に健康増進を図ることが重要です。このため、個人や地域での健康づくりや介護予防の取り組みを支援しています。
- 生活習慣病予防のための健康教育、健康相談等を、市内の保健福祉センターを中心に、実施しています。また、子育て支援や介護予防など多様な取り組みを進めています。
- 特定健康診査を始めとした、ライフステージに応じた健康診査や各種がん検診を実施しているところです。今後も、受診率向上に向けた取り組みや、糖尿病等の生活習慣病重症化予防の対策が必要です。
- 豊かな農産物を生産する地域の特性を生かし、市民の安全・安心な食への知識を高め、積極的に摂取する行動への促しが必要です。食育は、豊かな人間形成の上でも、まちづくりにおいても重要であり、関係団体や市の連携のもとに、食育を推進する必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 主体的な健康づくりの促進

- 「南丹市健康増進・食育推進計画」に基づき、関係機関が連携し、市民の主体的な健康づくりを支援します。
- 軽運動やスポーツ、リハビリテーション、料理教室などができる施設の有効活用を図ります。

### ② 健康増進事業の充実

- 特定健診・特定保健指導の制度、健康増進法の制度において、各種健康診査と健康教育、保健指導の強化を行い、生活習慣病予防を図ります。また、疾病予防のみならず、生活習慣にかかわりの深い歯の健康、アルコール、喫煙の対策に努めます。
- 転倒予防、認知症予防などの介護予防事業の充実を図ります。
- 各がん検診の受診率の向上に努めます。

### ③ 母子保健事業の充実

- 誰もが安心して子を産み、育てることができるよう、妊娠期からの継続した相談や訪問事業、パパママ教室などの充実を図ります。
- 子ども達が健やかに成長発達できるよう、子育て相談や乳幼児健診、離乳食教室や親子教室などの充実を図ります。

### ④ 食育の推進

- 食と健康は密接な関係にあります。市民の健康づくりに大切な、バランスのとれた食生活や規則正しい食習慣を広げるため、それぞれのライフサイクルに応じて、食に関する正しい情報の周知に努めます。
- 南丹市の地域に伝わる食文化の伝統を次世代につなげるための活動を推進します。
- 地域の農産物を地域で消費する地産地消の取組を推進し、食の安全確保への意識向上を図るとともに、地域の活性化を図ります。
- 家族や仲間、地域のつながりを深めていけるよう、食を通してコミュニケーションを進め、感謝の気持ちを育てます。

## 具体化する部門別計画

○第2次南丹市健康増進・食育推進計画（2017～2026年度）

## (2) 地域福祉の推進

### 10年後のめざす姿

誰もが住み慣れた地域社会の中で、助け合い、支え合いながら暮らしています。

### 現状と課題

- 急速な少子高齢化や核家族化の進行、ひとり暮らし高齢者の増加、地域のつながりの希薄化等を背景に、市民一人ひとりが生活していく上での課題や福祉ニーズは増加・多様化しています。
- あらゆる人が地域で安心して生活できるためには、社会福祉の諸制度だけでなく、そこに暮らす地域住民の力が不可欠です。このため、すべての人が自分らしく互いに安心して暮らせるよう、市民・事業者・行政の連携のもとに地域福祉を推進する必要があります。
- 南丹市では、社会福祉協議会と連携し、市民の福祉意識の醸成を図るための学校での福祉教育支援や、市民向け研修、講座の開催をはじめ、地域福祉活動としてふれあい委員やNPO・ボランティア活動への支援など、地域福祉の推進に取り組んでいます。
- 今後も、地域福祉の推進を図るためには、社会福祉協議会や民生児童委員、ふれあい委員等の地域福祉に関わる機関や団体等がさらに連携するとともに、地域で活動する自治会やボランティア団体等とも連携を図ることが必要です。

#### ■地域福祉の状況

		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
社協ボランティア バンク登録数	人	1,455	1,272	1,272	1,254	1,217
	団体	116	97	97	113	112

資料：南丹市社会福祉協議会

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
社協ボランティア登録数	人	1,228	1,278	1,328
〃	団体	113	118	123

## 施策の方向

### ① 地域福祉意識の醸成

- 学校教育や生涯学習を通じて福祉教育の推進を図ります。
- 広報活動やイベントなど、あらゆる学習・体験機会を通じて、地域福祉に関する意識の醸成に努めます。

### ② 地域福祉活動団体などへの支援と連携強化

- 地域における福祉活動を推進するため、その中心的な役割を担う社会福祉協議会の活動を支援するとともに、社会福祉協議会と連携して、地域福祉人材の育成や各種ボランティア団体の支援を図ります。
- 地域に根ざした一体的な地域福祉活動の推進が図られるよう、地域活動に取り組む各種団体・組織の連携を促進します。

### ③ 地域福祉推進体制の充実

- 自分たちの地域を、互いに安心して住み続けたいまににするために、市民・地域・事業者・行政が連携し、それぞれの役割を担いながら、地域での助け合い・支え合いのしくみを構築します。
- 困りごとを抱えたまま孤立する人がないように、市民や事業者、行政が連携して、地域における相談・支援体制を築いていきます。
- 成年後見制度の周知を通して、普及・啓発活動を行うとともに、市民後見人の育成に努め、成年後見制度の充実と体制の強化を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- 一人ひとりができる方法で、地域の支え合いやボランティア活動に参加する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 第2期南丹市地域福祉計画（2013～2017年度）
-

## (3) 子育て支援の充実

### 10年後のめざす姿

安心して子どもを生み、楽しく子育てできる環境が整い、子どもが心身ともに健やかに成長しています。

### 現状と課題

- 南丹市では、市内9カ所の保育所において、通常保育のほか、延長・一時保育を実施しています。今後は、多様化する保育ニーズに対応するため、土曜保育の時間延長、病後児保育など、一層の保育サービスの充実を検討する必要があります。
- 女性の社会進出などを背景に、年度途中での育児休業明けに伴う利用者の増加などにより低年齢児の保育利用のニーズが高まる傾向が続いています。一方、農村部では児童数が減少し、子ども達にとって良好な保育環境が整えられないのではと危惧する声もあります。今後は、保育ニーズや児童数の動向などを考慮し、より適切な保育環境を構築する必要があります。
- 家庭内での子育てに関する知識が希薄になり、特に乳幼児を育児中の親の、子育てに対する不安感や負担感の増加が懸念されます。在宅親子の支援の場として、その拠点施設として、地域子育て支援拠点施設「子育てすこやかセンター」を開設し、交流や学習の場、様々な情報を得られる場、身近に気軽に相談ができる場としての機能を有する「居場所」の提供を行っていますが、南丹市の地理的条件等も考慮し、より身近な機会の提供を進めるため、各地域への巡回や、固定した「居場所」を提供し、それぞれの地域ニーズを捉えた中で、系統立てた支援を図る必要があります。
- それらを各種団体、機関との連携により進めるために、「地域で担う子育て力」の向上が必要であり、地域に根付いているNPO等民間子育て支援団体の活力を十分に生かし、また委ねながら、協働による支援の輪を広げ、市民による身近な支援の展開を図っていく必要があります。
- 近年、児童虐待が社会問題化し、子どもの命に関わる事件が数多く報じられています。児童虐待の発見と事案に対する迅速な対応は当然のことながら、その要因となり得る、親の孤立、子育ての不安感や負担感、育児ストレスといった精神的負担や経済的な負担、また、親・子の抱える課題などの背景を把握し、あらゆる場で親や子どものSOSサインを見極め、関係機関が連携し、虐待の未然防止に努める必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
安心して子育てのできるまちだと思ふ人の割合（「どちらかといえば」を含む）	%	49.8	51.3	51.8

## 施策の方向

### ① 地域ぐるみの子育て支援

- 子育てすこやかセンターを拠点に、地域での巡回事業を行うとともに、子育て中の親子が気軽に集える場として、地域の身近な「居場所」の提供の拡充を図ります。
- ファミリー・サポート・センター事業の周知と会員拡大を図り、有効活用を図る中で、地域での子育て支援の仕組みを確立します。
- 親が不安や悩みを抱え込み、子どもの養育に支障をきたすことがないように、周囲の関係者にいつでも相談できる環境を整備します。
- 妊婦が、安全な出産を目指して、自身の身体と胎児の健康維持増進に心がけることができる体制を構築し、併せて安心安全に出産できるように地域、行政、家庭が一体となって支え見守る社会的な環境づくりを推進します。

### ② 子育て家庭への経済的支援の推進

- 子育て世帯への経済的な支援として、国の制度に加えて、各種祝金や手当、医療費助成など、市独自の施策を進めます。

### ③ 就学前教育・保育の提供体制の構築

- 通常保育や延長保育、一時的・緊急時のニーズに対応する一時保育や特定保育など、多様な保育の充実を図るとともに、病後児保育など多様なニーズに対応する保育の実施を検討します。また、子どもたちの社会性や自主性を育む環境づくりに努めます。
- 保育所・幼稚園の在り方について、これまでの南丹市における幼児教育や保育の歴史、地域性などを考慮し、国の動向も踏まえる中で、市民視点に立った就学前教育・保育の提供体制について検討し、具体化します。また、保護者の就労の有無にかかわらず受け入れ、教育・保育を一体的に行う環境づくりについても検討を進めます。

### ④ 放課後の子どもの育成の場づくり

- 「放課後児童クラブ」の推進により、保護者の就労などで放課後の家庭保育が困難な児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を支援します。

### ⑤ 支援が必要な子育て家庭への支援

- ひとり親家庭の経済的自立と生活の安定を図るため、児童扶養手当やひとり親家庭等医療費助成制度など、各種制度の周知に努めます。
- 児童虐待の発生防止と早期発見、被害児童への迅速な対応を図るため、関係機関との連携強化を進めます。
- 障がいのある子どもへの相談・支援体制の充実に努めます。

## 具体化する部門別計画

○南丹市子ども・子育て支援事業計画（2015～2019年度）

## (4) 高齢者福祉の充実

### 10年後のめざす姿

高齢者が誇りと生きがいを持ち、地域で安心していきいきと暮らしています。

### 現状と課題

- 南丹市は、高齢化が進行している地域が多く、高齢者がいつまでも健康で、安心して暮らせるための保健・医療・福祉の連携が求められます。しかし、地域によって社会資源の格差があるため、サービス提供量などの不足にもつながっており、今後、このような格差解消を図っていく必要があります。
- 高齢者が要介護状態になっても、その一人ひとりの多様な状況に応じて、必要などころで必要な情報や支援、サービスが利用できるよう、介護・医療・生活支援・住まいが一体的に切れ目なく提供される体制「地域包括ケアシステム」を構築する必要があります。
- 高齢者が積極的に社会参加できるまちづくりは、地域の活性化にもつながるものであり、社会参加しやすい環境整備や受け皿づくりに取り組む必要があります。

■介護保険要介護・要支援認定者数の推移

※（ ）は第2号被保険者（40～64歳）の数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
要支援1	153 (6)	138 (3)	129 (2)	148 (4)	140 (3)
要支援2	348 (8)	407 (10)	436 (11)	463 (8)	506 (6)
要介護1	253 (5)	244 (4)	270 (5)	250 (3)	240 (5)
要介護2	430 (6)	460 (2)	471 (0)	507 (4)	507 (9)
要介護3	336 (6)	370 (5)	380 (3)	379 (4)	422 (6)
要介護4	280 (6)	298 (2)	265 (2)	269 (4)	282 (1)
要介護5	244 (1)	245 (2)	247 (5)	238 (5)	219 (8)
合計	2,044 (38)	2,162 (28)	2,198 (28)	2,254 (32)	2,316 (38)

資料：介護保険事業状況報告（高齢福祉課・各年度末現在）

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
介護保険・各種福祉サービス未利用者率	%	78.8	79.4	80.1
外出支援サービス事業登録者数	人	625	600	580



## 施策の方向

### ① 介護保険制度の適正な運営

- 要介護者の状態や障がいの状況などに応じて、専門的に対応できる地域包括支援センター等相談窓口の充実を図るとともに、高齢者の生活を支える地域包括ケア体制の構築を推進します。
- 介護を必要とするようになっても、できるだけ住み慣れた地域での生活を継続できるよう、家族の支援を含めた介護保険の円滑な運営を進めます。

### ② 生活支援の推進

- 各地域のサービス基盤の充実を図りながら、保健・医療・福祉の連携により、生活支援を必要とする高齢者や介護者に対するサービスの整備を図ります。
- 在宅での自立した日常生活がやや困難となった高齢者であっても、住み慣れた地域で見守りや食事サービスを利用しながら安心して暮らしていける在宅生活の推進を促進します。

### ③ 生きがいつくりの推進

- 団塊の世代をはじめ、高齢者の豊富な知識・経験・技能を生かせるよう、就労や地域づくりなどにおける社会参加を促進します。

### ④ 高齢者虐待の防止

- 介護などにおける高齢者への虐待について、介護者の精神的・身体的な介護負担の軽減を図る支援を進めるとともに、発見から解決に至る一連の対応について、地域包括支援センターを中心に地域や関係機関、サービス事業者などとの連携によって解決を図ります。

## 市民の取り組み

- 認知症に関する正しい理解を深める。
- 介護保険制度や各種福祉サービスについて日頃から知っておく。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画（2018～2020年度）

## (5) 障がい者福祉の充実

### 10年後のめざす姿

障がいがある人もない人も住み慣れた地域で安心して暮らしている地域共生社会の実現へ前進しています。

### 現状と課題

- 障がいのある人を取り巻く動向は、「障害者基本法」の一部改正、「障害者虐待防止法」や「障害者差別解消法」の施行、「障害者総合支援法」のさらなる改正などにより、障がいのある人も地域で安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けて取り組みが進められています。
- 本市においては、福祉医療費等の助成拡充や障がいのある人の居場所づくりなどを市の単費事業も含め、障がい福祉施策の充実に努めていますが、障がい福祉サービスの充実とともに事業費が増加しています。
- 今後とも、障がい福祉サービスの充実や障がい者福祉全般の充実に努めるとともに、市民への障がいに対する理解を促す啓発活動も引き続き行い、障がいのある人が住み慣れた地域で安心して、暮らせる社会の実現に努めます。

### ■障がい者数の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
身体障害者手帳所持者数（人）	2,704	2,709	2,720	2,962	2,864
療育手帳所持者数（人）	325	338	351	353	356
精神障害者保健福祉手帳所持者数（人）	216	228	242	265	297

資料：社会福祉課

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
障がいがあるために差別や偏見を感じる ことがある方の割合	%	アンケート 後記載		
障がい者に対する雇用・就労の支援が満足と 答える方の割合	%			

## 施策の方向

### ① 障がい児支援体制の推進

- 障がいの早期発見・早期療育に努めるとともに、個々の障がいの特性に応じたきめ細やかな支援体制の充実を図ります。
- 障がいの早期発見に限らず、育児上支援が必要な子どもへの支援体制の充実を図ります。

### ② 就労・雇用の支援の充実

- 障がいのある人の雇用の促進を図るとともに就労後も継続して就労できるよう、就労に関する相談体制の充実を図ります。
- 障がい者の就労を促進するため、関係機関との連携を強化します。

### ③ 障がい福祉サービス等の充実

- 障がいのある人や介助者の方の多様なニーズに対応できるようサービス提供体制の充実に努める等、障がい福祉サービスの充実を図ります。
- 保健・医療サービスの充実を図り、関係機関との連携を強化するとともに、介護保険に係る関係機関との連携についても強化します。

### ④ 相談体制・情報提供体制の充実

- 基幹相談支援センターをはじめとする、相談窓口における相談支援体制の充実を図ります。
- 障がいのある人や介助者の方にも必要な情報が的確に伝わるよう、情報提供体制の充実を図ります。

### ⑤ 人にやさしいまちづくりの推進

- ユニバーサルデザインの視点に立った生活環境の整備に努めます。
- 災害時や緊急時にも地域における助け合いなどで対応できる安全・安心なまちづくりに努めます。
- 障がい者の文化・スポーツ・レクリエーション活動などを支援し、各種活動に参加しやすい環境づくりに努めます。
- 障がいのある人とない人の相互理解の促進を図るため、障がいに対する理解を促す啓発活動を行います。

## 具体化する部門別計画

○南丹市障害者計画（2012～2017年度）

○第5期南丹市障害福祉計画（2018～2020年度）

## (6) 地域医療体制の充実

### 10年後のめざす姿

かかりつけ医から高度医療まで、安心して医療を受けられる体制が整っています。

### 現状と課題

- 超高齢社会の到来や疾病構造の変化、生活習慣病の増加などにより、医療需要は初期医療から高度医療まで医療の機能分化を明確にし、地域で適切な医療を受けられるよう、医療体制を整える必要があります。
- 南丹市では、市内の医療機関として京都中部総合医療センター、明治国際医療大学附属病院のほか、直営診療所（1カ所）、公設民営診療所（4カ所）、民間の医療機関があり、市民の安心と健康を支えています。
- 医療機関へのアクセスに不安がある地域や、医師確保に困窮や医療スタッフの不足している地域もあることから、圏域内医療機関や近隣市町村の医療機関との連携を密にして、地域医療を充実させるための対策を講じる必要があります。
- 初期医療や健康相談、保健指導を受け持つ「かかりつけ医」の定着のため、意識の啓発を図る必要があります。

### ■医療施設の状況

保健所	医療施設数					医療従事者（人）		
	病院	病床数	診療所	病床数	歯科診療所	医師	歯科医師	薬剤師
1	3	638	38	19				

資料：「平成〇年医療施設調査」「平成〇年医師・歯科医師・薬剤師調査」

※医療施設数は2017年3月31日現在、医療従事者数は2017年〇月〇日現在

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 地域医療体制の充実

- 市内各医療機関との連携や市の医療施設の体制充実、地域特性に配慮した交通アクセスの確保などによって、安心して適切な医療が受けられる地域医療体制の確保を図ります。
- 疾病の予防から早期発見、早期治療、リハビリテーションにいたるまで、市民の健康の保持・増進を支援する総合的な保健・医療体制をめざします。
- 情報基盤などの活用も視野に入れ、身近な地域で安心できる在宅医療の充実を図ります。
- 日常的な診療や健康管理を行う「かかりつけ医」の定着に向け、広報紙やホームページ等を通じた啓発に努めます。

### ② 救急医療体制の充実

- 救急医療に対応できるよう、船井医師会や周辺自治体と連携し、広域的な救急医療体制の強化を促進します。

## 市民の取り組み

- 
- 市民一人ひとりが信頼できる「かかりつけ医」を持つようにする。
- 

## 市民の声

- 
- -
-

## (7) 社会保障の充実

### 10年後のめざす姿

各種社会保障制度が市民に理解され、適正に運用されることにより、市民の自立と生活基盤の安定が図られています。

### 現状と課題

- 医療保険や国民年金等の公的制度は、市民の健康や将来の安心を確保する重要な役割を担っているものの、年々社会保障費は増加し、財政的に厳しい状況となっています。
- 医療保険制度については、急速な高齢化や医療の高度化等に伴い、医療費が増大する一方、保険税（料）収納率の低下や被保険者の所得水準の低下等の問題を抱えています。そのため、保険税（料）収納率の向上に向けた収納体制の充実や効果的な滞納対策を図ることが求められています。
- 国民年金制度については、市民の理解を深めるため、制度の周知や相談業務の充実を図ることが必要です。
- 社会情勢の変化により、非正規労働者や長期失業者が増加し、また、世帯構成や産業構造の変化により家族や地域社会とのつながりが希薄になっています。こうした影響により貧困・格差が拡大し、固定化する傾向が見受けられます。
- 生活保護に関係する助言・指導は関係機関と連携して行っていますが、失業等の事情により一旦生活保護受給に至ると長期化し、自立が困難になる傾向が見受けられます。また、生活保護を受給していない生活に困窮する人に対して、就労支援や家計指導などの継続的な相談支援を行っていくとともに、失業した人が直ちに生活保護に至ることなく再就職に結び付けられるよう雇用・生活・住居に関する総合的な対策を進めます。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 国民健康保険事業の健全な運営

- 納税相談の充実などにより、国民健康保険税の収納率向上に努めます。
- 特定健康診査・特定保健指導などの健康づくり事業との連携をはじめ、ジェネリック医薬品に対する普及啓発活動を推進することによる医療費の抑制や、受診行動の適正化を図るなど、国民健康保険の健全な事業運営に努めます。

### ② 後期高齢者医療制度の円滑な推進

- 安定した制度運営を図るため、相談窓口の充実や保険料の確保に努めるとともに、今後の制度変更を見据えつつ、制度の周知と理解の促進を図ります。
- 京都府後期高齢者医療広域連合と連携し、後期高齢者への健診事業の充実に努めます。

### ③ 国民年金制度の円滑な推進

- 国民年金制度に対する市民の理解を深めるため、制度の周知や広報・相談業務の充実を図ります。

### ④ 生活保護制度の適正な運用

- 生活保護を必要とする世帯の実態と要望を的確に把握しながら、生活保護制度の適正な運用を図ります。

### ⑤ 生活困窮者の自立支援

- 様々な困難の中で生活に困窮している人の自立を支援するため、社会福祉協議会や関係機関、民生児童委員の地域福祉人材等と連携し、経済的支援の充実や法定援護の適正な運用を進めるとともに、個々の世帯に即した助言・指導を行います。
- 経済的支援のみならず、関係機関との連携のもと、生活や就労、家計の再建や貧困の連鎖を防ぐための子どもの学習支援など包括的な相談支援体制の充実に努めます。

## 市民の取り組み

- 
- 年金制度を正しく理解する。
-

## 2. 美しく快適なまちづくり【都市基盤】

### (1) 都市計画の推進

#### 10年後のめざす姿

自然環境やにぎわいなどが共生した、市民一人ひとりが誇りを持って暮らしていける「南丹市らしさ」を支える都市基盤が整っています。

#### 現状と課題

- 南丹市の都市計画区域は、南丹市と亀岡市にまたがる南丹都市計画区域に指定されており、園部地域と八木地域にあります。市街化区域内における都市計画道路の整備や土地区画整理事業などの都市計画事業の実施による土地利用形態の変更に伴い用途地域の見直しを行っています。今後は、人口減少、少子高齢社会、市街地の低密度化の動向を踏まえ、持続可能な都市を形成していくためにコンパクトなまちづくりを推進していくことが必要となっています。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
土地区画整備事業進捗率	%	80	100	100
都市計画街路の整備率	%	70.46	71.38	73.91



## 施策の方向

### ① 南丹市の将来を見据えた都市計画の推進

- 市街地整備、道路ネットワーク整備、環境保全など、土地利用の方向性を明確に定めた都市計画を推進するとともに、持続可能な都市形成に向けて取り組んでいきます。
- 計画的な市街化の促進や交通利便性の向上などにより、定住促進に向けた快適で暮らしやすい生活空間の創出を図ります。

### ② 地域の個性を生かしたまちづくりの推進

- 南丹市の各地域の地形条件や自然条件を基本として、市全域を市街地地域、田園地域、森林地域に分類し、それぞれ固有の特性を生かしたまちづくりを進めます。

### ③ 人と環境にやさしい交通結節点の整備

- J R各駅の利便性向上に努めるとともに、駅前広場の整備や周辺整備を推進します。

## 市民の取り組み

- 
- 自分たちの暮らす地域の特性を知り、地域の将来に向けて、話し合ってみる。
  - 環境の保全に取り組む
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027年度）
- 

## 市民の声

- 
- -
-

## (2) 市街地の充実

### 10年後のめざす姿

地域の核となる市街地が、まちのにぎわいの中心、生活の中心として、南丹市内外の人に頼りにされる空間となっています。

### 現状と課題

- 全国的に旧来からの市街地が空洞化し、その活性化のための取り組みが進められていますが、南丹市の中心と位置づけられる園部地域の市街地も、定住人口減少と高齢化、商業の低迷が進んでおり、かつてのにぎわいを失っています。
- 市街地の充実に際しては、高齢者や子どもも安心安全に暮らせるまちに向けて、安全で快適な道づくりが求められています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 地域の暮らし、にぎわいの核となる市街地整備

- 空き店舗対策やイベント開催、意欲的な経営者や工房などの誘致を支援します。
- 中心市街地の立地を生かし、商業集積としての側面だけではない、新たなまちの拠点としての価値を見出し、市民が集う新たな拠点として活性化させていく取り組みを進めます。

### ② 地域の生活拠点となるまちの充実

- 八木、日吉、美山地域の暮らしの中心となる地域拠点について、利便性の向上やにぎわいの創出など、生活の拠点となるまちづくりを図ります。
- 生活拠点にふさわしい都市機能の配置や開発の適切な誘導、地域特性を踏まえた個性ある基盤整備の推進などによって身近な生活拠点づくりを計画的に進め、市民の暮らしやすさをより一層高めていきます。
- 住宅整備や商業施設の誘導に努めます。

## 市民の取り組み

- 市街地活性化にみんなで取り組む。
- 市内の商業を消費者として応援する。

## 具体化する部門別計画

- 

## 市民の声

- 
-

### (3) 景観の保全・形成

#### 10年後のめざす姿

「森・里・街」それぞれに異なる美しい景観が保全され、多くの人に親しまれています。

#### 現状と課題

- 南丹市には、「森・里・街」それぞれに異なる美しい景観があります。これらは市民にとっての誇りであり、来訪者の心を癒す貴重な資源です。自然の景観としては、るり溪、芦生原生林、由良川や桂川などの森林・河川景観があげられます。平成28年3月には京都丹波高原国定公園が指定され、南丹市では美山地域のほぼ全域と日吉・八木の一部がその区域に含まれています。
- 南丹市の重要な産業である農業は、今も美しい田園風景をいたるところに形成しています。さらに、本地域の人々の生活文化や集落景観があり、特に日本の原風景が残る美山かやぶきの里は、全国的にも屈指の美観を保ち、南丹市を象徴する景観といえます。
- 南丹市は景観法に基づき、良好な景観形成のための施策を自ら行うことができる景観行政団体となっています。平成26年3月に策定された、景観行政を進める上での基本指針となる「景観計画」と「景観条例」、それらに加えて「南丹市美しいまちづくり条例」により、南丹市の良好な景観の保全に努めます。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 森・里・街の持続的な景観保全

- 南丹市の景観形成の指針となる「景観計画」及び「景観条例」に基づき、建築物の高さや色彩に一定の規制をすることにより、歴史ある町並み、田園風景など南丹市の多様な優れた景観の保全に努めます。
- 森林・河川などの保全によって、自然景観の保全を図るとともに、るり溪や日吉ダム周辺など自然体験型観光資源周辺の景観形成を図ります。また「京都丹波高原国定公園」に市域が指定されたことを受け、京都府の「森の京都」事業と連携した自然環境の保全や体験型観光の促進などに取り組みます。
- 文化資料の調査を行い、かやぶき民家を含めた歴史文化資源を保全する支援の仕組みづくりを進めます。

### ② 農林業と一体となった里山の景観・環境の保全

- 農林業の有する多面的な機能が適切に維持、発揮されるよう、農林業振興のための支援や農林業従事者の育成・支援によって、田園や里山、農山村集落の景観保全を図ります。特に里山整備を促進し、各地域の個性を生かした自然環境の整備を進めます。

### ③ 市街地景観の形成と保全

- 都市計画や中心市街地の活性化、適切な景観誘導によって、市街地の景観を形成します。また、旧来からの集落や新興住宅地など異なる景観を持つ地域ごとに、今後も美しい景観を保存・形成できるよう地域への支援や啓発を進めます。

## 市民の取り組み

- 住宅地や市街地において緑化推進や景観形成へ向けた市民相互の連携と協力に努める。
- 景観のためのルールや計画を知り、みんなで美しい景観づくりに参加する。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市景観計画（2014年度～）
- 南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027年度）

## (4) 公園・緑地の整備

### 10年後のめざす姿

まちの公園や緑地が、市民の憩いの場として健全に利用されるとともに、周辺住民が維持管理に関わり、地域コミュニティ形成にも役立っています。

### 現状と課題

- 南丹市は、豊かな自然環境から田園地帯、市街地まで多様な生活環境を有しています。それぞれの地域で、こうした地域特性に応じた憩いの空間の確保が求められています。
- 市街地整備や土地区画整理事業を推進し、生活環境の確保や快適な空間を創出してきました。今後は、地域住民の憩いの場、交流の場となる公園・緑地の整備とともに、地域のコミュニティ形成、災害時の避難場所となる空間として維持管理していくことが求められています。
- 既存の公園施設では、施設の老朽化や樹木の繁茂により、事故や犯罪の発生が懸念されるケースも見られます。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
都市公園の整備率	%	92	96	100

## 施策の方向

### ① 公園の整備と維持管理の充実

- 利用圏域等を考慮しながら、日常のレクリエーション活動の場、防災の拠点となる身近な公園・緑地の適正な配置を行うとともに、既存の公園・緑地、身近な広場などの機能の向上や適正な維持管理に取り組みます。
- 市民との協働により施設を維持管理します。また地域コミュニティ形成の場として、誰もが安心して利用できる公園づくりを推進します。

### ② 緑化の推進と緑地環境の保全

- 市民が主体となった緑化に向けて、緑に対する知識の普及や意識啓発を図るとともに、様々な面から支援に努めます。また緑化活動を推進する人材の育成に努めます。
- 住宅地や商業地・工業地の特性に応じた緑化を推進します。また街路樹の植栽や沿道における市民との協働による花壇づくりなどを推進し、沿道景観の向上に努めます。
- 公共施設では、緑化の先導役として積極的に緑化を推進します。
- 道路や歩行者空間、河川や水路・ため池などの水辺空間を活用し、公園・緑地や公共的施設等を相互に結びつける全市的な水と緑のネットワークづくりを進めます

## 市民の取り組み

- 
- 公園を大切にし、きれいで快適な公園のための維持管理活動に参加する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027年度）
  - 南丹市緑の基本計画（2008～2027年度）
-

## (5) 住宅・住環境の充実

### 10年後のめざす姿

住宅需要を満たす良好な住宅地が増えるとともに、耐震面などの性能向上が図られた住宅も増えるなど、安心して暮らせる住宅ストックが確保されています。

### 現状と課題

- 定住を促進するため、住宅取得への情報提供や土地区画整理事業の推進、住宅取得への各種支援策の充実を図る必要があります。
- 市営住宅の耐久性の向上や予防保全を図るための計画的な維持管理を行い、住宅ストックを確保することで、住宅セーフティネットとしての充実を図ってきました。
- 市営住宅の中には老朽化した住宅も多く、耐用年数等を鑑み、計画的に既存住宅の用途廃止や存続する住宅への維持・バリアフリー化などを進める必要があります。
- 近年の大規模地震により個人所有の住宅に対する耐震化に関心が高まっており、住環境の充実の観点から住宅耐震化事業など、住宅の耐震性能の向上を支援する取り組みが今後も求められています。

### ■公的賃貸住宅の状況

種別	団地数	戸数
公営住宅	16	249
特定公共賃貸住宅	4	25
改良住宅	1	26
府営住宅	1	24
計	22	324

資料：住宅課（平成29年4月1日現在）

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
公営住宅（府営住宅、特定公共賃貸住宅を除く） <管理戸数>	戸	249	249	240



## 施策の方向

### ① 定住を促すための住宅取得の支援

○住宅取得に対する情報提供等の支援策の充実を図るとともに、住宅の供給を進めます。

### ② 安全で快適な住宅づくりの促進

○耐震診断や耐震改修工事を誘導し、安全で災害に強い住宅づくりを促進します。

○バリアフリーに配慮した高齢者や障がい者にやさしい住宅づくりを促進します。

○省資源・省エネルギーなどに配慮した環境負荷の少ない住宅の普及を図り、環境にやさしい住宅づくりを促進します。

### ③ 市営住宅の整備

○市営住宅の耐久性の向上や予防保全を図るための計画的な維持管理を行い、住宅セーフティネットとしての役割を果たせるよう、住宅ストックの確保を図ります。

○老朽化している住宅の計画的な改修や機能向上を図るとともに、入居待機者の解消に向けた取り組みを推進します。

## 市民の取り組み

○住環境の保持に努める。

○住宅のバリアフリー化や耐震化に努める。

## 具体化する部門別計画

○南丹市住生活基本計画（2011～2020年度）

○南丹市公営住宅等長寿命化計画（2012～2021年度）

## 市民の声

○

○

## (6) 上水道の充実

### 10年後のめざす姿

健全な経営体制の下で、安全でおいしい水の供給が図られています。

### 現状と課題

- 南丹市の水道事業は、上水道、16の簡易水道及び3つの飲料水供給施設で構成されています。事業別の構成比率は、上水道が約59%、簡易水道及飲料水供給施設が合計約41%となっています。
- 水源は、上水道区域では井戸水、簡易水道区域においては、表流水及び伏流水であり、夏季には一部の地域では渇水になる場合もあり、河川環境の保全も併せ、水源確保が必要です。また、限りある水の有効利用を促進するため、節水や漏水防止の取り組みが必要です。
- 今後も、水を安定的に供給するため、老朽した施設の定期的な更新や合理的な水道料金体系の改定等により、健全で安定的な水道事業経営を図るとともに、技術的な対応能力の備えた技術職員の継承などが求められています。
- 渇水時や、災害時における給水体制のより一層の充実を図っていくことが必要です。

### ■上水道の状況

	上水道	簡易水道	飲料水供給施設
給水人口(人)	19,289	13,014	102
普及率(%)	100	99.6	100
年間給水量(千m <sup>3</sup> )	2,630.650	2,025.689	13,631
1日1人平均給水量(m <sup>3</sup> )	374	426	357

資料：上水道課（平成29年3月31日現在）

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
有収率(上水道)	%	87.03		
有収率(簡易水道)	%	81.91		

## 施策の方向

### ① 安全で安定した水道水の供給

- 安全でおいしい水を安定的に確保するため、水源の確保と河川環境保全に努めます。
- 水道施設の老朽化が進んでいることから、配水管など水道施設について耐震化も兼ねた計画的更新を図ります。また、監視システムの維持に努めます。
- 緊急時及び災害時の対応及び復旧体制の確立を図ります。

### ② 効率的な水道事業経営

- 安定した事業運営の継続に向け、ダウンサイジングの検討や近隣市町との連携を図るとともに、職員の技術力の継承を進めます。
- 適切な料金体系の設定を行うとともに、料金の納入未収金の解消に努めます。
- 市民の水道事業に対する理解を深めるとともに、水の大切さについての意識高揚を図ります。

## 市民の取り組み

- 日頃から節水に努め、水を大切にします。
- 水道料金を期限内に納付する。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市水道ビジョン（2010～2019年度）

## 市民の声

- 
-

## (7) 下水道の充実

### 10年後のめざす姿

下水道の整備が計画どおりに進められ、より快適な市民生活と水環境が守られています。

### 現状と課題

- 家庭からの排水の適切な処理は、環境を守る視点からも重要な施策です。南丹市の家庭排水の処理は、公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水施設ならびに合併処理浄化槽の設置に分かれています。
- 公共下水道事業については、園部、八木地域が対象であり、他事業に絡む一部未整備地区の整備を計画的に進めています。
- 園部、八木、日吉地域を対象に5つの処理区がある特定環境保全公共下水道事業と、全地域に19の処理区がある農業集落排水事業については、100%の整備率となっています。しかしながら、いまだ未接続の世帯があることから、水洗化促進の啓発をしていく必要があります。
- 下水処理区以外の地区については、合併処理浄化槽の設置により対応しています。しかしながら、高齢化が進む中、浄化槽の設置費用の負担や宅内施設の改造等が必要となるため、経済的に困難な面もありますが、残る未設置の世帯に対し設置を促していく必要があります。

#### ■下水道の状況

	処理区域 内面積 (ha)	処理区域 内戸数 (戸)	処理区域 内人口 (人) A 供用開始時	処理区域 内人口 (人) B	普及率 (%) B/A	水洗化 戸数 (戸)	水洗化 人口 (人) C	水洗化率 (%) C/B
公共下水道事業	801.0	7,416	17,287	17,033	98.5	6,726	15,564	91.4
特定環境保全公共下水道事業	319.1	2,595	6,338	6,338	100	2,312	5,716	90.2
農業集落排水事業	371.0	2,335	5,474	5,474	100	2,119	5,067	92.6
合併処理浄化槽事業	—	1,688	3,588	3,588	100	1,140	2,594	72.3

資料：下水道課

## 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 下水道事業の推進

- 市民の衛生的で快適な暮らしを確保するため、また環境を保全するため、公共下水道の未整備地域の早期整備を図ります。
- 処理区域では、各家庭が下水道の本管へ接続することで水洗化となることから、今後も接続されていない世帯に対し水洗化を働きかけ、環境保全に努めます。
- 施設の長寿命化対策を図り、適切な維持管理に努めます。
- 下水道処理区の統廃合による処理原価の低減を図るとともに、収納対策の強化等により安定した下水道経営に努めます。

### ② 合併処理浄化槽の設置促進

- 合併処理浄化槽については、未設置の世帯に対し設置を働きかけ、そのための支援を図ります。
- 合併処理浄化槽の適切な維持・管理を啓発・指導します。

## 市民の取り組み

- 河川を汚さないように下水道や合併処理浄化槽の利用、設置に努める。
- 下水道使用料を期限内に納付する。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市生活排水基本計画（2017年3月改定）

## 市民の声

- 
-

## (8) 河川環境の整備

### 10年後のめざす姿

水害への対策がなされ、災害に強いとともに自然環境も十分に保全された河川環境になっています。

### 現状と課題

- 南丹市には淀川と由良川の二つの水系があり、その清流とホタルなどの貴重な生態は南丹市の誇りとなっています。しかし、近年はアユ・アマゴなどの河川種苗放流をしても鳥類や外来魚による食害が増加し、個体数が目立って減少するなど生態系の変化が確認されており、河川環境の改善に漁業協同組合とともに取り組んでいます。
- 市内の河川は、大雨時に市街地や山村集落に水害をもたらしてきており、特に近年の台風や集中豪雨の増加など、河川の氾濫や浸水被害など、災害への不安も高まっています。一方で桂川や由良川の支流の集落において水害が多く発生しており、こうした事態に対処するために、現在桂川、由良川、園部川などでの河川改修とともに、支流河川での治水対策など、早期の対応が求められています。
- 山間の道路や集落においては地質的に弱いところや危険箇所があり、がけ崩れや土石流などの土砂災害が懸念されます。このため、今後も治山事業や砂防事業などにより、防災対策を進める必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 災害に強い河川環境の整備

- 崖崩れ、地すべり、土石流などの災害防止のため、国や府へ危険個所の対策とともに、治山・砂防事業の推進を要望します。
- 豪雨や台風時の河川氾濫による浸水被害を防ぐため、府に対して桂川、由良川、園部川などの早期改修を要望します。
- 河川の浚渫や、河川護岸の老朽化や洗掘などに対する維持管理工事を行い、出水時の安全を確保します。また河川法面の除草等を行うことで、河川の通水能力を維持するとともに、河川環境の美化を図ります。

### ② 生態系に配慮した河川環境の保全

- 水質や生物の調査を進めるとともに、ダム湖周辺の環境保全、漁業協同組合との連携による河川的环境整備を進めます。
- 下水道への接続と合併処理浄化槽の整備を図り、生活排水の河川への流入を防ぎます。
- 護岸工事などの河川改修について、自然環境や多様な生態系に配慮した多自然川づくりを推進し、河川環境の保全に努めるとともに、国・府へ要望を行います。
- 府、河川流域の市町、河川を愛護する人々との広域的な交流を進め、水系を保全するネットワークの形成を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- 下水道への接続や合併処理浄化槽の適切な管理を心がける。また、生活排水に気を配り、きれいな川を守る。
- 

## 市民の声

- 
- -
-

## (9) 道路網の確立

### 10年後のめざす姿

まちづくりを支える基盤としての道路網が整備され、市内外の円滑な交流や経済活動が活発になっています。

### 現状と課題

- 広大な南丹市にあって、安全で快適な道路の整備は、経済の発展や生活の向上をもたらし、市民生活に欠かせないものであるとともに、市街地の形成や大規模災害時での支援物資の輸送など様々な機能を保障するものであり、まちづくりを進めるうえでの大切な都市基盤整備の一つです。また市としての一体化の醸成や他地域との交流、暮らしの利便性の確保や過疎集落の維持などまちづくりの根幹に関わる重要な施策でもあります。
- 南丹市は京都市に隣接している上、大阪、神戸とも至近であることから、これら京阪神都市部へのアクセスの向上及び時間距離の短縮は、市の発展に大きく関わります。平成26年度の京都縦貫自動車道の全線開通によって、南丹市と京都府北部や若狭方面及び京都府南部や奈良方面とのアクセスが大きく向上しました。さらに京都市との連携を強化するためには、一般道路の国道9号の機能強化が不可欠といえます。
- 南丹市周辺の広域幹線道路の主な動向としては、国道423号、国道477号及び国道162号の拡幅整備があげられます。今後も南丹市と京阪神方面へのアクセス向上を図るため、これら広域幹線道路の整備促進を図っていく必要があります。
- その他、南丹市と近隣市町を結ぶ広域幹線としての機能面が強い一般国道、南丹市の市内移動を支える府道と市道などには、危険箇所や狭あい区間もまだ多く、今後の整備が望まれます。特に急峻な地形も多い南丹市にあって、各道路整備においては、安全面の確保を最優先に取り組む必要があります。また橋梁や道路の長寿命化とともに、これまでの車優先の道路整備から歩行者優先の人にやさしい安全で歩いて楽しい道づくりが求められています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
道路改良率	%	65.23	65.57	65.91



## 施策の方向

### ① 広域アクセスの強化とネットワークの充実

- 快適で安全な道路環境の確保、京阪神都市部とのアクセス強化に向け、広域圏と結ばれる国道や府道の整備充実について、関係機関に対し積極的な働きかけを行います。
- 京都縦貫自動車道の全線開通や国道 423 号などのアクセスの向上を見据えた定住促進や企業誘致、観光振興を進めます。

### ② 広域幹線道路の整備

- 市としての総合的な道路交通計画、市全体の体系的かつ将来を見据えた道路ネットワークのビジョンを描き、各国道の危険箇所への改修や機能向上を国に働きかけます。

### ③ 暮らしを支える地域幹線道路の適切な維持管理

- 各府道については、市内の円滑な交通環境の維持、市域の一体化を促進するため、危険箇所や狭い箇所、通行不能区間の解消に向けた早期の整備を府に働きかけます。
- 老朽化した橋りょうの修繕を図るとともに、新設・延命化整備や車両の大型化・重量化に対応した整備を実施します。
- 市道については、地域の実情に応じた市道の整備・改良に努め、生活道路の安全性、利便性の確保に向けた道路の整備を推進します。

### ④ 人にやさしい道路環境の整備推進

- すべての人にとって安全・安心で利用しやすい道路整備を進め、危険箇所の点検及び改善と、歩道の拡幅整備やバリアフリー化などの交通安全施設の設置などを図ります。
- 災害時に、災害を想定した緊急車両の通過などにも配慮した生活道路の改善、安全かつ迅速に避難することができる避難路の整備に努めます。

## 市民の取り組み

- きれいな道を保つため、ポイ捨てや違法な路上駐車をやめる。また、道路美化活動に参加する。
- 歩いて楽しい道づくりのため、地域の緑化などを進める。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市都市計画マスタープラン（2008～2027 年度）

## (10) 公共交通の充実

### 10年後のめざす姿

人や環境にやさしい公共交通が整備され、多くの人々に利用されています。

### 現状と課題

- 南丹市の北西には、京都駅から日本海側へ至るJR山陰本線が走っており、市内に八木駅、吉富駅、園部駅、船岡駅、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅の7つの駅があります。平成22年3月に、京都・園部間の複線化による運行開始となり、快速列車の増発、所要時間の短縮、上下線均衡のとれたパターンダイヤ設定が図られました。
- 複線化効果により市民の生活圏の拡大や定住人口の増加が期待される一方で、市内に住む学生や就労者が亀岡市や京都市へ流出することも予測されます。今後は、市街地整備など定住促進施策により、複線化を南丹市の活性化に結びつけるまちづくりが必要です。また、市民からは園部駅以北の複線化の要望もあり、園部・綾部間の複線化事業に向け関係機関とも連携を図りながらJR西日本へさらなる複線化を働きかけています。
- 南丹市では、南丹市営バスとして、スクールバスの一般混乗を行いながら計16路線を直営で運行しています。また、民間バス会社が園部、八木地域での運行を行っています。
- 園部地域の一部は民間事業者への委託によってコミュニティバス、スクールバス（通称：ぐるりんバス）3路線を運行しています。
- これらのほか、福祉サービスとして介護予防や介護の必要な高齢者及び障がいがあり移動が困難な人を対象とした外出支援サービスにより、医療機関などへの送迎を行っています。
- 市民の生活交通（通院、買い物）確保のために、平成23年度から日吉町地域・美山町地域でデマンドバスの実証実験を行い、平成24年10月から本格運行を行っています。また、平成24年度からは園部町地域・八木町地域でも実証実験を行い、平成25年度から八木町地域で本格運行を行っています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
ノンステップバスの導入	台	6	9	11

## 施策の方向

### ① JR山陰本線の複線化

- 園部駅以北の複線化や接続ダイヤの利便性の向上について、市民や関係市町及び「山陰本線京都中部複線化促進協議会」などと連携し、引き続きJR西日本へ働きかけます。

### ② 鉄道を生かしたまちづくり

- 公共交通ターミナルの機能を強化するため、八木駅舎の改築と、八木駅、吉富駅、園部駅の駅周辺整備を進めます。
- 地域住民などによる駅周辺の美化活動や見回り活動などを支援します。
- 鉄道との接続を考慮したバス交通のダイヤ編成など、鉄道利用者への便宜を図ります。
- 観光イベントの開催と集客によって鉄道利用客の増加を促し、JRと連携した観光振興を図ります。

### ③ バス交通の充実

- 各地域のニーズを把握した上で、バス交通網の維持と拡充を図ります。
- バスシステムの利便性を高めるとともに、通勤通学における利用促進やノーマイカーデーの機会を通じて積極的にバスの利用促進を図ります。
- 誰もが乗り降りしやすいノンステップバスの導入などに努めます。

### ④ 多様な公共交通システムの整備

- 多くの集落が広大な市域に点在し、多くの集落で過疎化、高齢化が進むと見込まれる南丹市にとって有効な移動支援方法や交通システムの在り方を市民とともにつねに検討し、必要に応じて導入を図っていきます。また、小型車輛の導入やオンデマンドシステムによる移送、民間委託などを視野に入れます。
- 障がい者や高齢者など、移動困難な方が安心して外出し社会参加できるよう、市が実施する外出支援サービスの充実を図ります。また、NPOなどによる福祉運送活動を支援します。

## 市民の取り組み

- 
- 鉄道を積極的に利用する。
  - きれいな駅を保つため、駅でのポイ捨てや路上の駐輪をやめる。
  - 高齢化が進む集落も多く、みんなで助け合える地域交通システムを考えておく。
-

## (11) 情報通信基盤の充実

### 10年後のめざす姿

誰もがほしい情報を、いつでもどこでも得られるまちが実現しています。

### 現状と課題

- 今日の情報化社会においては、高度な情報基盤が行政サービスの提供や市民生活のために必要不可欠なものとなっています。
- 南丹市は、市域の大半が難視聴地域であり、民間のF T T Hサービスが提供されていない地域が多数ある状況でした。このため、都市部との情報格差をなくし、市内全域でさまざまな情報サービスを得られるよう、各家庭や事業所、公共施設を光ファイバーで結びケーブルテレビやインターネットサービスを提供する、南丹市地域情報通信基盤整備事業を実施し、全市域でF T T Hネットワークが完成しています。
- 南丹市情報センターでは、自主放送番組を制作しケーブルテレビで放映しており、各地域の暮らしや市民活動に密着し、市の一体感を形成する番組づくりを進めています。
- 高度情報基盤については防災・防犯などへの活用が考えられることから、今後多面的に検討を進め、豊かな暮らしを支える充実した公共情報サービスを実現していく必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
C A T V加入率	%	89	90	91
防犯・防災カメラの設置	台	10	15	20

## 施策の方向

### ① 情報基盤の整備

- 高度情報ネットワークの活用を広げるため、市民や事業所にサービス加入を促します。
- 情報通信技術の動向を調査し、つねに情報通信環境の最適化を図ります。また、ハード、ソフトの保守体制の充実を図ります。

### ② 情報提供の推進

- 南丹市情報センターの自主放送番組を充実し、市の一体化の形成と住民の交流を図ります。また、データ放送の活用により、行政情報だけでなく、気象情報や学校情報、地域の情報などをきめ細かく配信し、市民の方が情報を選択して取得できる体制の確立を目指します。あわせて、緊急時の避難情報などについてはL字放送や、データ放送の配信などを活用し、的確かつ迅速に伝えられるように努めます。
- 高度情報基盤を、防災、防犯などさまざまな市民サービスに活用するため、検討を進めます。

### ③ 情報環境の整備

- より多くの市民が高度情報基盤を利用できるよう、高齢者などを対象としたパソコンの操作に関する勉強会などの充実を努めます。
- インターネットなどのセキュリティについて、市民に対し啓発を進めます。

## 市民の取り組み

- 
- ケーブルテレビに加入する。
  - インターネット社会での犯罪やウイルスなどの危険を学び、自ら被害を防ぐよう努める。
  - 情報社会や情報機器操作について家族や仲間同士で積極的に学習する。
-

### 3. 自然と共生したまちづくり【環境】

#### (1) 自然環境の保全

##### 10年後のめざす姿

豊かな自然環境を守り、親しむ人が増え、自然環境を通じた市内外の交流も盛んになっています。

##### 現状と課題

- 南丹市の森林面積は約 54,300ha と総面積の 88% を占めています。人工林はその約 4 割で、特に日吉、美山地域においては林業が基幹産業として位置づけられ、暮らしの営みの中で森林が守られてきました。社会情勢の変化、国産材価格の低迷、林業従事者の高齢化・後継者不足など、林業を取り巻く厳しい環境が、森林の適正な維持・管理に大きく影響を及ぼしています。加えて野生鳥獣や病虫害などによる被害も重なり、森林の荒廃が見られます。
- 自然の景観としては、るり溪、芦生原生林、由良川や桂川などの森林・河川景観があげられます。平成 28 年 3 月には京都丹波高原国定公園が指定され、南丹市では美山地域のほぼ全域と日吉・八木の一部がその区域に含まれています。
- 豊かな「森」は、南丹市の地域特性であり、市民が誇るべき財産です。南丹市における地域創生、持続的な発展を図るためには、この地域特性を見つめ直し、新たな魅力と持続可能な「しごと」を創出することが求められています。
- 生態系の保存、水源のかん養、二酸化炭素の吸収といった森林の持つさまざまな機能への関心も高まる中、今後は森林の計画的な管理保全対策や、森林を守り育てるという意識を市民のみならず来訪者、都市住民へと広げていく必要があります。さらに市民、団体、事業者、市の協働を通じて、自然環境を基軸に据えた「住んでみたいまち」「住み続けたいまち」づくりを継続して進めていくことが求められています。

## 目標指標

指標名		単位	現状値	目標値		
				5年後	10年後	
河川の水質	越方橋	ph	6.3~7.8	6.5~8.5 以内	6.5~8.5 以内	
		BOD	mg/L	1.0	0.7 未満	0.7 未満
		SS	mg/L	4.0	4.0 未満	4.0 未満
	大堰橋	ph		7.1~7.5	6.5~8.5 以内	6.5~8.5 以内
		BOD	mg/L	0.9	1.0 未満	1.0 未満
		SS	mg/L	8.0	3.0 未満	3.0 未満
	出合橋	ph		6.5~8.0	6.5~8.5 以内	6.5~8.5 以内
		BOD	mg/L	0.6	0.5 未満	0.5 未満
		SS	mg/L	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満
	和泉橋	ph		6.8~8.2	6.5~8.5 以内	6.5~8.5 以内
		BOD	mg/L	0.7	0.5 未満	0.5 未満
		SS	mg/L	3.0	1.0 未満	1.0 未満
公害防止協定の締結数（累計）		事業所	45	47 以上	47 以上	
エコファーマー認定件数		件				

## 施策の方向

### ① 豊かな自然環境の保全

- 自然環境の調査を進めるとともに、森林の適正な管理や河川の環境整備を関係主体との協働で進めます。
- 希少生物やその生息環境を守るため、官学連携、市民との協働によって調査研究などの取り組みを進めます。また自然環境、生態系、景観の保全PRに努めます。

### ② 自然環境を支える持続可能な農林水産業の育成

- 森林のさまざまな機能が発揮されるよう、林業振興のための支援、適正な管理及び無秩序な開発の規制などを行い、豊かな森林の保全を図ります。
- 環境に配慮した農業を推進し、農業による水環境への負荷を低減する取り組みを進めます。

### ③ 自然環境の再生につながる新たな「しごと」づくり

- 森林資源を活用した事業、森や里の特性を活用した新規事業の創出など、豊かな自然環境を活用した新たな魅力あるしごとを創出します。
- 森を活用したものづくりの取り組みなど、伝統的に受け継がれてきた技術を生かしたしごとづくりを進めます。

### ④ 自然環境の継承に向けた、人と森をつなげる「しくみ」づくり

- 森の体験事業、都市と農村の交流事業、エコツーリズムの推進、モデルフォレスト運動などを通じて、豊かな自然環境に関わる歴史・伝統とともに新たな価値を創造する取り組みを進めます。
- 森林認証や間伐材の有効利用など市内産出木材のPRや利活用を図ります。
- 市民や来訪者、府民とともに森林を守っていくために、林業体験学校の開催、森林ボランティアの活動支援などによって人材の育成を図り、その活動振興を促します。

## 市民の取り組み

- 
- 自然や環境について学ぶ学習会や森づくり、環境保全・美化の活動に積極的に参加する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市環境基本計画（2011～2020年度）
  - 南丹市「森の京都」推進計画（2015年度～）
-





## (2) 生活環境の向上

### 10年後のめざす姿

健康で安心して暮らせる生活環境が維持されています。

### 現状と課題

- 大気、騒音、振動、悪臭、光化学オキシダントなど、環境基準値や要請限度値内を上回る問題は発生しておらず、良好な生活環境が保たれています。また河川水質は、京都府および市によって定期的に測定が行われており、平成26年の調査結果では、いずれの地点もほぼ環境基準値内となっています。
- 南丹市では、公害発生の未然防止、公害発生時の適切な対処を図るため、市内45事業者と環境保全協定を締結し、事業活動における環境配慮を進めています。一方で、工場や事業所などの公害に関する意識啓発や活動の支援・指導は行われておらず、これらの取り組みを進めることで、より安全で快適な生活環境の創出を図る必要があります。
- 生活環境を守る取り組みとして、公共下水道などの整備、不法投棄の監視・見回り、様々な団体・地域と連携した美化活動などが行われています。これらを通じて安心して美しい生活環境が保たれています。さらに、学校においては教育活動全体を通じて体験学習も含めた環境教育を行っており、今後はこれらの一層の拡大が重要です。
- 道路路肩や山林、日吉ダム湖周辺などで、生活系ごみや家電、古タイヤなどの不法投棄が見られます。これらの不法投棄については日頃から見回りを図っていますが、後を絶たない現状となっています。また、道路や河川へのポイ捨てによる散乱ごみについて、市民や来訪者、通過者への啓発を進めています。市民と行政がともに環境の美化に取り組む体制整備が必要です。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 公害のない、健康に暮らせる美しい環境づくり

- 下水道への接続や浄化槽の設置の推進など、環境負荷を軽減する取り組みを進めます。
- 工場や事業者と連携し、工場排水・排煙などの環境負荷を軽減する取り組みを進めます。

### ② ごみのポイ捨て、不法投棄の防止に向けた啓発、美化活動の推進

- 市民の協力を得て、不法投棄の監視の充実や定期的な見回りを行います。
- 河川や農地、幹線道路のポイ捨て対策として、沿道看板での呼びかけを行うとともに、市民・各種団体・企業などと連携した美化活動を積極的に進めます。
- 市民、NPO、事業所、行政などが連携・協力して、人材や組織の育成を図り、環境保全に取り組む意識向上を図ります。
- 学校教育において、家庭や地域とも連携し、環境への意識向上や美化活動の推進などを進めます。

## 市民の取り組み

- 自分たちのまちを自分たちできれいにする。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市環境基本計画（2011～2020年度）

## 市民の声

- 
-

### (3) 地球環境の保全

#### 10年後のめざす姿

森林などの地域資源を生かした、南丹市ならではの地球環境にやさしい暮らしが実現しています。

#### 現状と課題

- 平成17年の京都議定書に代わる2020年以降の温室効果ガス排出削減に向けた新たな国際的な取り組みであるパリ協定の発効などを踏まえて、地球温暖化に対して我が国は温室効果ガスの削減に向けた行動責任を果たさなければなりません。さらに、平成23年3月の東日本大震災及び原子力発電所事故以降、原子力発電への依存度を低減した新しいエネルギーミックスの実現、分散型のエネルギーシステムへの転換が求められています。
- 南丹市においては、資源循環やエネルギーの有効利用の取り組みが従来から進められてきており、市内には畜産環境の改善も兼ねて有機廃棄物を堆肥や発電に利用するとともに新たな活用技術を研究するバイオエコロジーセンターがあり、積極的に推進しています。しかしながら未だ未利用のバイオマスも多く、今後は平成27年度に策定したバイオマス産業都市構想に基づき、効果的な利活用への取り組みが求められています。
- 再生可能エネルギーについては、住宅用太陽光発電、薪ストーブなどの普及を進めてきました。こうした取り組みの周知と一層の市民、事業所の参画を進めることによって環境に負荷の少ない再生可能エネルギー利活用の一層の普及に努める必要があります。
- 豊かな森林を持つ南丹市では、森林による二酸化炭素の吸収量の拡大が期待されます。森林の二酸化炭素吸収機能の増大に向け、森林の適切な管理・整備を推進する必要があります。

#### ■温室効果ガス総排出量の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
排出量(千t)	279.0	280.5	278.6		

資料：市民環境課

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
堆肥・液肥の利用量	t/年			

## 施策の方向

### ① 地球温暖化対策、省エネの推進

- 市民、事業所、行政の協働により、バイオマスをはじめとした自然エネルギーの効果的な活用や省エネルギーの普及に努めます。
- 温室効果ガス排出の少ない再生可能エネルギーなどへのエネルギー転換やグリーンカーテンなどの取り組みによる節電が行われており、今後も継続して温室効果ガス排出削減に向けた取り組みを推進します。
- 温室効果ガス排出削減に向けた取り組みと併せて、南丹市が有する森林の適正な維持管理を推進し、森林が持つ二酸化炭素吸収機能の維持・向上を図ります。

### ② エネルギーの有効活用の推進

- 市民・事業者の省エネルギーに対する意識向上を図るとともに、市の施設においては、省エネルギーの徹底を図り、成果の評価や改善を図ります。
- 豊富な森林資源や基幹産業である農業、太陽光や豊かな水資源の活用など、地域の特性を生かした再生可能エネルギーの導入、普及促進を図ります。
- 農家や一般家庭に対してバイオエコロジーセンター等の産出する堆肥や研究成果の一層の利活用を促すとともに、支援を進めます。

### ③ 環境にやさしい暮らしの担い手育成

- 環境にやさしい暮らしの在り方を、学校教育や社会教育の場を通じて学び合うとともに、環境について考え、実践、指導する市民グループの育成を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- 地球温暖化防止について学び、できることを考え、実践する。
  - 家庭や事業所、学校でできる省エネルギーなど環境にやさしい暮らしと事業活動を実践する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市環境基本計画（2011～2020年度）
  - 南丹市バイオマス活用推進計画（2015～2024年度）
  - 南丹市バイオマス産業都市構想（2015～2024年度）
-

## (4) 資源循環型社会の形成

### 10年後のめざす姿

ごみの排出が徹底的に減らされ（リデュース）、繰り返し使い（リユース）・資源として再生利用（リサイクル）される資源循環型のまちが形成されています。

### 現状と課題

- 南丹市は、ごみを資源活用するため、市民啓発と資源化ごみの細かな分別による回収やごみ回収の有料化を行っています。このため市民のごみへの意識は高い状況ですが、生活様式の多様化により、ごみの量は年々増加傾向となっています。市内には民間企業や大学等も多く立地していることから、今後も市民、事業者、学校、行政の協働によって省資源・リサイクルを積極的に推進する必要があります。
- し尿については、船井郡衛生管理組合が民間委託による収集と直営による処理を行っています。
- 可燃ごみについては、船井郡衛生管理組合が焼却処理を民間委託していますが、将来にわたって安全で安定した処理ができるよう検討する必要があります。
- 資源ごみなどについては、船井郡衛生管理組合と市が回収・処理を行うほか、個人や団体による回収も積極的に行われています。
- 家庭の資源ごみの集団回収を行う団体への報奨金や家庭への生ごみ堆肥化容器等購入補助金の交付によって、ごみの減量化と市民意識の高揚を図っています。

### ■資源循環の状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1人1日あたりごみ排出量 (g/日・人)	639	648	664	648	658
リサイクルごみ回収量 (t)	1,251	1,230	1,201	1,211	1,142

資料：市民環境課

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
1人1日あたりごみ排出量	g/日・人	658	630	600

## 施策の方向

### ① 3Rの推進

- リデュース（ごみを減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（資源として再利用する）の3Rの考えに基づき、環境への負担の少ない職場環境や暮らしの実践を、広報などを通じて呼びかけるとともに、市の施設においては徹底を図り、成果の評価や改善を図ります。
- ごみの減量化や再利用について、市民や事業所、学校などに一層の理解と協力を求めます。また、生ごみの減量化や資源ごみのリサイクルについて支援を継続します。
- 各地区に環境美化推進委員を委嘱し、ごみの分別の徹底や減量化の啓発を行い、市民意識の高揚を図ります。

### ② 廃棄物の適切な処理の推進

- ごみ、し尿の収集及び処理体制の充実を図り、船井郡衛生管理組合と市が連携して廃棄物処理方法の効率化や改善を図ります。また、処理能力の向上やダイオキシン類対策の徹底を含め、施設・設備の更新を検討します。

## 市民の取り組み

- ごみについて学習し、リデュース・リユース・リサイクルの3Rに取り組む。
- 資源を利用した堆肥を使い、資源循環型の農業やガーデニングを心がける。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市環境基本計画（2011～2020年度）
- 南丹市バイオマス活用推進計画（2015～2024年度）
- 南丹市バイオマス産業都市構想（2015～2024年度）

## 市民の声

- 
-

## 4. 安全・安心なまちづくり【危機管理】

### (1) 災害対策の充実

#### 10年後のめざす姿

防災体制が整い、地域での防災活動が活発に行われ、災害に強いまちが実現しています。

#### 現状と課題

- 平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、地震、津波、原子力災害と、未曾有の被害をもたらしました。その教訓を生かした防災体制の確立が重要であり、南丹市においても、従来の風水害や地震に加え、原子力防災に対する取り組みを推進し、行政の防災体制はもとより、日頃から市民の防災意識を高め、身近な地域における防災への取り組みを促すことが必要です。
- 南丹市とその周辺には大地震が発生した際に大きな被害を及ぼすとされる断層が存在することから、被害を最小限に抑えるために、建築物の耐震化を進める必要があります。
- 地域の自主防災組織に対して、活動支援をするとともに、組織がない地域について防災組織の設立を進めていく必要があります。
- 災害時における応急活動体制については、「南丹市地域防災計画」に基づいた体制づくりを進めており、同計画内容の広報・周知や、計画に基づく防災訓練の実施とともに、避難場所の検証・確保を進める必要があります。また、高齢者、障がいのある人など、自力での避難が難しい災害時要援護者対策として、南丹市災害時要援護者支援台帳による各関係機関での要援護者の把握や個別計画による要援護者の避難支援体制の整備に地域住民とともに取り組む必要があります。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
防災出前講座	回/年	3	6	12
自主防災組織の育成	団体	22	25	30



## 施策の方向

### ① 防災体制の強化

- 「南丹市地域防災計画」に基づき、防災関係機関との連携をより一層強化するとともに、防災施設などのさらなる充実や市民への情報提供に努め、「災害に強いまち」をつくれます。
- 災害時要援護者を行政、消防団や各地域がともに日頃から把握し、災害発生時に救護ができる体制づくりに取り組みます。また、災害時要援護者や女性の視点に立った防災シミュレーションを行い、備蓄品、避難場所の環境整備に反映します。
- 災害の種類、規模別に現在の避難場所を見直し、避難場所の再編や確保を図ります。
- 各地域の自主防災組織を育成します。また、市民が参加する定期的な防災訓練の実施などにより防災意識を高め、地域ぐるみの防災体制の充実を図ります。
- 災害に対する日頃からの備えの重要性を各家庭や企業へ周知啓発し、避難方法や避難場所、避難経路について周知徹底を図ります。
- 大地震を想定し、一般の木造住宅の耐震化に向けた支援を行うとともに、学校をはじめとして、市営住宅等の公共施設の耐震化を順次進めます。

### ② 防災情報システムと防災設備の充実

- 情報通信技術を活用したより高度な情報提供システムの構築を図るとともに、防災行政無線施設の充実を図り、災害に関する情報を速やかかつ的確に市民へ発信し周知する体制を整えます。
- 災害の種別ごとに被災想定を図示したハザードマップを作成し、周知を図ります。
- 土砂災害防止法に基づき、京都府が進めている警戒区域等の指定箇所について、地域に広く周知するとともに、市としても危険箇所等のハザードマップを作成します。

## 市民の取り組み

- 
- 住んでいる地域の災害の危険性、災害が起こったときの避難場所、避難方法などについて知っておく。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域防災計画
  - 南丹市原子力災害住民避難計画
-

## (2) 防犯活動の強化

### 10年後のめざす姿

市民を犯罪から守る様々な環境が整い、地域での防犯活動が強化され、犯罪のない、安心して暮らせるまちが実現しています。

### 現状と課題

- 市民が安心して生活していくためには、行政や関係機関が中心となった安全確保のための取り組みはもちろん、市民一人ひとりや地域が一体となった防犯環境づくりが大切です。
- 南丹市の刑法犯認知件数は、年々減少傾向にあるものの、全国的には子どもや高齢者を狙った犯罪の増加や犯罪の凶悪化等が見受けられます。
- 南丹市では、南丹警察署、南丹船井防犯推進委員協議会各支部や地域と連携して、防犯に対する啓発などを推進しています。
- 少子・高齢化や核家族化、地域のつながりの希薄化などに伴い、地域の犯罪防止機能の低下を防ぐために、今後より一層、防犯意識を高め、地域防犯力の向上を図ることが大切です。
- 夜間における通行の安全を確保し、犯罪や非行を防止するため、公衆防犯灯の整備を進める必要があります。

#### ■犯罪の発生状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
刑法犯認知件数（件）					

資料：京都府警察本部

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
防犯カメラ設置の推進	台	4	10	15
公衆防犯灯LED化の推進	%	8	20	50

## 施策の方向

### ① 防犯意識の啓発

- 地域における防犯意識の向上を図るため、警察をはじめとする関係機関や地域との一層の連携強化を図り、情報提供や啓発活動を推進します。
- 子どもや高齢者等を対象とした防犯教室を開催します。

### ② 地域ぐるみの防犯活動の促進

- 地域における防犯活動の充実を図るため、「こども 110 番の家」の加入や自主防犯ボランティア団体の設立を促進するとともに、その活動を支援します。
- 事業所などとの連携を図り、地域における見回り活動を実施します。

### ③ 防犯体制の強化

- 警察署などの関係機関や市民、事業所、行政の連携による防犯体制を強化し、みんなが安心して暮らせるまちづくりを進めます。
- 犯罪の抑止のため、防犯カメラの設置を進めます。
- 公衆防犯灯の整備を推進するとともに、照明のLED化への切り替えを順次行い、夜間における通行の安全を確保し、防犯効果を高めます。

## 市民の取り組み

- 家族同士や近所同士で防犯意識を高め合う。

## 市民の声

-

### (3) 交通安全対策の強化

#### 10年後のめざす姿

子どもから高齢者まで、全ての市民が安心して外出できる交通環境が整っています。

#### 現状と課題

- 南丹市の交通事故発生件数及び負傷者数は、近年減少傾向にあるものの、交通事故死者数は増加傾向にあり、特に高齢者の割合が高くなっています。
- 「人優先」の交通安全思想のもと、通学路や生活道路、幹線道路等における歩道の整備や、自動車と比較して弱い立場にある歩行者の安全確保、とりわけ高齢者や子どもにとって身近な道路の安全性を高めることが求められています。
- また、歩行者に危険・迷惑を及ぼす自転車運転が後を絶たないことから、自転車利用者の交通ルール意識の向上を図り、自転車事故防止に向けて取り組む必要があります。
- 主要道路での交通事故が増加していることを念頭においた取り組みが必要であり、利便性にも配慮した交通安全施設の整備充実、生涯を通じた交通安全教育の推進と広報活動の充実など、総合的な交通安全対策が求められています。
- 生活道路では、自動車の速度抑制を図り、安全走行の啓発を推進するとともに、幹線道路では、事故多発地点での集中的な事故防止対策や、幹線道路を走行すべき自動車の生活道路への流入抑止対策と交通流の円滑化を推進する必要があります。

#### ■市内交通事故発生状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
交通事故発生件数(件)	110	127	111	103	79
負傷者数(人)	154	161	157	136	102
死者数(人)	7	4	4	6	3

資料：総務課

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 交通安全意識の啓発

- 警察や事業所、地域と連携して交通安全運動を展開し、交通ルールの遵守や交通マナーの実践など、交通安全意識の啓発に努めます。
- 幼児から高齢者まで、心身の発達段階や年齢段階、地域の実情に応じた体系的な交通安全教育の普及に努めます。
- 広報誌やホームページ、CATV等を通じて、交通安全思想の普及に努めます。

### ② 交通安全対策の推進

- 地域の実情を踏まえ、効果的かつ効率的に、ガードレールやカーブミラーなどの交通安全施設の整備を図るとともに、適正な管理を行い、事故防止に努めます。
- 子どもを事故から守り、高齢者や障がい者等が参加しやすい交通社会を形成するため、安心・安全な歩行空間が確保された人優先の道路交通環境整備を図ります。

### ③ 交通事故被害者救済対策の充実

- 交通事故被害者は、精神的にも大きなダメージを受けている上、交通事故に関する知識や情報が乏しいことが少なくないことから、交通事故に関する相談を受けられる機会を充実させるとともに、交通事故の概要・捜査経過等の情報を提供し、被害者対策を積極的に推進します。

## 市民の取り組み

- 歩行者も自転車もドライバーも交通マナーを守り、ドライバーは歩行者優先の安全運転を心がける。

## 市民の声

- 
-

## (4) 消防・救急体制の充実

### 10年後のめざす姿

緊急時においても速やかに対応できる消防・救急体制が確立され、市民が安心して暮らしています。

### 現状と課題

- 南丹市の常備消防は、京都中部広域消防組合で対応しており、市内に園部消防署及び3出張所があります。また、大規模な災害発生時における応急措置については、今後関係機関の協力のもとに広域的な応援体制を強化する取り組みが求められています。
- 消防団については1団4支団19分団(うち女性分団1)で構成されており、団員定数は1,550名です。団員数は減少傾向にあり、団員の確保及び初動態勢の見直しなど、消防力の充実が課題となっています。
- 消防施設は、防火水槽や消防資機材などの整備を計画的に進めています。また、移動系防災行政無線のデジタル化により緊急時の情報伝達機能を高めます。
- 救急医療については、救急車5台で対応しており、市内での搬送先は主に京都中部総合医療センターとなっています。災害時における医療及び助産は市が応急対応として実施しますが、迅速な対応、救命率の向上のため、救急用資機材の充実や市民に対し、応急救護の知識・技能の普及を図っていく必要があります。

### ■消防団員数の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
消防団員数(人)	1,500	1,502	1,467	1,470	1,431

資料：総務課（各年4月1日現在）

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
耐震性貯水槽の設置	基	48	60	70
移動系防災行政無線のデジタル化	%	0	50	100

## 施策の方向

### ① 防火意識の啓発

- 広報紙やホームページ等による情報提供や市民参加の消火・避難訓練の取り組みを進め、防火意識の啓発を推進します。
- 高齢者などの災害弱者をはじめ、すべての市民を火災から守るため、住宅用火災警報器の普及促進に努め、家庭における防火対策を促進します。

### ② 消防体制の充実

- 災害が発生した場合に、地域での消防・防災活動が円滑に行える体制を整えるため、消防団員の確保や初動態勢の見直しなど、総合的な消防・防災体制の充実を図ります。
- 火災などの発生に際し、確実、迅速な出動と適切な消防活動を行うため、消防施設や車両・資機材の点検・整備を進めるとともに、防火水槽や消火栓の増設による消防水利の充実に努めます。

### ③ 救急・救助体制の充実

- 救急医療機関・消防機関等の相互連携・協力体制を確保するとともに、救急・救助体制の整備・拡充を図ります。
- 救急用資機材の充実を図ります。
- AEDの設置施設や場所を広報するとともに、普通救急救命講習会等の実施支援や機器の貸し出しなど、消防団などの団体や市民に対し、救急救命の普及啓発を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- 救急・救命などの講習会に参加し、技術を習得する。
- 

## 市民の声

- 
- -
-

## (5) 消費生活の安定と向上

### 10年後のめざす姿

市民一人ひとりが消費生活に正確な知識を持ち、安心して消費活動を行っています。

### 現状と課題

- 生活様式の多様化に伴い、市民の消費生活の安全確保が求められています。特に高齢者世帯や認知症の人、障がいのある人を狙った悪質な商法や違法行為も全国的に後を絶たず、社会問題となっています。
- 消費者被害を未然に防止するため、広報紙やパンフレットの配布、出前講座などを通じて、消費生活に関する意識の向上を図っています。
- 南丹市消費生活相談窓口では、消費生活相談員により相談を受け付けていますが、相談件数は増加傾向にあり、また、相談内容は複雑化・多様化しています。
- 市民が消費トラブルに遭わないためには、関係する知識を蓄えておくことが重要であり、市民への情報提供や学習機会の充実に努める必要があります。
- 市民が安心した消費生活を送ることができるよう、消費生活相談体制の充実や関係機関との連携をさらに強化することが必要です。

#### ■消費生活相談件数の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
相談件数（件）	59	83	58	78	83

資料：商工観光課

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
消費生活相談件数	件	83	70	60



## 施策の方向

### ① 消費者意識の啓発

- 広報紙やパンフレットの配布などを通じて、悪質な商法や詐欺などに関する被害や予防策の情報提供を進めます。また、一人暮らし高齢者や高齢者世帯などを対象に、指導・啓発を進めます。
- 自己の判断で消費行動が適切に行えない方に対しては、地域の協力を得ながら、身近な見守りを進めます。

### ② 消費生活相談の充実

- 多様化・複雑化した消費者トラブルに対し迅速かつ的確に対応するため、警察や専門機関と連携した相談体制の充実を図ります。
- 消費生活相談窓口を市民の身近な相談窓口としてPRに努めるとともに、研修などを通じて消費生活相談員の資質の向上に努めます。
- 平成29年4月から京丹波町と協定を結び、両市町の住民がどちらの窓口も利用することが可能になり、さらに窓口機能の強化を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- 悪質な商法に注意するとともに、周囲の高齢者などに注意を呼びかける。
- 

## 市民の声

- 
- -
-

## 5. 活力とにぎわいのあるまちづくり【産業振興】

### (1) 観光の振興

#### 10年後のめざす姿

南丹市の知名度が上がり、観光が地域の経済を支える産業として充実しています。

#### 現状と課題

- 南丹市は、広大な自然環境、伝統的なかやぶき集落や文化財、多様な農産物や加工品など、幅広い観光資源を有しており、年間数多くの観光客が訪れ、観光は重要な産業として南丹市の経済を担っています。地域での雇用の確保、定住促進に向けて、豊かな地域資源を生かした質の高い観光サービス、南丹ブランドの開発や販路開拓などにより集客や滞在時間の延長を図り、一層の観光振興を図ることが求められています。
- 観光は地域への経済波及効果、さらには定住促進につながるものであり、積極的なPRを進めてきましたが、南丹市の知名度はまだ低いのが現状です。
- 市内には園部地域の「るり溪温泉」や日吉地域の「スプリングスひよし」などの温泉施設、さらに美山町自然文化村などの観光拠点が整備されています。こうした既存施設を有効に活用した観光ネットワーク形成や観光消費額の増大を図るための滞在型プログラムの充実を図る必要があります

#### ■観光の状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
観光入込客数（千人）	1,633	1,789	1,717	1,913	2,661
観光消費額（千円）	2,250	2,344	2,618	2,762	2,938
一人あたり観光消費額（円）	1,378	1,310	1,525	1,444	1,104

資料：商工観光課

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
観光入込客数	千人	2,661	2,700	3,000
一人あたり観光消費額	円	1,104	2,000	3,000

## 施策の方向

### ① 観光ネットワークの確立

- 関係団体及び地域、行政の一層の連携を図り、観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上、新たな観光資源の開発・整備などを図ります。
- JR各駅、観光資源、宿泊施設をつないだ多様なモデルコースを設定するとともに、南丹市の資源を生かした観光プログラムの充実を図ります。
- 参加・体験型観光やアウトドアへの志向、高級志向や日帰り団体観光などさまざまな観光ニーズに対応し、多彩な地域資源を活用した新しい観光スタイルを提案するとともに受け入れ体制を整備します。
- 観光消費額向上のため、魅力的で付加価値の高い南丹ブランドの特産品開発・販路開拓、滞在時間延長のための体験メニューの充実、その他観光機能の充実を図ります。

### ② 観光施設及び周辺整備

- 観光施設及び周辺の設備の充実、景観保全、環境美化などの充実を図ります。
- 各観光施設において、集客力向上のため費用対効果を見据えながら、必要な設備投資を行います。また体験農園や農家民宿・市民農園などの観光施設の充実を図ります。

### ③ 情報発信とPRの強化

- 京都市内へ訪れる外国人を含む多くの観光客を誘致する取り組みを進めます。
- 観光パンフレットやホームページによる観光情報を充実させます。
- 市民の交流と一体化及び南丹市のPRのため、市全体として各種イベントの開催を支援し、運営において一層の市民参加を促します。
- 中部圏、首都圏や、海外へ観光PRを行い、誘客を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- 市の観光資源を知り、多くの人にPRする。
  - 観光施設周辺や散策路の美化活動に協力する。
  - 観光ボランティアに参加し、活躍する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市美山エコツーリズム推進全体構想（2014年度～）
-

## (2) エコツーリズムの推進

### 10年後のめざす姿

南丹市の豊かな自然環境に親しむ人が、南丹市内外を問わず増加しています。

### 現状と課題

- 南丹市では、平成 26 年には南丹市美山エコツーリズム推進全体構想が定められ、豊かな自然環境の保全と体験型環境学習、地域の環境を生かした持続可能な観光推進が求められています。豊かな自然環境を生かした、南丹市ならではの体験・滞在型プログラムの充実が求められています。
- 環境を生かした産業として、溪流釣客のための観光漁業としての水産業が挙げられます。地域に大きな経済波及効果をもたらしてきましたが、近年はレクリエーションの多様化などから若年層の釣り離れが進み、入漁者が減少しています。また、河川へのごみの投棄や家庭排水の流入による水質の悪化など、河川環境保全の対策も求められています。
- 南丹市は、国内外の都市や人々との交流事業も多彩に推進しており、中でも豊かな自然環境や受け継がれてきた文化を生かした交流事業を通じて、今後の定住促進につなげる取り組みが求められています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① エコツーリズムを推進する体制づくり

- エコツーリズムに対する住民や事業者などの理解と関心の向上を図ります。
- 自然・文化財・生活文化など、南丹市域に存在する有形無形の宝物の発見と保全や価値観の醸成を進めます。
- インタープリター（エコツアーガイド）の養成と人材発掘を図ります。

### ② エコツーリズムに関するプログラムの充実

- 京阪神都市部に近い立地と農村環境、自然環境を生かし、観光農園や森林での体験学習など、グリーンツーリズムを推進します。
- 市内の多様な資源をつないだエコツアープログラムの開発を進めます。
- 観光客に向けてエコツーリズムの意義・価値を積極的に発信していきます。

### ③ 自然環境の保全と観光を持続させる取り組み

- 環境パトロールの強化とボランティア集団の結成を進めます。
- 各漁業協同組合を支援し、淡水魚の優良な稚魚の適期放流と増殖、さらに害魚の駆除、河川環境の保全、ごみの投棄防止などを図ります。
- 豊かな自然環境を生かし、次世代を担う多くの子どもたちを中心とした都市と農村の交流による地域の活性化を図ります。

## 市民の取り組み

- 
- エコツアーに参加して、南丹市の豊かな自然に積極的にふれる。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域創生戦略（2015～2019年度）
- 

## 市民の声

- 
- -
-

### (3) 農業の振興

#### 10年後のめざす姿

田園景観が守られ、地産地消も進み、地域の基幹産業として大きな役割を果たしています。

#### 現状と課題

- 農業を基幹産業としてきた南丹市にあつては、至るところに美しい田園風景が広がっています。しかし近年は、農業後継者の不足、集落の過疎化や高齢化などから耕作放棄地の増加も懸念され、農地の多面的・公益的な機能を改めて認識し、守る取り組みが求められています。
- 南丹市では、米、畜産、黒豆や小豆、京野菜をはじめとする「京のブランド産品」等の生産が盛んで、特色ある農業として、バイオエコロジーセンターなどによる畜産糞尿の堆肥化や、それと連携した土づくりなどによる安全・安心な農産物などの生産を進めてきました。
- ほ場整備については、園部、日吉、美山地域は完了しましたが、八木地域では整備を進めています。また、農道・水路・ため池などの老朽化への対応が必要となっています。
- 販売農家数は、近年減少傾向を示しており、農業者も高齢者の比率が高くなっています。農業者の高齢化や集落の過疎化の傾向は今後も続くことが予想され、今後はより効率的で都市近郊という立地を生かした農業を一層振興するため、集落営農や法人化の促進、京のブランド産品等付加価値の高い農産物の生産拡大、観光や交流を視野に入れた体験農業の事業化などが必要となっています。
- 地球温暖化や、外来種の増加などにより、ニホンジカ、アライグマなどの野生鳥獣の個体数が増加し、農林水産業に甚大な被害を与えています。南丹市における対策も一定の効果は見られるものの、毎年の甚大な農業被害は後を絶ちません。今後は、環境面の改善も含む総合防除の視点に立った、対応の強化が求められています。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
認定農業者、認定新規就農者の増加	人	105	120	135
京のブランド産品の販売量	t/年			

## 施策の方向

### ① 地域の暮らし・環境を支える基盤整備と農地の保全

- 農業振興地域などの適切な指定、運用と管理に努め、農業振興のための支援や農業従事者の育成・支援によって、田園や里山、農山村集落の保全を図ります。
- 集落営農の組織化や法人化の促進と経営強化、農地の集積などにより効率の良い農業を進めるとともに、適切かつ計画的な農業基盤の整備を進め、耕作放棄地対策を含む総合的な農地の保全を進めます。
- 農村景観や地域環境の維持・増進を図るため、地域ぐるみの共同活動を支援します。

### ② 南丹市の特色を生かした農業の振興

- 「京のブランド産品」の優良生産地として、生産量の回復をめざし、生産活動を支援します。
- 地域の特産物や安全・安心な農産物への市民の理解を深め、地産地消を進めます。
- 認定農業者を支援するとともに、UターンやIターンを含めた新規就農者の育成・支援を推進し、担い手の確保を図ります。
- 環境への負荷をできるだけ抑えた持続可能な農業を進め、無農薬や低農薬栽培を推奨し、畜産農家と連携した堆肥の有効利用による土づくりなどにより、安全・安心かつ環境保全を重視した先進的な農産物生産を支援します。
- 六次産業化の多様な仕組みを検証し、農産物の付加価値を高め農家所得の向上を図ります。
- 畜産農家の経営安定への支援、環境改善や安全・安心な畜産物の生産を図ります。

### ③ 野生有害鳥獣などへの対策

- 広域連携も含めた有害鳥獣の捕獲事業を実施し、野生鳥獣の生息個体数を制限するため計画的な捕獲を進めます。
- 有効な防除施設の設置の支援とともに、防除や捕獲のための相談・指導を進めます。

## 市民の取り組み

- 
- 集落営農組織や法人化への取り組みに協力し、耕作放棄地をなくす。
  - 野生動物を集落に近づけないために、できるだけ工夫を心がける。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域創生戦略（2015～2019年度）
-

## (4) 林業の振興

### 10年後のめざす姿

地域の環境を支える森林が適切に維持管理され、地域資源を生かした産業も活発になっています。

### 現状と課題

- 南丹市の森林面積は約 54,300ha と総面積の 88%を占めています。人工林はその約 4 割で、特に日吉、美山地域においては林業が基幹産業として位置づけられ、暮らしの営みの中で森林が守られてきました。
- 近年は長引く木材価格の低迷で林業経営は厳しく、林業生産が減少し、林業労働者の減少と高齢化などにより労働力が低下し、人工林が適切に管理されない状況となっています。加えて野生鳥獣や病虫害などによる被害も重なり、森林の荒廃が見られます。
- 特産の丹波マツタケも松林の害虫被害などにより生産量が激減しています。
- 生態系の保存、水源のかん養、二酸化炭素の吸収といった森林の持つさまざまな機能への関心も高まっており、今後は森林の計画的な管理保全対策や、森林を守り育てるという意識を市民のみならず来訪者、都市住民へと広げていく必要があります。
- 南丹市では、平成 26 年には南丹市美山エコツーリズム推進全体構想が定められました。また「京都丹波高原国定公園」に市域が指定されたことを受け、京都府の「森の京都」事業と連携した自然環境の保全や体験型観光の促進なども進められています。今後、森林などの自然環境を生かした体験型環境学習、地域の環境を生かした持続可能な観光推進が求められており、森林の保全を支える動きとして期待されています。
- 平成 28 年度から「京都府の豊かな森を育てる府民税」が創設されました。その府民税を活用した交付金による森林整備が期待されています。そのような中で、「南丹市里山再生整備事業」を創設し、独自の施策を講じています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後



## 施策の方向

### ① 地域の暮らし・環境を支える森林の保全とその環境整備

- 森林のさまざまな機能が発揮されるよう、適正な管理及び無秩序な開発の規制などを行うことによって、豊かな森林の保全を図ります。
- 人工林を適切に管理・生育させるために、樹齢ごとの計画的な施業を促進・支援し、適切に整備された森林を未来に継承します。
- 各森林組合や山林所有者が行う環境整備、保全活動などに必要な支援を進めます。田園や里山、農山村集落の景観保全を図ります。

### ② 南丹市の環境を支える林業の振興

- 新たな林業従事者の確保と育成、労働条件の改善に向けた支援を進めます。また適切な森林整備に向けて、技術指導、普及啓発、林業関係団体への支援を進めます。
- 林道・作業道などの路網整備を進めます。
- 地元産材の付加価値を高めることと、森林認証や間伐材の利活用を促進させるために、京都府や関係機関と連携したPRや利活用の促進を図ります。
- 間伐材の利活用や、シイタケ、クリ、マツタケなどの林産物の振興を図ります。
- 森林の保全と収益性確保に向けた、滞在型体験プログラムの事業化などを図ります。

### ③ 野生有害鳥獣などへの対策

- 広域連携も含めた有害鳥獣の捕獲事業を実施し、野生鳥獣の生息個体数を制限するため計画的な捕獲を進めます。
- 関係機関及び住民が一体となって、地域ぐるみで森林と集落の間への緩衝帯整備や里山の環境整備を進め、総合的に防除する環境づくりに取り組みます。また、有効な防除施設の設置を支援します。
- 森林において、病虫害の防除・駆除を進めます。
- ツキノワグマによる人工林へのクマ剥ぎ防止対策を進めます。

## 市民の取り組み

- 
- 体験学習に参加するなど森林について学習する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域創生戦略（2015～2019年度）
-

## (5) 工業の振興

### 10年後のめざす姿

新たな企業誘致、起業などが進み、市民の就労先がある一定確保されています。

### 現状と課題

- 南丹市には、30社を超える誘致企業が立地し、正社員・パート合わせて2,700人を超える雇用があります。雇用の場の確保とともに、地域経済を支える重要な産業として、さらなる企業誘致を図ることが求められます。
- 産業の活性化をめざす産業拠点として「京都新光悦村」への企業の立地が進んでいますが、引き続き積極的な企業誘致を推進する必要があります。
- 雇用の場の確保や定住促進を目指して、市の財政を支える産業の基盤を整備していく必要があります。
- 工業振興を図り、安定性や収益性の高い事業化への支援を進めるとともに、Uターン者や新たな転入者などの就業や起業支援に取り組みます。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
誘致に向けた企業との接触	社	0	1	2

## 施策の方向

### ① 京都新光悦村の波及効果の拡大

- 京都新光悦村において、若い職人の育成や伝統的な素材・技術または意匠の新分野への活用、先端技術との融合による新市場の開拓などをめざす企業などの誘致を推進します。
- 京都新光悦村への企業進出による産業の振興、定住人口の増加、雇用の創出、新たな文化の創出、市の知名度の向上などの波及効果がより拡大するよう、市の活性化を担う取り組みとして市内の連携及び商工団体などとの連携を強化し、一体となった取り組みを進めます。
- 市内観光資源との連携によって、京都新光悦村を体験型の観光施設としての利用を検討します。

### ② 工業用地の整備と企業誘致の推進

- 雇用の場の確保や定住促進に加えて、市の財政を支える産業の基盤を整備するため、の特性を生かした工場用地の整備に努めます。
- 地元新規雇用にかかる企業への支援に努めます。
- 既存企業の育成を図るとともに、地域産業の活性化に向け積極的な企業誘致などによる新たな雇用機会の創出を図ります。

### ③ 起業支援の推進

- 産学官の連携を深め、市内の大学等を卒業した人が工芸などの起業をしやすいよう、その支援に努めます。
- 地域のニーズに対応して福祉や環境保全など各分野で可能性のあるコミュニティビジネスなどの起業支援に努めます。
- 地域の人材や活力を生かした経済発展を促すため、商工会などが行う起業支援や商工業者への活性化の取り組みを支援します。

## 市民の取り組み

- 
- 地域に貢献する進出企業や起業家を応援する。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域創生戦略（2015～2019年度）
-

## (6) 商業の振興

### 10年後のめざす姿

地域資源を生かした「南丹ブランド」が確立されるとともに、それぞれの地域での日常的な消費生活も便利になっています。

### 現状と課題

- 郊外型大型店が増加した近隣市町への消費の流出などによって、近年市内の商品販売額は、大幅に減少しています。これによって身近な地域の商業が失われつつあり、車を持たない子どもや高齢者世帯、学生にとって日常的な消費生活が不便になっています。
- 南丹市の地域の特性を生かした付加価値を付けた、特徴あるものや品質の高いものを製造・販売していくことが求められます。
- 市内には京都伝統工芸大学校があり、その卒業生が地域の協力を得ながら市内に工房を開設しています。また、平成24年4月には京都美術工芸大学が開学し、伝統の美を生かしながら新たな価値を創造できる人材育成に取り組まれています。
- ものづくり団地「京都新光悦村」など、ものづくりに関わる人材の層が厚い南丹市では、新しいものづくりの展開による「南丹ブランド」を発信していくことが期待されます。
- 今後は、市内各地域の特産品と地域資源等を連携させた特色ある南丹市独自の「南丹ブランド」のイメージを確立し、消費者の支持・信頼を得られる「南丹ブランド」の「ほんまもん」を提供する仕組みを整えていく必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 地域の暮らしを支える商業の振興

- 魅力ある商業の集積を促すため、商工会などの民間団体、各事業所、まちづくり機関やNPOなどのまちづくり活動、新たな起業を支援します。
- 販売促進や顧客の確保など、地元商業者による主体的な取り組みを支援します。
- 山間集落や市街地など、それぞれの地域住民の暮らしを支えるために必要な商業の育成、仕組みづくりを推進します。

### ② 南丹ブランドの確立と販路の拡大

- 生産者と商工業者、市民団体などの連携・協力、特色ある地域の相互の連携による一体的な南丹ブランドの開発、加工、販路開拓の展開を支援します。
- 南丹市の特産品を南丹ブランドとして確立するため、市民及び全国の消費者や事業者へのPRに努めます。また滞在型観光の推進と連携し、南丹ブランドの市内での効果的な販売拠点・販売方法を確立します。

### ③ 南丹ブランドを支える生産者、産業への支援

- 安全・安心で消費者ニーズに沿った売れる米・野菜・畜産物など、地域資源を生かした特徴的な製品の生産を引き続き支援します。
- 南丹市で活動する工芸家等のネットワークを生かし、相互交流と連携によりつくり手を支え、その魅力の発信、製品のブランド化と販路拡大を進める仕組みをつくります。
- 伝統工芸など南丹市の地域資源を生かした産業、工芸品の作り手や工業製品の生産者を支援し、南丹市の新たな特産品として定着するよう育成に努めます。

## 市民の取り組み

- 
- 南丹市の特産品を知り、多くの人に広める。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域創生戦略（2015～2019年度）
-

## (7) 雇用の安定

### 10年後のめざす姿

雇用の機会が増えるとともに、安心して働ける環境が整っている。

### 現状と課題

- 南丹市には、30社を超える誘致企業が立地し、正社員・パート合わせて2,700人を超える雇用がありますが、多くの従業者が市外からの通勤者となっています。一方で、南丹市から京都市内などへの通勤者も多く、就業者の実態やニーズを企業との連携によって把握した上で、市内での居住・就労を促す必要があります。
- 今後の定住促進への条件整備に向けて、住宅需要への対応とともに、地域雇用を促進し、さらに新たな企業誘致や起業支援に努めていくことで、就労の機会を増やすことが求められます。
- 誘致企業の安定性や収益性の高い事業化への支援を進めるとともに、Uターン者や新たな転入者などの就業を促進する取り組みが必要です。
- 誰でも安心して仕事ができ、暮らしていける社会に向けて、老若男女、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働くことのできる労働環境づくりが求められます。
- 健康寿命の延伸、安心して働き続けるために、労働者の健康管理、メンタルヘルス対策が求められます。企業や工場などの事業者による取り組みとともに、一人ひとりが自らの健康に意識を向けることが必要になっています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
ものづくり産業への就労支援	人	5	10	20

## 施策の方向

### ① 就労支援の充実

- 農林業や地元商工業が南丹市の「働く場」として一層拡大するよう支援するとともに、積極的な企業誘致活動を行うなど、地元の産業の一層の振興を図り、雇用機会の拡大に努めます。
- 市内で働きたいというニーズに対応するため、市内の企業やハローワークなどの関係機関と連携し、相談・情報提供体制の充実、斡旋が図れる仕組みづくりを進めます。
- 府やハローワークの関係機関と連携し、U・J・Iターン者の雇用促進に向けた情報提供などに努め、定住を促進するための情報発信を積極的に行います。
- 市内の就労者が南丹市に定住できるよう、実態やニーズを把握した上で、企業や地域とともに長期就労や定住を促すための対策を検討します。
- シルバー人材センターによる高齢者の就労機会の拡充を促し、生涯元気で働けるまちづくりを進めます。
- 新規卒業者や障がい者の雇用促進に向け、事業者への啓発や支援を行います。
- 子育て家庭の就労を支援する保育などのサービスを充実させます。

### ② 就労環境の改善

- 関係機関と連携し、老若男女、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して働くことのできる労働環境づくりに取り組みます。
- 女性の就労を促進するため、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みみが広がるよう、市民、市内各企業に対する意識啓発を進めます。

### ③ 労働者福祉環境の充実

- 労働者の健康増進のため、メンタルヘルス対策をはじめとした各種カウンセリングの充実や、健診体制の確立、疾病予防対策の充実について、関係機関と連携し事業者に対し働きかけます。

## 市民の取り組み

- 
- 地元雇用を進め、働く場と定住環境の両面が整った活気あるまちをつくる。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市地域創生戦略（2015～2019年度）
-

## 6. 学び楽しむまちづくり【教育・文化・スポーツ】

### (1) 家庭教育や幼児教育の充実

#### 10年後のめざす姿

子どもが、家庭や地域において基本的な生活習慣や社会性を身につけ、心身ともに健康に育っているまちが実現しています。

#### 現状と課題

- 少子化や家族の小規模化等による家族形態の変化は、家族との関わりの中で行われてきた基本ルールの獲得や社会性の育み等に少なからず影響を与えていることが考えられます。
- こうした社会状況のもと、子育て機能が学校教育に依存しすぎる傾向が強まってきた中で、いじめや少年非行が社会問題化してきたことから、今日、改めて学校・家庭・地域社会がそれぞれの教育機能をバランスよく発揮し合い、子育てを地域社会総がかりで行うことの重要性が高まってきています。
- また、子どもの育ちを最大限にしていくためには、就学前の幼児教育は極めて重要であり、就学前の営みの中で形成された力を就学後においても発揮できるようにしていくためには、保育所・幼稚園と小学校や、小学校と中学校の接続を滑らかにする取り組みが、幼児、児童生徒の育ちをより確かなものにつな갑니다。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
乳幼児への保育・教育が充実していると思う人の割合（「どちらかといえば」を含む）	%	39.3	43.5	56.0



## 施策の方向

### ① 家庭や地域の教育力の向上

- 親の育ちを支援する学習機会の充実と、親と子の深いつながりを育む、家庭の教育力の向上に努めます。
- 地域総がかりで子どもを育み、地域社会の絆を深める活動を進めます。

### ② 幼児教育の充実

- 幼児が健やかに成長し心身の発達が進められるよう、家庭や地域での生活と幼稚園での生活が相互に循環するような密接な関連をもちつつ、生活の自然な流れを大切にする中で、必要な様々な体験が豊富に得られるような環境を構成します。
- 保育所においても、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図る中で、子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための取り組みを推進します。そのためには、保育計画の作成及びそれに基づく実践を行い、その内容について保護者や地域住民の意見を聞くなどして、みずから評価を行い、公表するように努めるとともに、課題や共通理解を深め、研修や自己研鑽によって、資質の向上、専門性の向上を図ります。

### ③ 保育所、幼稚園、小・中学校の連携の推進

- 子どもの生活や発達や学びの連続性を大切にするため、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携強化を図り、府の行う「もうすぐ1年生体験入学推進事業」や市独自の中学校ブロック毎の教育研究事業を通じて、連携強化を進めます。

## 市民の取り組み

- 家庭や地域、学校が学校区ごとに目指す子ども像を共有し、その実現に向けた話し合いを重ねる。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市教育大綱－南丹市教育振興基本計画－（2016～2020年度）

## 市民の声

-

## (2) 学校教育の充実

### 10年後のめざす姿

「ふるさと南丹市」への誇りと人を思いやるやさしさを持ち、生きる力と生涯にわたって学び続ける意欲を持った子どもが育っています。

### 現状と課題

- 南丹市では、幼児・児童・生徒一人ひとりに、生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、「ふるさと南丹市」を愛する心を育み、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を通して、未来に向かってたくましく生きる力の育成に努めています。
- 全国的にいじめの問題が社会問題化する中で、南丹市においては、「南丹市いじめ防止基本方針」及び「学校いじめ防止基本方針」を定め、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処等に関する措置を実効的に行うため、教師力の向上と地域社会と連携した教育の推進によっていじめを許さない学校風土の醸成に努めています。さらに同和教育を人権教育の重要な柱として位置付け、地域社会総がかりで人権尊重の心を育む教育を充実し、豊かな心を持った幼児・児童生徒一人ひとりの人格形成につなげていくことが重要です。
- 充実した学校教育を進める上で、安全・安心な学習環境の整備は重要な課題です。様々な災害から子どもの命を守るという防災の観点からの学校施設の耐震化に続いて、老朽化した施設・設備の改修、普通教室以外の空調設備の設置、市内小中学校普通教室への空調設備の新設、併せて今日的な情報化に対応した情報関係設備の整備や環境教育の視点を持った質の高い教育環境を整備することが必要です。

#### ■市立小・中学校における普通学級数の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
小学校（学級）					
中学校（学級）					

資料：学校教育課（各年5月1日現在）

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
小、中学校施設老朽化対策	%	70	100	100
小、中学校特別教室等空調設備整備率	%	50	100	100
小、中学校 ICT 環境整備率	%	90	100	100

## 施策の方向

### ① 教育内容の充実

- 生きる力としての学力を育むため、京都式少人数教育を活用した基礎学力の充実に努めるとともに、子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業の充実等により、学習意欲の向上を図ります。
- 「ことばの力」を高める取り組みを進めるため、読書環境を含む学校教育環境の整備や「ことば」に関する指導環境の充実に努めます。
- 思いやりやいたわりの心など、豊かな人間性を育むため、発達段階に応じた系統的な人権教育と、身近な地域教材を生かした道徳教育の充実を図ります。
- たくましく健やかなからだを育むため、楽しく取り組める遊びやスポーツ活動を通じて、体力・運動能力の向上に努めます。
- 発達障がいを含む、障がいのある幼児・児童・生徒一人ひとりの自立と社会参加をめざし、特別支援教育の推進を図ります。
- 子どもたちが自らの進路を主体的に切り拓き、自信を持って自己実現を図ることができるよう、発達段階に応じたキャリア教育を推進します。
- 「学校支援地域本部」や「学校運営協議会」の取り組みを通して、学校・家庭・地域が協働して子育てにかかわる仕組みづくりを進めます。

### ② 学習教育環境の整備・充実

- 学校教育施設の老朽化対策等、地球温暖化対応や、健康面に配慮した快適な環境の整備、安全・安心な施設環境を構築します。また、学校の情報化の充実や教材整備の推進、学校職場環境南丹市モデル構築を行うなど、質の高い教育を支える環境を整備します。

### ③ 通学の支援

- 遠距離通学の児童・生徒への通学補助などの支援を行うとともに、安全確保の目的も含めたスクールバスの運行に努めます。また、地域住民とともに、通学時に事故、犯罪、野生動物などから児童・生徒を守る安全対策に努めます。

## 市民の取り組み

- 
- 家庭や地域、学校が共有した目指す児童・生徒の実現に向け、それぞれが持つ役割を果たしつつ協働できる取り組みを進める。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市教育大綱－南丹市教育振興基本計画－（2016～2020年度）
  - 南丹市いじめ防止基本方針（2014年度～）
-

### (3) 生涯学習の推進

#### 10年後のめざす姿

市民一人ひとりが、それぞれの年代や生活スタイルに応じて、自由に学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映されています。

#### 現状と課題

- 市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送っていくためには、生涯にわたって、自ら学び、自己を高め、さらに学んだ成果を社会で生かす生涯学習社会が求められています。
- 南丹市では、公民館、図書館（1館3室）などの生涯学習施設を中心として、市民の自発的な学習の促進に努めています。また、生涯学習推進組織の育成や学習機会の提供として、各種社会教育団体の育成・支援や、家庭教育支援事業、青少年活動事業、高齢者対象事業などを行っています。
- 生涯学習社会の実現に向けて、地域の実態や伝統を大切にしながら、多様な学習機会や情報の提供、学習環境の総合的な整備・充実などに努め、学校・地域・家庭の連携・協力を強化し、地域社会総がかりで子どもを育むなど、地域社会の教育力の向上と、生涯にわたって学び、生かす生涯学習を支援する体制づくりが求められています。
- 豊かな心と人間性を育み、より充実した生活を楽しめるよう、文化芸術の振興を図る必要があります。

#### ■市内社会教育施設での生涯学習講座数と受講者の推移

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
生涯学習講座数（講座）	25	20	21	15	15
受講者数（人）	1,533	1,576	1,638	1,802	1,810

資料：社会教育課

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
公民館施設の年間利用者数	人	64,632	70,000	75,000
生涯学習講座 年間受講者数	人	1,810	1,900	2,000
図書館貸出利用者数(年間)	人	40,866	42,200	43,700
図書館貸出冊数（年間）	冊	122,341	126,600	131,100

## 施策の方向

### ① 生涯学習拠点施設の充実

- 公民館、図書館などの充実を図るとともに、多様な学習講座の開催など学習機会の提供を進め、市民の自発的な学習活動への参加を促進します。
- 地域の方々をボランティアとして、学校や地域の実情に応じて支援する学校支援地域本部事業の充実を図ります。
- 老朽化している生涯学習施設については、計画的な改修を行い、すべての市民が安心して学習できる環境をつくります。

### ② 生涯学習推進組織の育成強化

- 地域社会の形成や学習機会の拡充の上で重要な役割を担っている社会教育関係団体の自主的な学習活動を育成・支援するため、相談への適切な対応や情報提供などを進めます。

### ③ 文化芸術の振興

- 文化芸術にふれる機会や自ら創造する楽しみを通じて、豊かな心や人間性を育み、日々の暮らしにうるおいが生まれるよう、文化芸術の振興を図ります。

## 市民の取り組み

- 自分を高めるため、生涯にわたって学びの姿勢をもつ。
- 学んだことを地域のまちづくりに生かす。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市教育大綱－南丹市教育振興基本計画－（2016～2020年度）

## 市民の声

- 
-

## (4) 伝統文化の継承

### 10年後のめざす姿

南丹市の歴史文化遺産が保存され、市民が地域の伝統文化を大切に守っています。

### 現状と課題

- 南丹市には、長い歴史の中で培われてきた多様な文化があり、それらは建物や絵画、彫刻、そして地域の伝統的な祭礼などとして今日に伝えられています。こうした歴史文化遺産を市民共通の財産とするため、さまざまな調査を経て文化財として指定するなどの措置が講じられてきています。
- 市域には多くの指定文化財があり、それらの保護に必要な支援を行ってきました。中でも美山地域の伝統的建造物群保存地区のかやぶき民家群は、南丹市を代表するともいえるもので、多くの観光客が訪れています。文化財については、このように保存と活用を併せて進める視点も、歴史文化の周知や観光振興の上で大切といえます。
- 近年、国は文化財を単に保護するだけでなく、事業資産や観光資源として生かしながら、ゆるやかに守ることを支援する登録文化財制度を進めており、南丹市でもこの制度を活用した取り組みが進められてきています。
- 歴史を学ぶための取り組みとしては、文化博物館、郷土資料館などで文化財関係資料の展示・公開を行うとともに、児童生徒、市民や来訪者へ歴史文化を学ぶ機会も提供しています。
- 市内各地域には多くの伝統行事や伝統文化があり、長い歴史の中で現代に引き継がれてきました。しかし、集落の少子高齢化、過疎化が進む現在、それらの保存・継承に取り組む必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
文化博物館と郷土資料館の年間入場者数	人	6,375	6,700	7,000
市指定文化財の指定数	件	87	89	91

## 施策の方向

### ① 歴史文化遺産の調査と保全

- 地域の歴史文化資料、伝統行事などの調査と収集を進めるとともに、国登録文化財制度の積極的な活用を図るなど、文化財の保護並びに活用を進めます。また、歴史文化遺産の保存・修理・修復などを図り、そのために必要な支援を進めます。
- 文化博物館・郷土資料館などでの展示や催事内容の充実を図ります。

### ② 歴史文化遺産の周知と活用

- 郷土の歴史文化遺産に対する市民の理解を深め、それらが共通の財産として愛護され、次代に引き継がれるよう、学校や文化博物館、郷土資料館などにおいて教育や啓発に努めます。また、そのために地域の歴史文化に詳しい市民の協力を得ます。
- 各地域固有の伝統行事や習慣などの民俗文化が引き継がれていくよう、支援します。
- 歴史文化遺産を観光振興に積極的に活用します。そのため、パンフレットの作成、ホームページの充実、歴史文化遺産周辺の環境整備や案内機能の強化を図ります。

## 市民の取り組み

- 市や身近な地域の歴史文化にふれ、知識を深める。
- 市外の人たちをまちの歴史文化遺産に案内し、まちの歴史を知ってもらう。

## 市民の声

- 
-

## (5) 生涯スポーツ環境の充実

### 10年後のめざす姿

子どもから高齢者まで、誰もが気軽に生涯スポーツ活動を楽しみ、自己実現と健康増進が図られています。

### 現状と課題

- 市民が心身ともに健康で明るく豊かな生活を営むうえで、健康保持や体力向上、ストレス解消などの観点から、生涯スポーツ活動は重要な役割を担っています。
- 南丹市では、体育協会・スポーツ推進委員会を中心に競技団体や地域体育振興会、スポーツ少年団などによる活動があり、地域や各競技での生涯スポーツの取り組みも広がりつつあります。地域における生涯スポーツ活動としては、総合型地域スポーツクラブが設立され、誰もが気軽に参加できる活動が進められています。
- 今後は、さらに市民が利用しやすい施設の充実を図るとともに、総合型地域スポーツクラブの充実や各種スポーツ活動の振興、指導者の育成など、「誰もが」「いつでも」「身近に」「生涯にわたって」スポーツを楽しめるまちづくりをめざす必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
市営スポーツ・レクリエーション施設の利用者数	人	191,282	195,000	200,000



## 施策の方向

### ① スポーツ・レクリエーション施設の充実

- より活発なスポーツ・レクリエーション活動に対応できるよう、各スポーツ施設・設備の整備・充実とその有効利用を進めます。
- 利用者にとって、より使いやすい施設となるよう駐車場やトイレなどのきめ細かな改善を進めます。

### ② スポーツ・レクリエーション活動の振興

- 健康で生き生きとした暮らしにつながるよう、さまざまなスポーツ・レクリエーション活動の振興と普及に努めます。
- ジュニアスポーツの振興や優れた選手の育成と強化を目的とした競技スポーツの振興を図ります。
- 競技団体・学校・地域の連携を図り、誰もが気軽に参加できる総合型地域スポーツクラブの育成を進めます。
- これらスポーツ活動の発展のために、指導者の育成に努めます。

## 市民の取り組み

- 積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加する。
- 技能や経験を生かし、スポーツ活動の指導者として地域に貢献する。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市スポーツ推進計画（2018～2022年度）

## 市民の声

- 
-

## (6) 青少年の健全育成

### 10年後のめざす姿

家庭・学校・地域の連携により、青少年の協調性や思いやりの心が身につき、地域で活躍しています。

### 現状と課題

- 社会環境の変化に伴い、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。青少年一人ひとりが地域との関わりや世代間のふれあいが希薄になりつつあるため、地域ぐるみで青少年を育む環境づくりが求められています。
- インターネット・携帯電話の普及や深夜営業施設の増加などにより、青少年の健全育成を阻害する有害環境対策の重要性も高まっています。家庭や学校、地域が一体となり、環境浄化に向けた取り組みが必要です。
- 南丹市では、青少年育成協会と連携して、夏休み期間中のパトロールやあいさつ運動などの啓発活動など、青少年の健全育成に向けた取り組みを実施しています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
子ども会行事の参加人数（年間）	人	4,911	5,000	5,300

## 施策の方向

### ① 青少年活動の充実

- 青少年の学習活動やボランティア活動、地域活動への積極的な参加を促すとともに、各種講習会、研修会を開催し、地域で活躍するリーダーの育成を図ります。

### ② 青少年の健全育成

- パトロールや啓発活動など、家庭や地域との連携・強化を図り、非行防止や環境浄化に努めるとともに、青少年の豊かな人間性をはぐくむために、地域での見守り活動を推進します。

## 市民の取り組み

- 地域全体で子どもたちとのコミュニケーションを積極的に図る。
- 青少年を取り巻く環境の浄化に努め、非行防止やいじめなどの問題に取り組む。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市教育大綱－南丹市教育振興基本計画－（2016～2020年度）
- 南丹市子ども・子育て支援事業計画（2015～2019年度）

## 市民の声

- 
-

## 7. つながりのあるまちづくり【人権・コミュニティ・協働】

### (1) 人権の尊重

#### 10年後のめざす姿

誰もがかけがえのない個人として尊重され、お互いの個性や価値観の違いを認め合う相互理解と寛容のもとで、いきいきと生活できる共生社会が実現しています。

#### 現状と課題

- わが国では、同和問題、女性、子ども、高齢者、障がい者、在住外国人など人権に関わるさまざまな問題が存在しています。また、ドメスティック・バイオレンス（DV）や児童・高齢者への虐待、子どもたちの間でのいじめなどが深刻な社会問題となっています。
- 差別、虐待や暴力をなくし、すべての人の人権が守られる社会を築いていくためには、家庭・学校・地域社会・企業など、様々な場を通じた人権教育や啓発を推進する必要があります。
- 南丹市では、「南丹市人権教育・啓発推進計画」を策定し、計画に基づいた人権講演会や指導者育成などを進め、市全体の人権感覚の高揚を図っています。
- インターネットによる人権侵害やヘイトスピーチなど、新たな課題が顕在化しており、個別の人権課題に対処した法律が近年施行されるなど、多様化する人権課題に対してさらなる教育・啓発が求められています。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
人権講演会等における参加者の理解度	%	98	95以上	95以上
地域(集落)における人権研修会等の実施率	%	29.1	35	40

## 施策の方向

### ① 人権感覚の高揚

- 市民一人ひとりが人権尊重の理念に関する理解を深めることによって、自分の人権とともに他人の人権を守るという意識を身に付け、自らの課題として主体的に行動していける「人権感覚の豊かな社会の構築」に結びつく人権教育・啓発活動を推進します。
- 企業における人権教育や相談体制の確立など、人権を尊重した職場づくりが推進されるよう、企業への啓発活動に努めます。

### ② 学校教育における人権教育の推進

- 心身ともに成長過程にある子どものうちから人権意識を持てるよう、保育所、幼稚園や小中学校において、発達段階に応じた人権教育を進めます。

### ③ 人権擁護及び教育・啓発体制の充実

- 市民の人権教育・啓発活動を支援するとともに、市民がより主体的に活動を展開できるよう、南丹市人権教育・啓発推進協議会などと連携し、人権啓発推進委員をはじめとする人権啓発リーダーの育成を図ります。
- 市民相談体制の充実を図るとともに、各種の相談窓口の連携を強化し、課題の解決にあたって適切かつ迅速な対応に努めます。
- 市内に居住する外国人に対しては、住みにくさの要因を排除するよう努めます。
- 福祉の向上や人権啓発のための住民交流の拠点である各地域センターについては、住民ニーズに配慮して機能の充実や円滑な運営、施設の改善等を図ります。

## 市民の取り組み

- 身近な生活の中にある人権課題の解決に主体的にかかわりを持つ。
- 地域や職場において人権研修や学習活動を行い、みんなで人権感覚を高める。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市人権教育・啓発推進計画（2008～2017年度）

## 市民の声

○

## (2) 男女共同参画社会の推進

### 10年後のめざす姿

男女が性別にかかわらず、一人ひとりの多様な個性、互いの自分らしさを認め合って生活できる社会が実現しています。

### 現状と課題

- 性別にかかわらず、一人ひとりが個性を生かし、社会の様々な分野に参画することができる男女共同参画社会を実現するため、様々な意思決定過程における女性参画の促進や、市民・関係団体に対する情報提供、啓発活動を行う必要があります。
- 家庭や地域などでの固定的な性別役割分担意識に捉われることなく、だれもが男女共同参画について正しく認識できるよう、あらゆる場において広報・啓発をはじめ、教育・学習を進めていく必要があります。
- 南丹市では、女性や女性団体の活動が活発に進められていますが、依然として固定した分野に限られている現状があります。
- 平成27年4月に「南丹市男女共同参画推進条例」を施行し、各審議会等における女性の登用拡大を積極的に推進していますが、登用率は今なお低くなっています。
- 今後は、あらゆる分野で女性の積極的な参画を促していく必要があります。
- 男性と女性が対等なパートナーとしていきいきと活躍できるまちの実現のため、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及に向けた啓発や支援が必要となっています。

#### ■男女共同参画の状況

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
審議会等における女性の割合（％）	20.7	12.5	25.2	23.4	22.2

資料：人権政策課

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
審議会等における女性の割合	％	21.4	30	30

## 施策の方向

### ① 男女共同参画の意識づくり

- 男女共同参画社会の実現の基本は人権の尊重であるという認識のもと、さまざまな広報・研修会の実施などの啓発に努めます。

### ② 男女共同参画の環境づくり

- 男女がともに仕事や家事、育児、介護、地域生活との両立を図ることができるよう、ワーク・ライフ・バランスの普及啓発に努めます。
- DV、セクシャルハラスメントなど女性への暴力や人権侵害の実態把握に努めるとともに、相談窓口の充実を図ります。また、個々の事象の解決に向けた体制を府などと連携して確立するとともに、啓発などによってこれらの根絶をめざします。
- 女性の社会進出や地域での活躍を促す上で、市民が気軽に集い、情報交換できる場づくりを進めます。

### ③ 女性が活躍するまちづくり

- 市内で活動する女性団体の市域の全体交流を促進するために、活動支援の充実に努めます。
- 各種講座での託児サービスの提供など、女性が積極的に社会活動に参加しやすい環境づくりに努めます。
- 各種審議会、委員会などへの女性の登用拡大を積極的に推進します。

## 市民の取り組み

- 男女共同参画社会の実現に向け、協力し活動する。
- お互いを思いやる気持ちを持ち、家庭での役割を担い合うようにする。

## 具体化する部門別計画

- 南丹市男女共同参画行動計画（2009～2018年度）

## 市民の声

-

### (3) 地域コミュニティ活動の活性化

#### 10年後のめざす姿

市民一人ひとりが積極的に地域づくりに参加し、連帯感あふれる地域社会が形成されています。

#### 現状と課題

- 市民主体のまちづくりを進めるにあたって、自治会などの地域コミュニティは重要な役割が期待されます。また、長い時間をかけて各地域が培ってきた誇りときずなを重視し、地域コミュニティを維持・再生しながら、その活力を生かす地域づくりが必要です。
- 市内の全集落のうち「55歳以上の住民が50%以上を占める集落」が7割以上に達している現状で、急速な高齢化、過疎化の進行により多くの集落で地域活力が低下しています。
- 地域コミュニティの維持・再生・活性化のため、それぞれの地域単位、集落単位でのまちづくり活動や自治組織を支援し、「地域でできることは地域で解決する」住民自治の地域づくりを進める必要があります。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
地域自治組織の設立	地区	0	1	2



## 施策の方向

### ① 地域との協働の推進

- 各地域の集落や自治会等との積極的な対話と連携を図り、協働による各事業の推進に努めます。
- 地域のことを地域自らが決め、それを実行する地域自治組織の設立をめざし、地域特性を十分に踏まえたものとなるよう市民とともに検討を進めます。

### ② 地域づくりの支援

- 地域の実情に応じた自主的、主体的なまちづくり活動を支援するとともに、各地域で行われている各種イベントや事業の連携を進め、各集落の活性化を支援します。
- コミュニティ活動の拠点整備として、公共施設の活用を検討します。

## 市民の取り組み

- 
- 身近な地域の課題や活動に関心を持ち、自分たちでできることを考え、行動する。
  - まちづくり協議会や地域のコミュニティ活動に積極的に参加する。
- 

## 市民の声

- 
- -
-

## (4) 協働のまちづくりの推進

### 10年後のめざす姿

市民・事業者・行政がそれぞれの責任と役割を果たし、創意と工夫に満ちた協働のまちづくりが実践されています。

### 現状と課題

- 地域の抱える課題は高度化・複雑化しており、地域や行政のみでは解決が困難になってきています。様々なスキルを持つ多様な担い手が相互に連携することが、それらの課題を解決に導くことを可能にします。
- 南丹市では、多様な担い手をつなげる中間支援組織として、「南丹市まちづくりデザインセンター」が設置され、南丹市を中心に活動しているNPOやボランティア団体等を総合的に支援するとともに、市民活動に関心のある人や、これから活動を始めたい人への情報発信、活動の機会を提供することで、地域課題の解決や地域活性化を図っています。
- 南丹市には、京都美術工芸大学や明治国際医療大学、京都医療科学大学、京都建築大学校、京都伝統工芸大学校、公立南丹看護専門学校、佛教大学園部キャンパスといった多くの高等教育機関が立地しており、3,000人を超える学生が行き交う教育のまちとしての特徴があります。市内に居住している学生も多く、地域の活性化の一翼を担っています。現在は各大学等と連携して、地域イベントへの参加などの事業を進めています。
- 大学をはじめとする高等教育機関との連携は、まだまだ開拓していく余地があり、今後は教育分野のみならず、地域活動や地場産業への支援など、多様な分野で連携を深める必要があります。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
連携支援組織の設置	団体	0	1	1

## 施策の方向

### ① 市民主体のまちづくり活動の支援

- まちづくりに貢献するNPOや地域住民が主体となって行う活動を積極的に支援します。
- 子育て、福祉、文化・スポーツ、産業など、まちづくりに関わる多分野で経験、知識や技能を発揮し、活躍できるNPO、ボランティアなどまちづくりの多様な担い手の育成に努めます。
- 生涯学習や地域活動、福祉活動、経済活動などさまざまな活動を通じた市民交流を促進します。
- 市民主体のまちづくり活動を支援するため、公募・審査を経た助成などを実施します。

### ② 多様な主体との協働の促進

- 市民団体、企業、学校、地域等と行政を中間的な立場でサポートし、様々な取り組みを効果的に結びつける中間支援の組織を市民と共に構築し推進します。
- 企業のまちづくり、まちおこしへの参画をさらに進めるため、商工会などを通じた官民一体の協働の取り組みや協議の機会を増やします。
- 大学等や企業と行政との連携を円滑に進めるための、コーディネートを行う連携支援組織の設置を図ります。
- 産学官協働の事業推進を継続的に進めながら、発展的にまちづくりの主要事業として育てるために定期的な連携会議を設置します。

### ③ 高等教育機関との連携

- 地域と各高等教育機関が、まちづくりにおいて交流する仕組みや活動に行政も積極的に関わり、お互いにかかれた教育機関・開かれた地域づくりを支援します。
- 大学等の教育機能を地域にかかれたものとするため、市民を対象とした大学内外での公開講座の開催に協力します。また、大学等の教員や学生が地域に出向き、市民の学習活動や健康づくり活動などを支援する取り組みを促します。
- 大学等の施設・設備が地域へ柔軟に開放されるよう促します。

## 市民の取り組み

- 
- 自分の興味や経験に応じて、まちづくり活動を積極的に進める。
  - 経済活動や生涯学習活動において大学などとの連携を積極的に進める。
-

## (5) 交流活動の推進

### 10年後のめざす姿

国内外のさまざまな地域との交流が盛んに行われています。

### 現状と課題

- 交流の拡大が人を集め、文化をはぐくみ、まちに活力と魅力をもたらします。そのため、経済やスポーツ、文化・芸術など、あらゆる分野を通じて多面的な交流を推進していくことが必要です。
- 南丹市は、国内外の都市や人々との交流事業も多彩に推進しています。また、美山地域では小学生を対象とした山村留学が行われています。今後も、南丹市を愛する多くの人々との交流を大切にしていきたいことが求められています。
- 市内に住む外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、南丹市では、さまざまな言語の広報や生活ガイドを発行するなど、共生に向けた環境づくりを進めています。
- 今後も、市民が主体となった国際交流活動をさらに促進するとともに、市民一人ひとりが国際的な視野に立ち、互いに人権や文化を認め合い、尊重し合う多文化共生の地域づくりが求められています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後

## 施策の方向

### ① 地域間交流の推進

- 豊かな自然環境を生かした山村留学を継続し、都市と農村の交流による地域の活性化を図るとともに、多くの子どもたちが、南丹市を第二のふるさととして大切にしてもらえるまちづくりを進めます。

### ② 国際交流の推進

- 国際交流を進め、南丹市の自然や文化、暮らしを愛する世界の人々と国境を超えてふれあう、多彩な交流のあるまちづくりを進めます。また、市民の国際理解を深めるため、国際交流に関するワークショップや語学教室を開催します。
- 市民による国際交流組織の支援を図ります。
- 在住外国人に対し、学習環境や相談事業・情報提供の充実に努めるなど、快適に暮らせる生活環境の整備に努めます。

## 市民の取り組み

- 
- 国際理解への認識を高め、進んで国際交流活動に参加する。
-

## 8. 効率的・効果的なまちづくり【行財政運営】

### (1) 持続力のある財政運営の推進

#### 10年後のめざす姿

歳入・歳出のバランスが取れた健全な財政運営が行われています。

#### 現状と課題

- 南丹市では、これまで行財政の効率化や経費の節減に努め、持続可能な財政基盤の構築に取り組んできました。しかし、人口減少や少子高齢化の進行による社会保障費の増加や公共施設等の老朽化に伴う維持更新費等といった大きな課題を抱えていることに加え、合併算定替終了に伴う地方交付税の減少が見込まれるなど、今後の財政の見通しは依然として厳しい状況にあります。
- 南丹市では、多くの公共施設において指定管理者制度を導入しています。今後も市民サービスの向上や行政運営の効率化を図るため、民間活力の導入を積極的に推進する必要があります。
- 市民ニーズの多様化に伴い、市域を越えた質の高い行政サービスが求められており、広域的な取り組みや近隣市町との連携をさらに進めていく必要があります。
- 南丹市総合振興計画の実効性を確保するため、「南丹市中期財政計画」に基づき、持続力のある計画的な財政運営に努めています。

#### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
パブリックコメント1件あたりの意見数	件	2	5	6

## 施策の方向

### ① 健全な財政運営の推進

- 南丹市総合振興計画の実効性を確保するため、「南丹市中期財政計画」に基づき、財政基盤の確立に向けた計画的な財政運営に努めます。

### ② 行財政改革の推進

- 事務事業については、その必要性や費用対効果を検証しながら見直しを行います。
- 地域の活力と民間活力を生かし、財政の効率化やサービスの向上を図るため、南丹市の現状や地域特性に合った地域への委託及び民間委託や指定管理者制度の導入などを行います。
- 行政評価の結果を反映できる実施体制を整え、各種施策に反映させることにより、市民満足度や成果重視の視点にたった行政サービスを進めます。また、評価にあたっては、若者を始めとする市民や有識者の評価を積極的に取り入れるよう努めます。

### ③ 本計画の施策の進行管理

- 本計画の施策の進行管理に際しては、その妥当性・客観性を担保するためK P Iの効果検証とあわせて、計画に示す目標指標を市民とともに5年ごとにチェックし、達成度の施策評価をしていきます。

### ④ 広域連携の推進

- 府内外の他自治体と広域で連携することにより事務事業の効率化が図れる場合には、広域連携・協力体制を構築していきます。

## 市民の取り組み

- 
- 日頃から市の行財政状況に関心を持って、行政との対話や連携に努める。
  - 公募委員へ積極的に応募し、各事業の評価を行う場に参加する。
  - アンケートやパブリックコメントへ意見を寄せる。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 南丹市中期財政計画（2014～2017年度）
  - 第3次南丹市行政改革大綱（2017～2021年度）
  - 南丹市公共施設等総合管理計画（2017～2026年度）
-

## (2) 行政サービスの向上

### 10年後のめざす姿

市民生活に最も身近な行政機関として、良質な市民サービスが提供されています。

### 現状と課題

- 厳しい社会経済情勢や市民ニーズの多様化を背景として、行政はより効率的な組織運営が必要とされています。
- 市民の視点に立った行財政運営ができるよう、職員の意識改革や能力向上とその力を最大限に発揮できる体制づくりが求められています。
- 行政は、市民と情報を共有しながら市政を運営していくことが求められています。情報公開を推進し、市のさまざまな活動を市民に説明する必要があります。
- 行政が保有する個人情報と適正に取り扱い、また、自己に関する個人情報の開示・訂正等を請求する権利を保障することによって、個人の権利利益の保護を図る必要があります。
- 公共施設については、保有施設の総量や個々の維持管理経費の圧縮を図りつつ、施設が提供する行政サービスの維持・充実を図ることが求められています。

### 目標指標

指標名	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
行政サービス（職員）への満足度	%			
広報広聴会参加者数	人	278	310	330



## 施策の方向

### ① 行政組織の活性化と職員の育成

- 市民にとってわかりやすく、迅速な対応ができ、効率的な組織づくりにより、行政サービスの向上を図ります。また、職員定員の適正な管理を行います。
- 各職員が市全体を見渡し、市行政の一体感を高めつつ、各地域の現状や課題及び地域固有の市民ニーズを的確に把握し、適切に職務遂行するよう意識改革を図ります。
- 地方分権に対応した問題意識を持ち、専門性を高め、積極的、主体的に行動する職員を育成します。また、市民や地域の活力を引き出し、相談支援・指導や各種の調整ができる人材となるよう資質の向上を図ります。

### ② 情報公開と電子自治体の推進

- 市政情報については、広報誌やホームページ、CATVなどそれぞれの特性を生かして、市民にとってわかりやすく利用しやすい情報を適時提供できるように努めます。
- 市の財政状況など、行政用語を多く用いる複雑な情報についても、可能な限りわかりやすい表現に努め、より多くの市民に現状を知ってもらうよう努めます。
- 情報公開条例及び個人情報保護条例の適正な運用に努めます。
- 行政手続や庁内情報システムの電子化を推進します。

### ③ 施設配置の見直しと庁舎の整備

- 各地域にある施設について有効活用を図るため、類似の施設について、別機能への変換、統廃合など施設配置の見直しを進めます。また、空きスペースを市民活動へ開放するなど、地域活性化のための活用を図ります。
- まちづくりの拠点である庁舎（本庁・支所）については、市民サービスの向上、行政機構と職務配置、防災拠点としての役割などを勘案し、機能や規模の上で、これらに対応した庁舎の整備を引き続き検討していきます。

## 市民の取り組み

- 
- 南丹市の市政について、常に問題意識を持って参画する意識を持つ。
- 

## 具体化する部門別計画

- 
- 第3期南丹市行政改革大綱（2017～2021年度）
-

## 第4章 施策連携プロジェクト

---

施策連携プロジェクトの説明 挿入予定

■基本施策と施策連携プロジェクトの相関図

	プロジェクト1 健康(けんこう)都市 なんたんプロジェクト	プロジェクト2 地域とともにある学校 づくりプロジェクト	プロジェクト3 コミュニティ活性化 プロジェクト	プロジェクト4 まちなか活性交流 拠点プロジェクト	プロジェクト5 なんたんまるごと体験交流 ツーリズムプロジェクト	プロジェクト6 バイオマスを中心とした地球に やさしい南丹グリーンプロジェ クト	プロジェクト7 なんたんブランド プロモーションプロジェクト
<b>1. 健やかで幸せに暮らせるまちづくり</b>							
(1)健康づくりの推進	●						
(2)地域福祉の推進	●		●				
(3)子育て支援の充実		●					
(4)高齢者福祉の充実							
(5)障がい者福祉の充実							
(6)地域医療体制の充実	●						
(7)社会保障の充実	●						
<b>2. 美しく快適なまちづくり</b>							
(1)都市計画の推進							
(2)市街地の充実				●			
(3)景観の保全・形成							
(4)公園・緑地の整備							
(5)住宅・住環境の充実							
(6)上水道の充実							
(7)下水道の充実							
(8)河川環境の整備							
(9)道路網の確立							
(10)公共交通の充実							
(11)情報通信基盤の充実							
<b>3. 自然と共生したまちづくり</b>							
(1)自然環境の保全					●		
(2)生活環境の向上							
(3)地球環境の保全					●	●	
(4)資源循環型社会の形成					●	●	
<b>4. 安全・安心なまちづくり</b>							
(1)災害対策の充実			●				
(2)防犯活動の強化							
(3)交通安全対策の強化							
(4)消防・救急体制の充実							
(5)消費生活の安定と向上							
<b>5. 活力とにぎわいのあるまちづくり</b>							
(1)観光の振興					●	●	●
(2)エコツーリズムの推進					●		
(3)農業の振興					●	●	●
(4)林業の振興					●	●	●
(5)工業の振興					●		●
(6)商業の振興		●		●	●		●
(7)雇用の安定							
<b>6. 学び楽しむまちづくり</b>							
(1)家庭教育や幼児教育の充実		●	●				
(2)学校教育の充実		●					
(3)生涯学習の推進							
(4)伝統文化の継承					●		
(5)生涯スポーツ環境の充実							
(6)青少年の健全育成		●					
<b>7. つながりのあるまちづくり</b>							
(1)人権の尊重							
(2)男女共同参画社会の推進							
(3)地域コミュニティ活動の活性化	●	●	●	●			
(4)協働のまちづくりの推進	●	●	●	●			●
(5)交流活動の推進							
<b>8. 効率的・効果的なまちづくり</b>							
(1)持続力のある財政運営の推進							
(2)行政組織の活性化と職員の育成							
(3)行政サービスの向上							

# プロジェクト1 健幸(けんこう)都市なんたんプロジェクト

## 現状と課題

- 南丹市では、高齢化率が全国平均を大きく上回っています。その中でも、地域によって大きな違いがあり、65歳以上が50%以上を占める限界集落や、55歳以上が50%以上を占める準限界集落が多く存在しています。人間の一生を考えると、高齢者と言われる65歳になってからも、約20年は生活していくことになり、この20年をどのように元気で健康に暮らしていくことが重要となります。
- これまでから各部署で取り組んできた施策・事業を連携し、相乗的な効果を生みだし、「生きがづくり」を進め、健康寿命の延伸を図る必要があります。

## プロジェクトの方向

### ○生きがづくりの推進に向けて

#### <取り組み項目>

- ・ 民生児童委員、ふれあい委員の活動しやすい環境の整備
- ・ 地域で交流の拠点となる場所を位置づけ、子どもから高齢者までの世代間交流の推進
- ・ 高齢者の培ってきた知識と技術を活用した学校教育や社会教育への活用
- ・ 高齢者の知識や技術を活用した新たな起業の取り組み
- ・ 地域でのリーダー人材の養成
- ・ 地域と行政の協働による地域づくり

## プロジェクト2 地域とともにある学校づくりプロジェクト

### 現状と課題

- 学校・家庭・地域が連携し、さらに事業者や高校・大学等とも連携した南丹市の特色を生かした教育の推進が求められていますが、現状では、学校が地域に投げかけて、地域や保護者が対応するというような一方通行的な形での学校を支える仕組みになっています。
- 「教育＝学校」という考えではなく、また小学校再編による地域の学校としての希薄化した雰囲気を払しょくするため、地域の小学校としてのあり方を見直し、改めて地域の学校としての意識づけを図り、それぞれが主体的に取り組む学校・家庭・地域の連携が必要となっています。
- また、行政においても教育部局だけでなく、地域とともにある学校づくりが、地域コミュニティの形成であり、協働のまちづくりであることから、全部局が関わる仕組みづくりも重要です。
- 学校では、地域の情報に疎いところがあり、地域やさまざまな主体とつなぐ専門的なコーディネーターの設置について、検討していく必要があります。

### プロジェクトの方向

#### ○地域の関わりを具現化する取り組み

##### <取り組み項目>

- ・地域とともにある学校づくりに向けた定期的なワークショップの開催による当事者意識の醸成
- ・地域コーディネーターの配置による地域連携の促進
- ・市の各課の授業への出前講座による連携の具現化
- ・商工会との後継者の育成という観点からの連携
- ・社会福祉協議会との地域福祉という観点からの連携
- ・高等学校、大学等との連携・活用強化

## プロジェクト3 コミュニティ活性化プロジェクト

### 現状と課題

- 日本全体が人口減少社会に突入し、高齢化も進展しています。南丹市では、現状においても限界集落や準限界集落が多く存在しています。このような状況の中で、これからの地域のあり方を考えるときに住民同士の結びつきやつながりなど、地域コミュニティがこれまで以上に重要となってきます。
- しかしながら、時代の変化とともに価値観の多様化等により、地域のつながりが希薄化し、活動的な人もいれば、地域の課題解決になんの興味も示さない人もいるのが現状です。また、自治会などの役を嫌がる人が増え、担い手がないなどの人材不足の面も出てきています。
- 地域ごとの特性が大きく異なる南丹市においては、地域コミュニティの範囲としては顔の見える範囲、旧小学校区単位程度で、取り組みを進めていく必要がありますが、美山町の振興会制度を他の地域にそのまま広めるのではなく、その地域にあった組織や体制を構築しなければなりません。
- 地域コミュニティは、地縁型のコミュニティになりますが、一方で、「南丹市市民参加と協働の推進に関する条例」を制定に協働の取り組みを推進してきたことから、人口1万人当たりのNPO法人数では京都市に次いで多いなど、テーマ型のコミュニティ活動は活発化しています。
- 地域コミュニティとNPO法人や市民団体などのテーマ型コミュニティを連携させ、相乗効果を高めるとともに、リーダー人材の育成を進め、新たな地域コミュニティの構築を図ります。

### プロジェクトの方向

#### ○地域の絆・つながりの強化

##### <取り組み項目>

- ・「地域の特色などをPR（地域内、地域外）」
- ・リーダー人材の育成・Iターン者の活用
- ・若い世代の参画誘導
- ・子どもたちの郷土愛の醸成
- ・飲みにケーションの推進
- ・ちょっと立ち寄れる拠点づくり
- ・地域人材の活用手法検討

## プロジェクト4 まちなか活性交流拠点プロジェクト

### 現状と課題

- 都市からの受け入れ窓口であるJR園部駅と「まちなか」が離れています。移動手段としては、車が多く、JR園部駅の周りでは駐車場が多い現状があります。また、市民の消費行動の多様化により、「まちなか」の状況も大きく変化しています。
- これからの「まちなか」においてのにぎわいを創出するためには、駅の周りや「まちなか」に交流の核となる拠点をつくり、それらの拠点をつなぎ人を循環させることが重要です。
- これまでから各部署で取り組んできた施策・事業を連携し、相乗的な効果を生みだし、新たな「にぎわいづくり」を創出するため、交流拠点の整備を図る必要があります。

### プロジェクトの方向

#### ○交流活性拠点の整備推進

##### <取り組み項目>

- ・駅前に高齢者から子どもまでが交流できる拠点の整備
- ・若者や子どもにとって魅力的な場づくり
- ・子育てサークルなどの市民活動との連携推進
- ・新たな八木駅舎を活用した交流の場の整備

## プロジェクト5 なんとんまると体験交流ツーリズムプロジェクト

### 現状と課題

- 南丹市では、観光入込客数が増加傾向にあり、平成27年では190万人であったが平成28年では266万人と大幅に増加しました。
- 平成22年に「南丹市美山エコツーリズム推進協議会」が発足し、平成26年には全国で6番目、近畿地方では初のエコツーリズム推進全体構想が認定され、「地域の自然・歴史・文化資源の保護」「地域固有の資源を生かした観光の成立」「地域経済の活性化」という3つを目的としたエコツーリズムを推進しています。しかしながら、現状、エコツーリズムは、美山町での取り組みという意識が定着しており、他の地域の資源とも連携させることで、相乗効果を高める取り組みが必要です。
- また、時代の流れとともに旅行のあり方も変化し、団体のバス旅行ではなく、農業などの体験が伴う民泊など、いわゆる着地型観光のニーズが高まっています。
- 現在の観光客一人あたりの市内消費額は、京都市の約10,000円に対し、南丹市は約1,000円と10倍の差があります。これは、南丹市の観光が日帰りや通過途中の立ち寄り観光となっていることや、宿泊施設が限られていることなどが考えられます。
- そこで、着地型観光を取り入れ、市内の観光資源の体験などを連動させることで、回遊性を高め、市内での宿泊を伴った観光としていくことが重要です。また、民泊の規制が緩和されていることから、農家民泊を推進し、農業の6次産業化による所得向上を図るとともに宿泊施設の確保にもつなげていく必要があります。
- このような取り組みの中では、行政主導では、難しいところがあり、民間活力の導入が必須です。民間のアイデアで魅力的な観光ツアーを企画・運営し、地域経済を活性化させることで地域の活性化を図り、行政も協働することで観光を通じたまちづくりを進めていきます。

### プロジェクトの方向

#### ○地域の活性化と地域経済の活性化につながる取り組み

##### <取り組み項目>

- ・ 京都丹波高原国定公園の活用
- ・ 観光施設の活用
- ・ 事業所の活用
- ・ 工芸作家の活用
- ・ 農林水産業の活用
- ・ 文化財等の活用
- ・ インバウンドの誘導



## プロジェクト6 バイオマスを中心とした地球にやさしい南丹グリーンプロジェクト

### 現状と課題

- 南丹市は、2015（平成 27）年度に「南丹市バイオマス活用推進計画」を策定し、国の 7 府省（内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省）による「バイオマス産業都市」の選定を受けました。バイオマス産業都市とは、地域のバイオマスの原料生産から収集・運搬、製造・利用までの経済性が確保された一貫システムを構築し、地域のバイオマスを活用した産業創出と地域循環型のエネルギーの強化により、地域の特色を生かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまちづくりを目指す地域のことで、選定された地域については、関係 7 府省が連携して事業化プロジェクト実現への支援が行われます。
- バイオマスの利用状況については、家畜排せつ物はすべてたい肥利用され、食品廃棄物はメタン発酵処理やバイオディーゼル燃料化を進めています。しかしながら、木質バイオマスについては、多くが未利用な状況となっています。
- 市内にある、さまざまなバイオマスを活用し、施策を連携させることで資源循環を通じた地域の活性化を図り、人の流れを創出するとともに経済を循環させる取り組みに発展させる必要があります。

### プロジェクトの方向

- 地域資源を生かしてさまざまなバイオマスの取り組みを戦略的に推進するとともに、これらの取り組みを環境学習や観光振興、エコツーリズムなどと併せて行うことで、地域の活性化に繋げ、地球環境にやさしい総合的な南丹モデルとして推進します。

#### <取り組み項目>

- ・資源循環によるモデル事業の導入
- ・自然エネルギーの公共施設への導入の検討
- ・自然エネルギーのさらなる啓発、普及促進
- ・森林資源、木質バイオマス活用拡大の検討
- ・バイオマス事業の環境学習や観光振興、エコツーリズム等への活用

## プロジェクト7 なんとんブランドプロモーションプロジェクト

### 現状と課題

- かやぶきの里やるり溪などの観光地のほか、豊かな自然や歴史文化、ブランド京野菜の産地、伝統工芸などのものづくりなど、多様な地域資源が存在している。しかしながら、全国区の知名度となっている資源は少ない。また、各4町が異なる特徴や魅力を持ち、それぞれの印象が強い本市では、「南丹市」という名前が対外的に浸透しきれていないところがあるため、平成29年3月に「南丹市シティプロモーション戦略」を策定し、南丹市のイメージや認知度、知名度の向上に向けた取り組みを進めています。
- 何もないところから作り上げるのではなく、各4町の特徴や長所を伸ばし、これまでから存在していた地域資源を磨き、それぞれを高めることで、全体として「なんとんブランド」として確立し、全世界に向けて発信していく。

### プロジェクトの方向

- 市内にある資源を高め、全体として「なんとんブランド」を確立する

#### <取り組み項目>

- ・京野菜の優良産地であることを発信し、地域の価値を高める。
- ・京野菜を6次産業化へつなげる。
- ・京野菜の里として、体験作業との連携を図る。
- ・丹波ブランドとの連携による「なんとんブランド」の発信
- ・民間活力を生かした「なんとんブランド」の発信